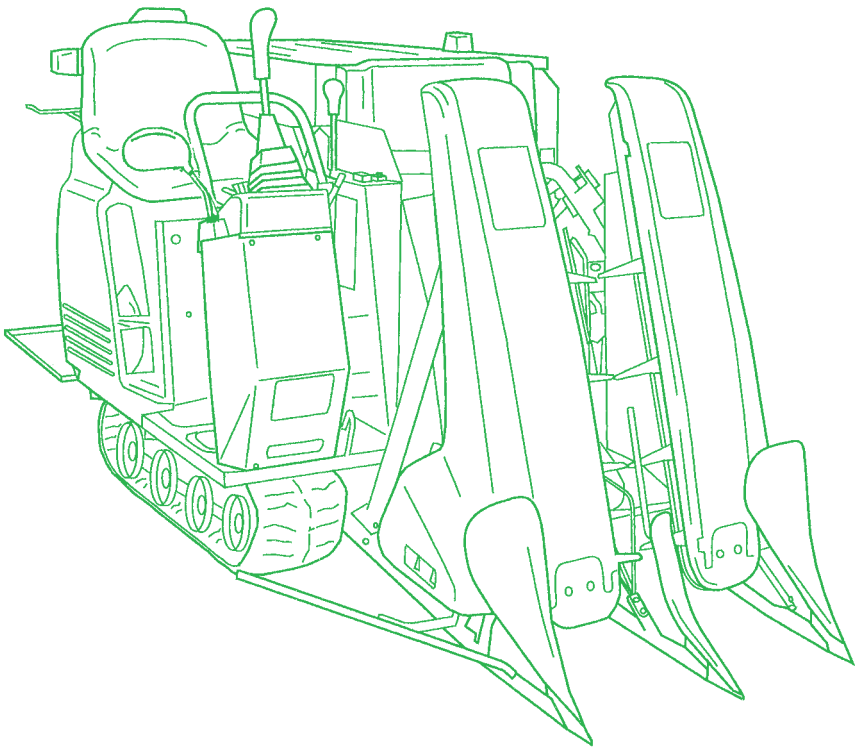
コンバイン

取扱説明書

VM7



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

このたびはコンバインをお買いあげいただき誠にありがとうございます。

●はじめに

この取扱説明書は機械の正しい取扱いかたと簡単なお手入れおよび守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。

ご使用まえにこの取扱説明書をよくお読みいただき安全で快適な作業をしてください。

・お読みになった後も身近な所に保管し，いつでも読めるようにしてください。
・また，この機械を貸与または譲渡される場合は，この取扱説明書を機械といっしょにお渡しください。

・本書では，安全上重要な事項を⚠で示し，次のように表示しています。必ず守ってください。

⚠危険	その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告	その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠注意	その警告に従わなかった場合は，ケガを負うおそれのあるものを示します。

・なお，この機械の品質・性能向上あるいは安全のために，使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容およびイラストなどの一部が，機械と一致しない場合がありますのであらかじめご了承ねがいます。

●機械の使用目的について

・機械は稲・麦の収穫作業に使用してください。
・上記作業以外には使用しないでください。
・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造した場合は保証の対象になりません。
（詳細は保証書をご覧ください。）

こんなとき，こんなことが知りたいとき，ここを見てください！

この取扱説明書は，次のように構成されています。まず，**安全作業のために**からお読みいただき，基本事項から操作，点検まで機械の正しい取扱い方を理解してください。

ページ

● **安全な作業をするための注意事項は？** **安全作業のために** 安全作業説明編

安全な作業をしていただくために，安全に関する基本事項，表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）について説明しています。よく読んで必ず守ってください。

● **使用前に知っておかなければならないことは？** **ご使用まえに** 1

機械の概要「**仕様（装備）**」等について説明しています。

● **各部のはたらきを知るには？** **各部のはたらき** 4

各部の主な名称，操作レバー，装置の取扱いを説明しています。

● **コンバインを動かすには？** **運転のしかた** 19

運転前の点検：作業前の点検項目と内容について説明しています。必ず実施してください。
運転操作のしかた：エンジンの始動，走行のしかた，自動車への積込み・積降ろしのしかた等を説明しています。

● **収穫作業を行うには？** **作業のしかた** 27

コンバイン作業の基本操作を説明しています。作物の条件やほ場条件にあった機械の調整をして，上手な収穫作業をしてください。

● **自動装置を使用して作業するには？** **自動装置について** 42

各自動装置の取扱いについて説明しています。

● **機械を長もちさせるには？** **手入れのしかた** 44

機械をいつも正常な状態に保つために，手入れのしかたについて説明しています。
「**定期点検整備表**」に従って保守，点検してください。

● **機械を3ケ月以上格納するときは？** **長期格納のしかた** 70

機械を長期に格納するときの手入れのしかたについて説明しています。

● **故障かなと思ったら？** **不調時の処置** 73

作業中のトラブルや不調，異常を感じた時はすぐ原因を調べ処置してください。

● **諸元・電気配線図・関連部品は？** **付　　表** 79

機械に係る諸元表・消耗部品等を一覧表で説明し，また，取扱説明書にでてくる専門用語を解説しています。

もくじ

安全作業のために……(安-1)～(安-22)

(安全作業説明編)

ご使用まえに……1

1．保証とサービスについて…… 1
2．仕様（装備）について…… 2
3．用語について…… 2
4．小型特殊自動車について…… 3
　1．小型特殊自動車の届出…… 3
　2．公道走行するために…… 3

各部のはたらき……4

1．各部の名称…… 4
2．運転装置の取扱い…… 5
　1．スイッチ・計器関係…… 5
　2．ペダル・レバー関係…… 8
　3．電装関係……16

運転のしかた……19

1．運転まえの点検……19
2．エンジンの始動と停止……21
　1．エンジン始動のしかた……21
　2．エンジン停止のしかた……22
3．走行・停車のしかた……23
　1．走行のしかた……23
　2．停車のしかた……23
4．自動車への積込み・積降ろし……24
　1．自動車・アユミについて……24
　2．コンバインの取扱い……25
　3．軽トラックへの積込み……25
5．ほ場への出入り……26
　1．ほ場への出入りのしかた……26

作業のしかた……27

1．作業まえの準備……27
　1．作物の条件について……27
　2．ほ場の条件について……27
　3．ほ場の準備……28
　4．機械の準備……28
2．刈取り作業のしかた……31
　1．刈取り操作の手順……31
　2．ほ場の刈取り手順……32
　3．モミ袋の交換のしかた……36
　4．作業に適した調整のしかた……36
　5．トルクリミッタの取扱い……37
　6．手こぎ作業……38
　7．エンジン停止スイッチの取扱い……39
　8．夜間作業……39
　9．警報装置について……40
　10．刈取り作業終了後の取扱い……40
3．ワラ処理部の取扱い ……41
　1．カッタ作業……41
　2．排ワラ作業……41

自動装置について……42

1．こぎ深さ自動制御……42
　1．運転装置……42
　2．こぎ深さセンサの調整……43
　3．こぎ深さ自動制御が使えない条件……43

手入れのしかた……44

1．定期点検整備……44
　「定期点検整備表」……44
2．給油・注油のしかた……46
　「給油・注油表」……46
　1．燃料の補給……47
　2．エンジンカバーの開閉のしかた……47
　3．エンジンオイルの点検・交換……48
　4．エアクリーナのオイル点検・交換……49
　5．トランスミッションケースのオイル点検・交換 …49
　6．カウンタケースのオイル点検・交換……50
　7．スターホイルギヤケース……50
　8．こぎ深さギヤケース……50
　9．脱こくギヤケース……51
　10．アイドラのグリスアップ……51
　11．注油個所 ……51
3．各部の点検と掃除のしかた……53
　1．エアクリーナの掃除とオイルの交換……53
　2．燃料ストレーナの点検と掃除……53
　3．電気配線の点検と掃除……54

4．バッテリの点検と充電……54
5．脱こく内部の掃除……57
6．引起しケースカバーの外しかた……59
4．各部の点検と部品交換のしかた……60
1．爪（タイン）の交換のしかた……60
2．刈刃の交換のしかた……60
3．受網点検，ワラ切カマ（切刃）の交換 ……61
4．こぎ歯の点検と交換……62
5．ホース類の点検と交換……62
6．点火プラグの点検と交換……63
7．カッタ刃の点検と交換……63
5．各部の点検と調整のしかた……65
「ベルトの点検と調整」
1．エンジン～カウンタ駆動　エンジン～脱こく入力軸・トーミ軸の駆動ベルト……65
2．トーミ軸～1番ラセン軸・2番ラセン軸駆動ベルト　1番ラセン軸～揺動軸・駆動ベルト ……66
3．走行駆動ベルト……67
4．カッタベルト……67
「チェンの点検・調整」
5．脱こくフィードチェン……68
6．フィードチェン駆動チェン……68
「クローラの点検・調整」
7．クローラ……69
長期格納のしかた ……70
1．機械の掃除と洗浄……70
2．錆止めと注油……70
3．エンジンの手入れ……70
4．点検・整備……71
5．格納……71
6．再使用にあたって……72
不調時の処置 ……73
1．エンジン部……73
2．走行・運転操作部……74
3．電気・自動制御部……74
4．刈取部……75
5．脱こく部……76
6．ワラ処理部……78
付　表 ……79
1．主要諸元……79
2．電気配線図……80
3．ベルト一覧表……82
4．主な消耗部品……83
1．爪（タイン）関係……83
2．ヒューズ，ランプ……83
3．刈刃・カマ（切刃）関係……84
4．カッタ関係……84
5．アタッチメント（別売り）……85
6．潤滑油について……86
1．エンジンオイルについて……86
2．ギヤオイルについて……86
3．三菱農機(純正油)マルチオイル……86
7．コンバイン関連商品……87
8．用語解説……88

（安全作業説明編）

安全作業のために

ページ

１．安全作業のしかた……（安-1）

⚠作業前に次のことを守りましょう！……（安-1）

⚠安全作業のポイント……（安-2）

⚠作業前の一般的な注意事項……（安-4）

⚠点検・整備及び掃除をする時は……（安-5）

⚠エンジンを始動する時は……（安-9）

⚠路上走行をする時は……（安-10）

⚠自動車への積込み・積降ろしをする時は……（安-12）

⚠ほ場で作業をする時は……（安-13）

⚠１日の作業が終わったら……（安-16）

⚠長期格納する時は……（安-17）

２．表示ラベルについて……（安-18）

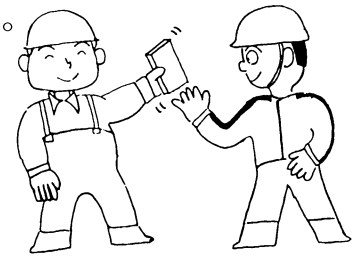
安全作業のために

1．安全作業のしかた

・安全上の重要な事項を ⚠危険 ⚠警告 ⚠注意 の３段階に分類して説明していますので，よく読んで理解し安全作業に努めてください。

・なお，この項の安全作業の説明は**コンバイン全般**についてのものです。これ以外にも本文の中でも同様に説明していますので，よく読んで必ず守ってください。

⚠作業前に次のことを守りましょう！

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆このような人は運転しないでください。 ●酒気をおびた人 ●妊娠している人 ●16才未満の人 ●指導者のいない運転未熟練者 ●過労・病気・薬物の影響，その他の理由により，正常な運転操作ができない人 ◆運転する人は健康に気をつけて適当な睡眠と休けいをとってください。	誤操作しやすく思わぬ事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆作業に合ったキチンとしたものを着用してください。  	このような服装は衣服が回転部に巻込まれたり，足をスベらせたりして思わぬ事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆機械を他人に貸す場合は取扱説明書も合わせて貸して，安全な作業ができるよう説明してください。 	借りた人が不慣れなため，思わぬ事故を引起こすことがあります。

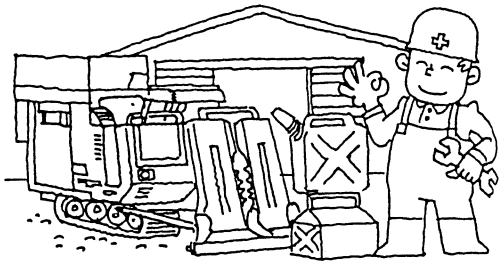
安全作業のポイント



- 取扱説明書，機械のラベルをよく読んでから運転をする

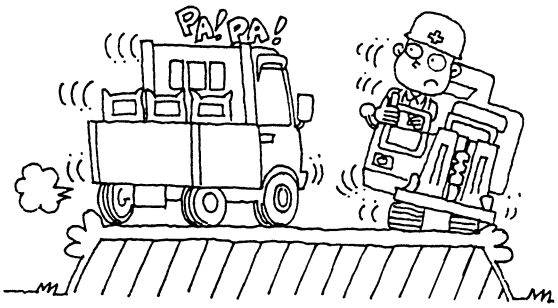
始業・点検　準備点検

- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する
- 機械に貼ってあるラベルがなくなったり，汚れたりして読めなくなったら新しいラベルに貼り替える
- エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲を掃除する
- バッテリコードや電気配線，燃料ホースを点検する
- 集中注油作業時は，運転者以外の人を機械に近づけない
- 給油はエンジンが冷えているときに行う
- 燃料補給時はエンジンを停止し，火気を近づけない
- 方向指示灯などの保安部品の作動を確認する
- 刈取部を上げて掃除や点検をするときは油圧を固定して刈取部の下に固定脚を置く
- 機械は改造しない
- 油脂類の廃却は，廃却設備のある所で処理する



エンジン始動

- 始動前にすべてのカバーを取付ける
- 駐車ブレーキをかけ，各操作レバーを《N》（中立）または《切》にする
- 屋内で始動するときは窓や戸を開けて換気をする
- 機械の周囲から人を遠ざける
- エンジンの始動はシートに座って行う
- 始動のときは周囲の人に「合図」をする



走行・運転

- 刈取部先端部にバンパを取付ける
- ナローガイド（サイドデバイダ）を収納する
- 機械に子供等，人や物をのせない
- 発進時は周囲をたしかめる
- 走行時の旋回は低速で行う
- 後進時は後方を確認する
- 急発進，急ブレーキ，急旋回はしない
- わき見運転や手放し運転をしない
- 脱こく・刈取クラッチを《切》にする
- 運転中は子供等，人を機械に近づけない

道路（公道）走行

- ナンバープレートの交付を受ける
- 運転免許証を携帯し，交通法規を守る
- 取扱説明書で指定された作業機以外は取外す
- 前後左右を確認し，低速車線を走る
- 夜間走行は前照灯をつける（作業灯は消す）
- 走行中に飛び乗り，飛び降りはしない
- 機体後方の後方操作部で操縦しない

狭い農道・凸凹道・坂道の走行

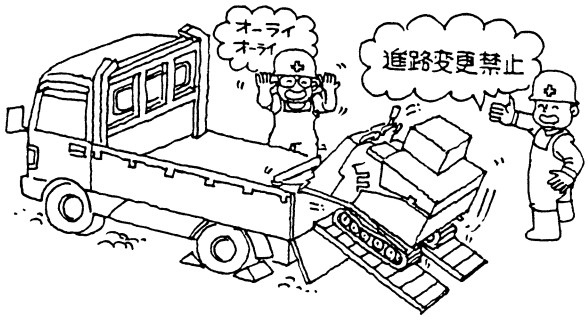
- 速度を落として走行する
- 対向車を避けるとき，端に寄りすぎない
- 軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しない
- 急な坂道でのギヤ変速操作はしない
- 下り坂では速度を下げてエンジンブレーキを使用する
- 急傾斜地は走行しない
- 坂道での旋回は低速で行う

停車・駐車

- 平坦な場所で刈取部を下げて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する
- 傾斜地では駐車しない
  （やむを得ず駐車するときは歯止めをする）
- 機械を離れるときはスタータスイッチよりキーを抜取る

自動車への積込み・積降ろし

- アユミは強度，幅，長さ（荷台高さの４倍以上），すべり止め，フックのあるものを使用する
- アユミは自動車の荷台に平行にかけ，フックが外れないことを確認する
- 周囲を確認し機械の周囲には人を近づけない
- 脱こく・刈取クラッチは《切》にする
- 積込みは前進，積降ろしは後進で低速で行う
- アユミの上では進路変更や変速操作をしない
- 機体後方の後方操作部で操縦する



ほ場作業　ほ場の出入り

- 変速は低速であぜに対して直角に行う
- あぜ，溝，急傾斜を越すときはアユミを使用する
- あぜがくずれないことを確認しゆっくり行う

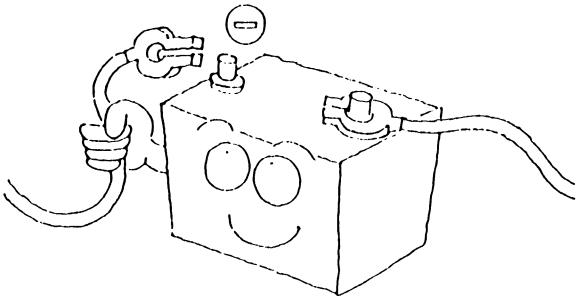


ほ場での作業

- エンジン始動，クラッチ《入》の操作をする前には周囲を確認する
- 刈取り作業は機械の周囲に子供等，人を近づけない
- 旋回時は周囲の状況を確認し，低速で行う
- 運転走行中の乗り降りはしない
- 過労にならぬようゆとりをもって，作業の間に休憩を入れる
- あぜぎわでの旋回時は周囲を確認する

手こぎ作業

- 脱こく・刈取クラッチを《脱こく》にして，走行を停止し，駐車ブレーキを掛けて行う
- 手袋は使用しない
- 手や衣服を供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れない
- カッタの切ワラがたまったら，手こぎを中断して移動する
- ワラクズの近くに機械を停止しない



作業中途の点検

- 平坦な場所で刈取部を下げ，駐車ブレーキをかけてエンジンを停止する
- 詰まり等の異常時にはエンジンを停止して行う
- 脱こくこぎ室カバーを開いたらストッパをかける
- 取外したカバー類はすべて取付けてから作業を始める

終業・格納　１日の作業が終わったら

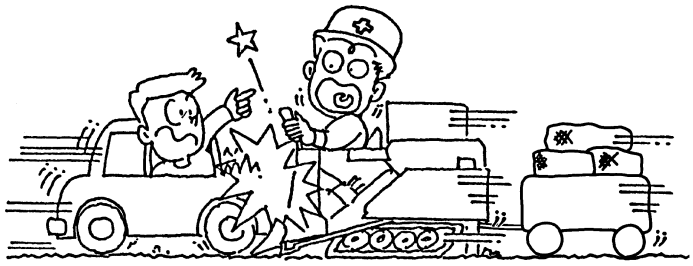
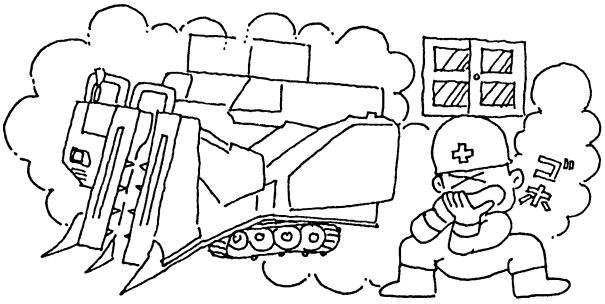
- 平坦な場所に置き，刈取部を下げ，駐車ブレーキをかけて歯止めをする
- スタータスイッチよりキーを抜取っておく
- エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲を掃除する
- マフラは冷えるまで直接触れない
- シートカバーはエンジンが冷えてからかける

長期格納

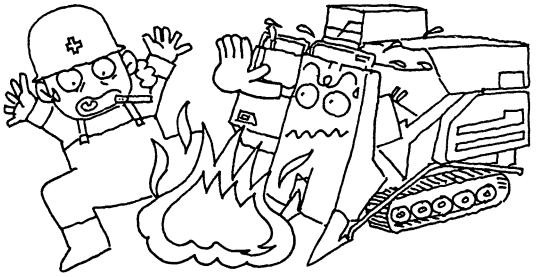
- １シーズンごとに定期点検をする
- 燃料コックを閉じ，燃料を抜取る
- バッテリコードの「㊀側」を外すか，バッテリを取外す
- 平坦な場所で刈取部先端にバンパを取付け，駐車ブレーキをかけて，クローラに歯止めをする
  格納フックまたはプレートのあるものは走行クラッチペダルを固定し，クローラに歯止めをして駐車ブレーキを解除する
- 部品（バッテリ等）または機械を廃却するときは「お買いあげ先」に相談する

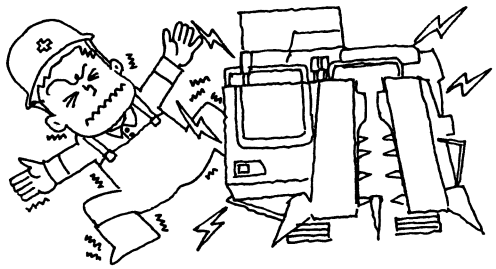
⚠作業前の一般的な注意事項

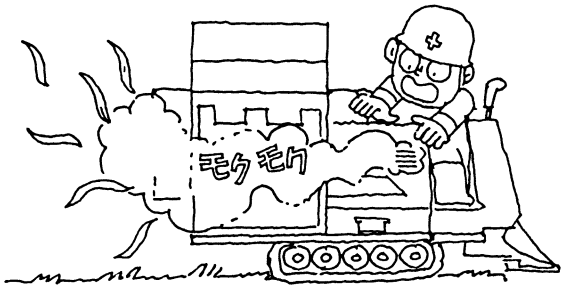
必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

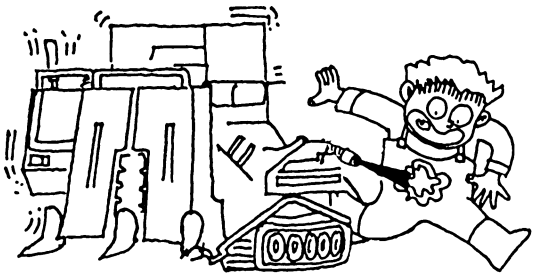
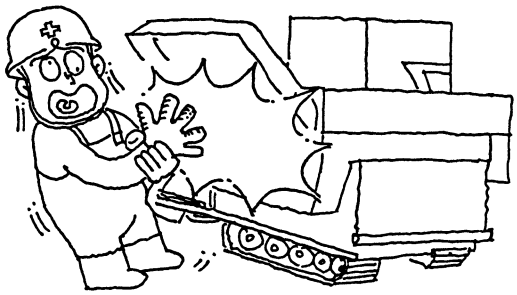
⚠警告 ◆機械を稲や麦の収穫作業以外には使用しないでください。	思わぬ傷害事故を引起こす原因になります。 
⚠警告 ◆機械は改造しないでください。	機械の機能に悪影響を与えるだけでなく，人身事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆毎日の運転まえには,「運転まえの点検表」の項目を点検し，異常があれば整備してから運転してください。 ◆1年ごとに定期点検整備を行い，各部の保守を行なってください。	整備不良のまま使用すると，思わぬ事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気してください。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠状態になって脳障害になったり死亡することがあります。 

⚠点検・整備及び掃除をする時は……

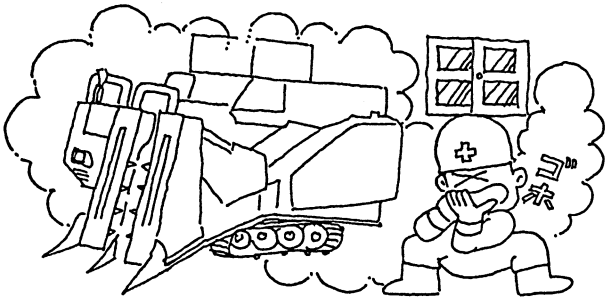
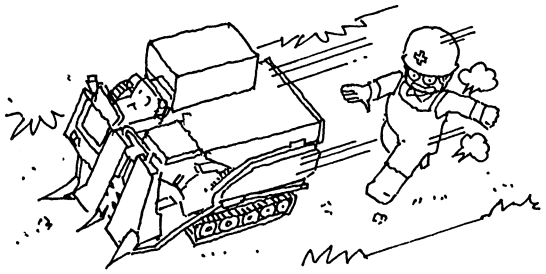
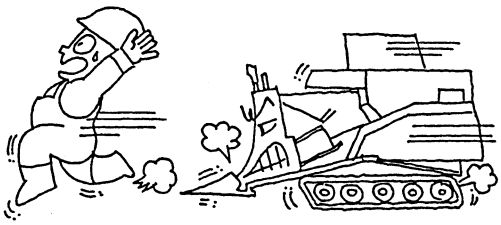
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆平坦な場所で駐車ブレーキをかけて，エンジンを停止し各部の回転が止まってから行なってください。	機械が動き出し，思わぬ事故を起こすことがあります。 
⚠危険 ◆燃料補給時は，くわえタバコなど火気を近づけないでください。 ●燃料を補給したときは，燃料キャップを確実に締め，こぼれた燃料はきれいにふきとる。 ●エンジン回転中や，エンジンが熱い間は給油，注油をしない。 ◆燃料ホースの破損や燃料もれがないか，点検してください。 ●燃料ホースは 2 年ごとに交換する。	燃料などに引火し，ヤケドや火災の原因となることがあります。 

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠危険 ◆バッテリの点検時，火気（煙草・ライターなど）を近づけないでください。	バッテリから水素ガスが出ますので，引火により爆発して傷害事故を引起こすことがあります。 
⚠危険 ◆バッテリ液を身体や服に付けないようにしてください。 ◆バッテリ液が，目，皮ふ，衣服，物についた時は，すぐに多量の水で洗い，飲み込んだ時はすぐに多量の飲料水を飲んでください。目に入った時や飲み込んだ時は医師の診断を受けてください。	バッテリ液（希硫酸）で服が破れたり，失明やヤケドをすることがあります。 
⚠警告 ◆バッテリ端子からコードを取外す時は，㊀側を先に取外してください。取付けは㊉側を先に取付けてください。 ●バッテリは指定されたバッテリを使用する。 ●㊉，㊀を逆に接続しない。	ショートして，ヤケドや火災の原因となります。 

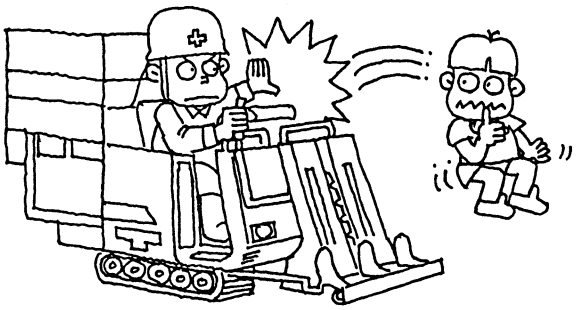
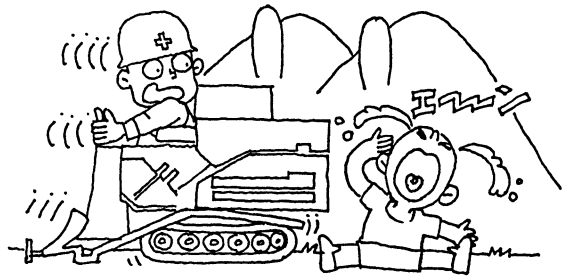
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆電気配線が他の部品に接触していないか，はがれや接合部のゆるみやガタがないかを点検してください。 ●クランプや固定金具のゆるみがないか点検する。	火災事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲にワラクズやゴミなどが付着していないか，作業前に点検して付着していれば取除いてください。 ●ベルトカバー内のワラクズを取除く。	火災の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆方向指示灯などの保安部品の作動確認は機械を動かす前に行なってください。	交通事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆マルチステアリング（昇降，旋回）レバーのきき具合や，片ぎきなどがないか点検調整してください。	正常な走行ができず事故を引起こす原因となります。 

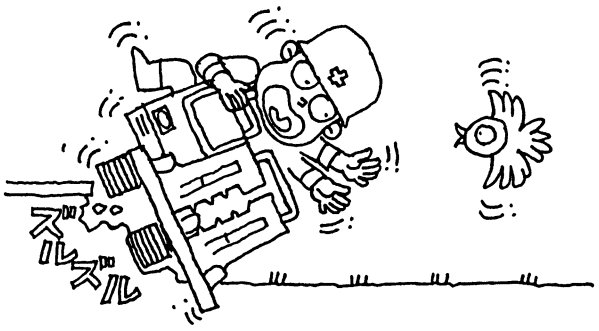
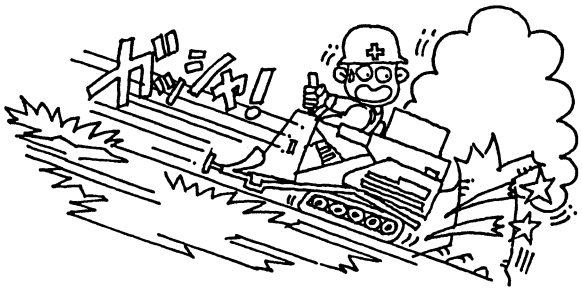
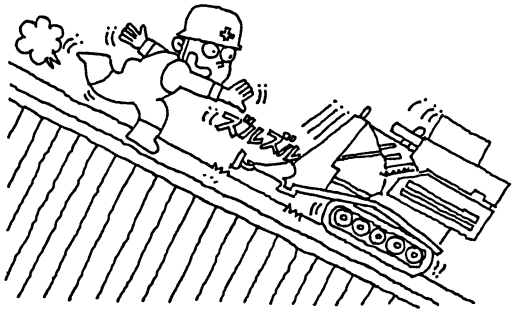
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆油圧関係の部品を点検したり取外す前に，エンジンを停止し，刈取（油圧リフト）部をもっとも下げた状態にして残圧を抜いてから作業をしてください。 ◆もし，高圧噴油に触れたら，直ちに医師の診断を受けてください。	圧力がかかって噴出した油は皮ふに浸透し傷害の原因になります。 油が皮ふに浸入した場合，取除かないと壊疽（えそ）になるおそれがあります。 
⚠注意 ◆点検・整備などで外したカバーなどは，すべて取付けてください。	機械に巻込まれたりして，傷害事故を起こすことがあります。 

⚠エンジンを始動する時は……

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠状態になって脳障害になったり死亡することがあります。 
⚠警告 ◆始動は運転席のシートに座って（乗用型）行なってください。	機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆駐車ブレーキをかけてください。 ◆変速を《中立》にしてください。 ◆脱こく・刈取クラッチを《切》にしてください。 ●変速が《中立》になっているか手で動かして確認する。 ●周囲を確認し，合図してから始動する。	変速やクラッチが入っていると機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆暖機運転は，駐車ブレーキをかけ，変速を《中立》，脱こく・刈取クラッチを《切》にして行なってください。	急に発進したりして思わぬ事故の原因となります。 

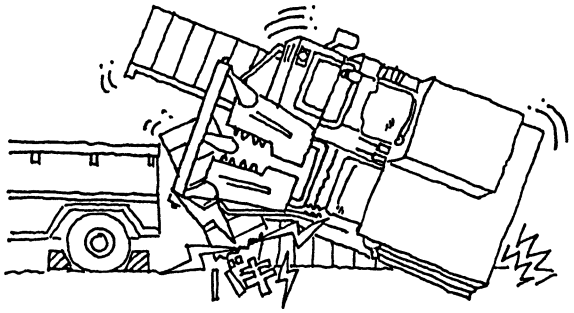
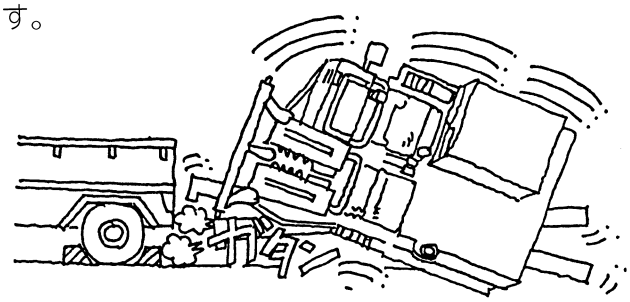
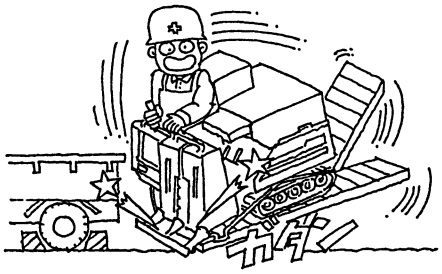
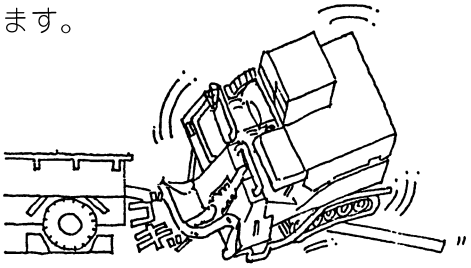
⚠路上走行をする時は……

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆人や物をのせないでください。 ◆走行時はナローガイド（サイドデバイダ）を収納してください。 ●子供等，人や物を機械にのせない。 ●荷物は別の自動車（運搬車）などで運ぶ。	思わぬ事故を引起こす原因となります。 
⚠注意 ◆路上走行するときは刈取部の先に指定されたバンパを取付けてください。 ◆取扱説明書で指定された作業機以外は取外してください。 ◆合わせマークの位置まで刈取部を上げて油圧を固定してください。 ●合わせマークのない機械は刈取部先端を20㎝程度上げます。	思わぬ事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆発進するときは，機械の周囲から人を遠ざけてください。 ◆脱こく・刈取クラッチが《切》になっていることを確認してください。 ◆低速で発進してください。 ●急発進，急ブレーキ，急旋回しない。 ●前後，左右の確認をし，わき見運転はしない。	傷害事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆路上走行時は交通法規を守り，ヘルメットを着用してください。 ●夜間の走行は前照灯をつける。作業灯は消す。 ●公道走行時は機体後方の後方操作部で操縦しないでください	思わぬ傷害事故の原因となります。 

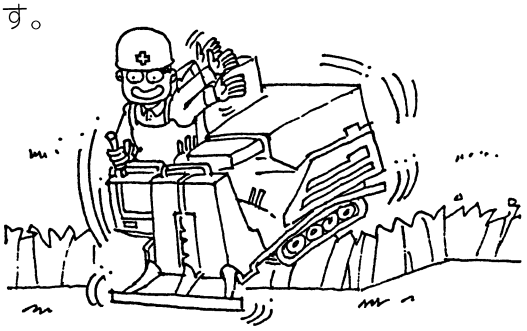
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆道路の端には寄りすぎないようにしてください。 ●対向車を避けるとき，端に寄りすぎない。 ●軟弱な路肩や草が生い茂っている所は，走行しない。 ●雨天，雨あがりのときは，低速で慎重に走行する。 ●凸凹道路，下り坂は速度を落とし，慎重に操縦する。	路肩がくずれ，横転事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆坂道の途中で走行クラッチペダルを踏込んだり急激に変速レバーを操作しないでください。 ●坂の手前でいったん減速して，登り降りする。 ●機体後方の後方操作部で操作する。 ●坂道での旋回は低速で行う。 ●急傾斜地を走行しない。	エンジンブレーキがきかず思わぬ事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆坂道では駐車しない。やむをえず坂道の途中で駐車するときは駐車ブレーキをかけて，エンジンを停止し，木片などで歯止めをしてください。 ●刈取部は下げておく。 ●機械から離れるときは，スタータスイッチからキーを抜取る。	機械が動き出し，事故の原因となることがあります。 

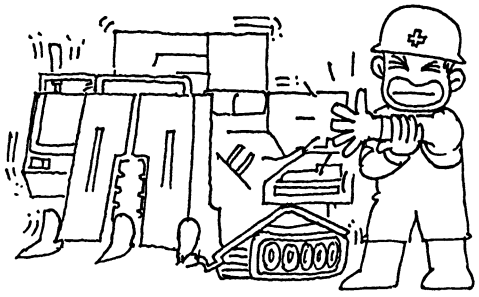
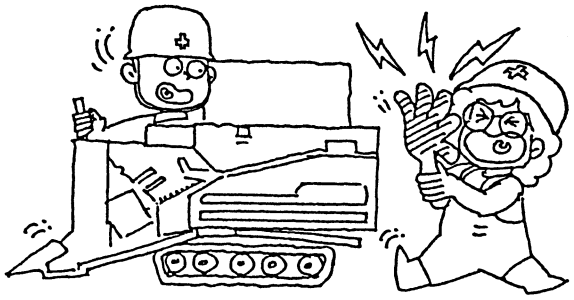
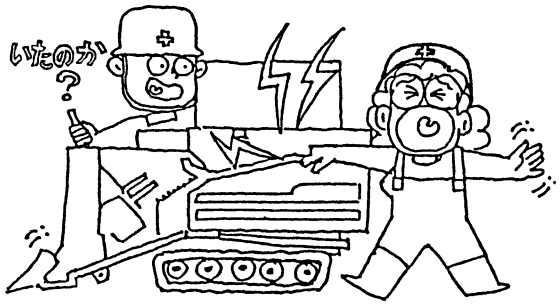
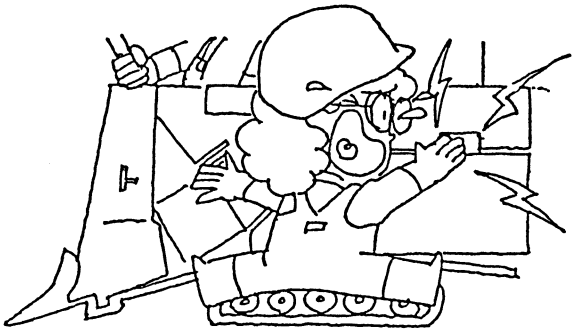
⚠自動車への積込み・積降ろしをする時は……

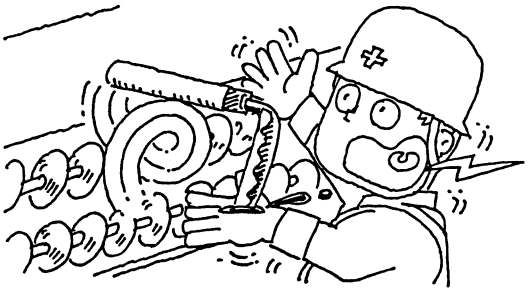
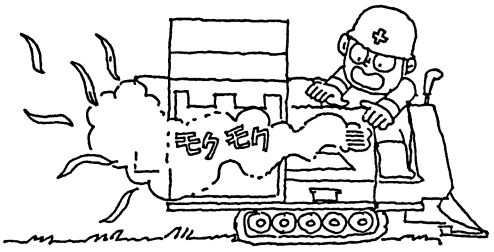
必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆自動車は積載重量を超えない車で荷台から機械がはみ出さない車を使用してください。 ●自動車は駐車ブレーキをかけエンジンを停止し変速を１速か後進に入れ，タイヤに歯止めをする。 ◆アユミは強度，幅，長さ（荷台高さの４倍以上），すべり止め，フックのあるものを使ってください。 ●アユミの幅はクローラ幅に合ったものを使う。	アユミが折れたりして，転倒事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆アユミを機械のクローラ間隔に合わせ，自動車の荷台に平行にまっすぐにかけてください。 ●荷台にアユミのフックをかけ，外れないことを確認する。	アユミが外れたりして，転倒事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆積込みは前進，積降ろしは後進で変速は低速で行なってください。 ●機体後方の後方操作部で操縦する。 ●補助者立会誘導のもとに行う。機械の周囲に子供等，人を近づけない。	万一のときに逃げることができなくなり，傷害事故の原因となります。 
⚠警告 ◆アユミの上では進路変更や変速操作をしないでください。 ●機械をアユミに対してまっすぐに止め，左右のクローラがアユミの中央にあることを確認し，途中で機械を止める必要がないようにする。	急旋回したり，急降下したりして転倒事故を起こすことがあります。 

⚠ほ場で作業をする時は……

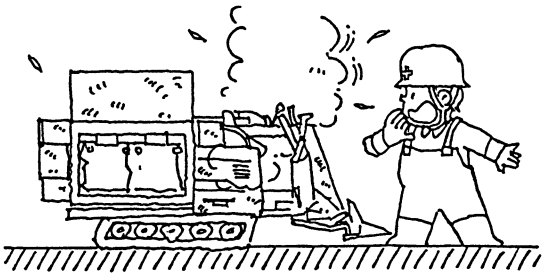
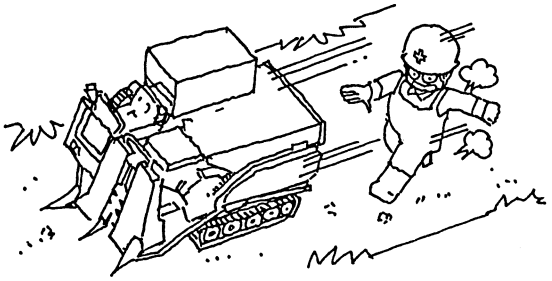
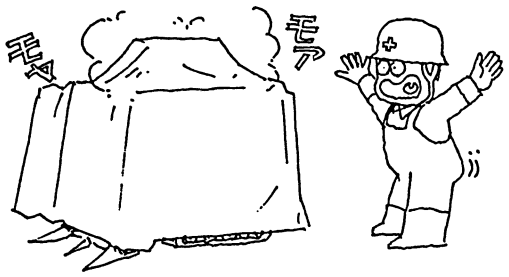
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆10 cm以上のあぜ，溝，10度以上の急傾斜のある**ほ場への出入り**はアユミを使ってください。 ● 機体後方の後方操作部で操縦する。 ● アユミ上では進路変更しない。	バランスを崩したりして，転倒事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆**あぜ越え**は，変速を低速にしてあぜに直角に横切るようにしてください。 ● 機体後方の後方操作部で操縦する。 ● あぜがくずれないことを確認して行う。	転倒事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆補助者との共同作業が多いので，作業前によく打合わせをしてください。 ● エンジン始動や発進するとき，脱こく・刈取クラッチを入れるときはホーンで合図する。 ◆作業時の旋回は低速で行なってください。 ● 旋回するときは周囲を確認し，低速で行う。 ● 機械の周囲に人を近づけない。	傷害事故の原因となります。 
⚠警告 ◆手こぎ作業のときは手や衣服を供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れないでください。 ● 手袋は使用しない。 ● 供給口が見えなくなるほど多量の作物を供給しない。 ● カッタ切ワラがたまったら，手こぎ作業を中断して移動する。 ● 手こぎ作業は走行を停止して脱こく・刈取クラッチを《脱こく》にし，駐車ブレーキを掛けて行う。	機械に巻込まれたりして，傷害事故を起こします。 

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆詰まり等の除去をする時は，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。 ●脱こく部やカッタの詰まり，チェンやベルトのワラの巻付き，垂れ穂などに気付いても，作動中は手を出さない。 ●エンジンを停止して各部の動きが止まってから行う。 ●脱こくこぎ室カバーを開いたときはストッパをかける。	傷害事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆補助者は作業中はワラの巻付き，詰まりを取除かないでください。 ◆補助者は機械に近づく時運転者に合図をして，確認を取ってください。 ◆人が機械の近くにいないことを確認してからエンジン始動，脱こく・刈取クラッチ操作をしてください。 ●カッタでの事故がいちばん多く発生していることを，作業者は認識しておく。 ●エンジンが作動中は，カッタのそばに手・足・衣服を近づけない。 ●補助者に機械の構造，運転や操作のしかたをよく知らせておく。 ●作業中は機械に人を近づけない。 ●モミ袋を交換するときは機械を止めて行う。 ●運転者は常に補助者の状態を確認しながら作業をする。 ●特に，カッタや搬送部・脱こく部・刈取部付近には作業中は近づかない。 ●ワラなどの巻付き・詰まり等が発生しても，作動中は手を出さない。 ●運転者と補助者は常に「合図」し合いながら作業する。	傷害事故を引起こすことがあります。   

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆作業中にカマなどを使って脱こく部やカッタの掃除をしないでください。 ●カッタにワラが巻付いても，回転中は掃除をしない。カッタのカバーを開閉するときはエンジンを停止する。	カマなどがはね飛ばされて，傷害事故の原因となります。 
⚠警告 ◆ワラクズの近くには機械を止めないでください。 ●エンジン排気による火災を防ぐため，ワラのないところに止める。 ●手こぎ作業時，ワラの上に機械を止めての作業はしない。	マフラの排気で火災になることがあります。 
⚠警告 ◆エンジンやマフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲，ベルトカバーにワラクズがたまった場合はエンジンを停止して掃除をしてください。	火災の原因となることがあります。 

⚠1日の作業が終わったら……

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆作業が終了したら，平坦な場所でエンジンを停止して点検を行い，掃除をしてゴミなどを取除いてください。 ●エンジン・マフラ・バッテリ・燃料タンクの周囲のワラクズを除去・掃除する。	火災の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆保管は平坦な場所に置き，刈取部を下げて，駐車ブレーキをかけてください。 ●駐車ブレーキをかける。 ●スタータスイッチからキーを抜取っておく。	機械が動き出し，思わぬ事故の原因となります。 
⚠警告 ◆エンジンが熱い時は，シートカバーをかけないでください。	火災の原因となることがあります。 

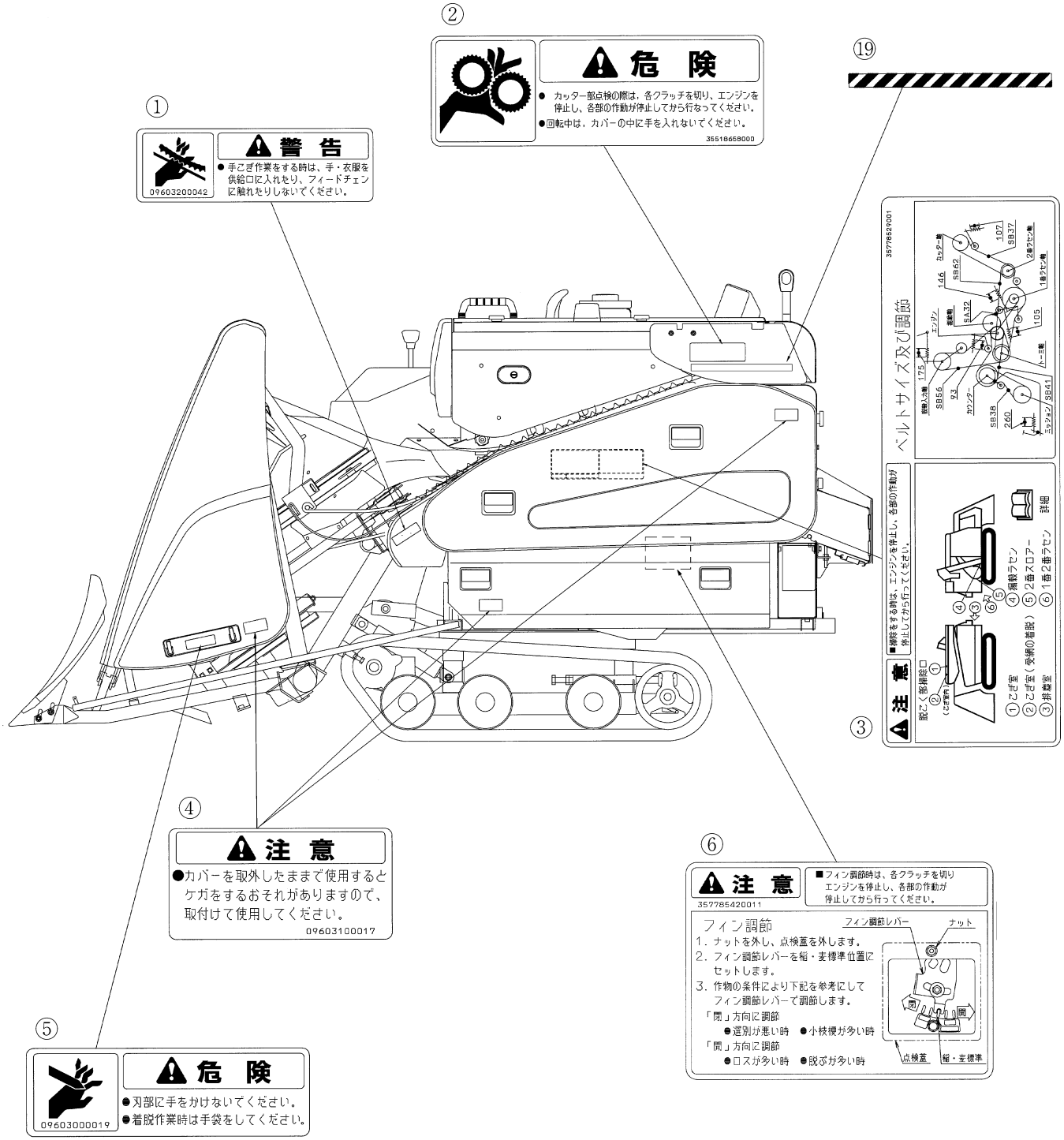
⚠長期格納する時は……

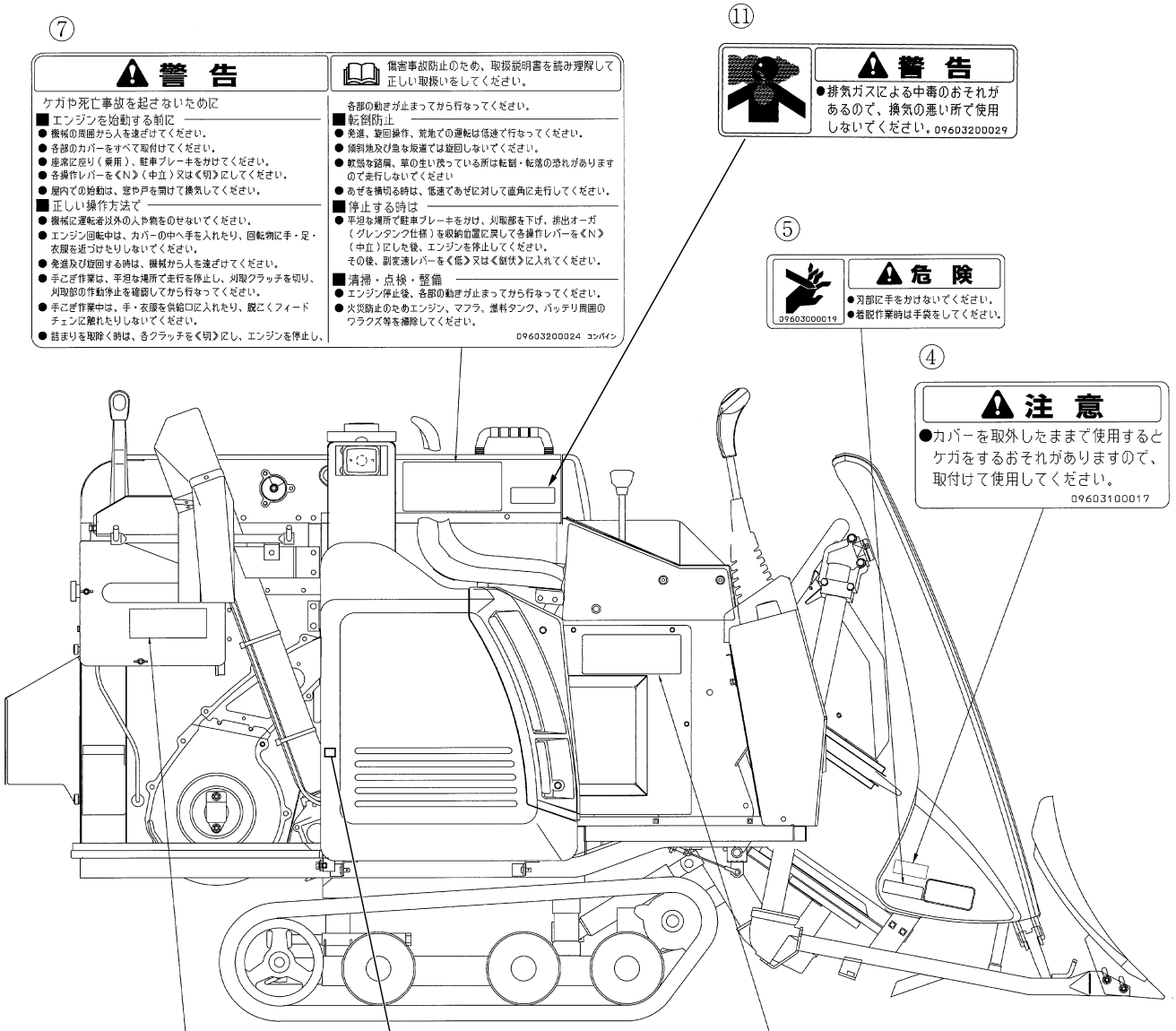
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆平坦な場所に置き刈取部先端にバンパを取付け，駐車ブレーキをかけて歯止めをしてください。 ●クローラに歯止めをする。 ●スタータスイッチよりキーを抜取っておく。	機械が動き出し，思わぬ傷害事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆バッテリコードの「㊀側」を外すか，バッテリを取外してください。 ●１ケ月に１回程度補充電をする。 ◆燃料コックを閉じてください。 ●燃料を抜取る。	思わぬ火災事故を起こす場合があります。 
⚠警告 ◆シーズン終了後には定期点検を受けてください。 ●１年ごとに定期点検・整備をお買いあげ先で純正部品を使用して行なって，各部の保安を確保してください。 	整備不良のまま使用すると思わぬ事故を引起こす原因となります。

2．表示ラベルについて

この機械には各運転装置の近くやカバーに各々の安全な取扱い方について説明している表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）が貼付けてあります。各々のラベルの説明をよくお読みいただき守ってください。

また，機械に貼ってあるラベルが破損したりして読めなくなった場合やラベルの貼ってある部品を交換する場合は新しいラベルを「**お買いあげ先**」に注文して購入し貼り替えてください。





⑦

警 告

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください。

ケガや死亡事故を起さないために

■ エンジンを始動する前に
- 機械の周囲から人を遠ざけてください。
- 各部のカバーをすべて取付けてください。
- 座席に座り（乗用）、駐車ブレーキをかけてください。
- 各操作レバーを《N》（中立）又は《切》にしてください。
- 屋内での始動は、窓や戸を開けて換気してください。

■ 正しい操作方法で
- 機械に運転者以外の人や物をのせないでください。
- エンジン回転中は、カバーの中へ手を入れたり、回転物に手・足・衣服を近づけたりしないでください。
- 発進及び旋回する時は、機械から人を遠ざけてください。
- 手こぎ作業は、平坦な場所で走行を停止し、刈取クラッチを切り、刈取部の作動停止を確認してから行なってください。
- 手こぎ作業中は、手・衣服を供給口に入れたり、脱こくフィードチェンに触れたりしないでください。
- 詰まりを取除く時は、各クラッチを《切》にし、エンジンを停止し、各部の動きが止まってから行なってください。

■ 転倒防止
- 発進、旋回操作、荒地での運転は低速で行なってください。
- 傾斜地及び急な坂道では旋回しないでください。
- 軟弱な路肩、草の生い茂っている所は転倒・転落の恐れがありますので走行しないでください
- あぜを横切る時は、低速であぜに対して直角に走行してください。

■ 停止する時は
- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけ、刈取部を下げ、排出オーガ（グレンタンク仕様）を収納位置に戻して各操作レバーを《N》（中立）にした後、エンジンを停止してください。その後、副変速レバーを《低》又は《鎖伏》に入れてください。

■ 清掃・点検・整備
- エンジン停止後、各部の動きが止まってから行なってください。
- 火災防止のためエンジン、マフラ、燃料タンク、バッテリ周囲のワラクズ等を掃除してください。

09603200024 コンバイン

⑪

警 告

●排気ガスによる中毒のおそれがあるので、換気の悪い所で使用しないでください。09603200029

⑤

危 険

09603000019

●刃部に手をかけないでください。
●着脱作業時は手袋をしてください。

④

注 意

●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

09603100017

㉑

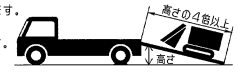
注 意

●使用しない時は燃料コックを閉じてください
●トラック輸送時は燃料コックを閉じてください 35778532500

⑧

警 告

■ 自動車への積込み・積降ろしをする時は 35778527000
- 平坦な場所を選んで、補助者の立会誘導のもとに行なってください。また、機械の周囲に人を近づけないでください。
- アユミは機械の重量に耐えられる強度で長さは、自動車荷台高さの４倍以上のものを使用してください。
- アユミの上では進路変更、変速操作を行なわないでください。旋回（左右）操作をすると転倒する危険があります。左右のクローラをアユミの中央にまっすぐにセットしてください。
- 自動車へ積込む場合、主変速レバー《前進１－低速》の位置で操作します。
- 自動車への積込みは、昇降・旋回レバーを《上る》に操作し、刈取部を上げます。積込みが終ったら昇降・旋回レバーを《下る》にして刈取部を一杯下げます。
- 自動車から積降ろす場合、主変速レバー《後進－低速１》の位置で操作します。
- 積込み、積降ろし中の旋回（左右）操作をしないでください。



■ 旋回（左右）操作をする時は
- 走行クラッチペダルに足を乗せないでください。
- ペダルに足を乗せていると旋回後も直進に戻らないことがあります。

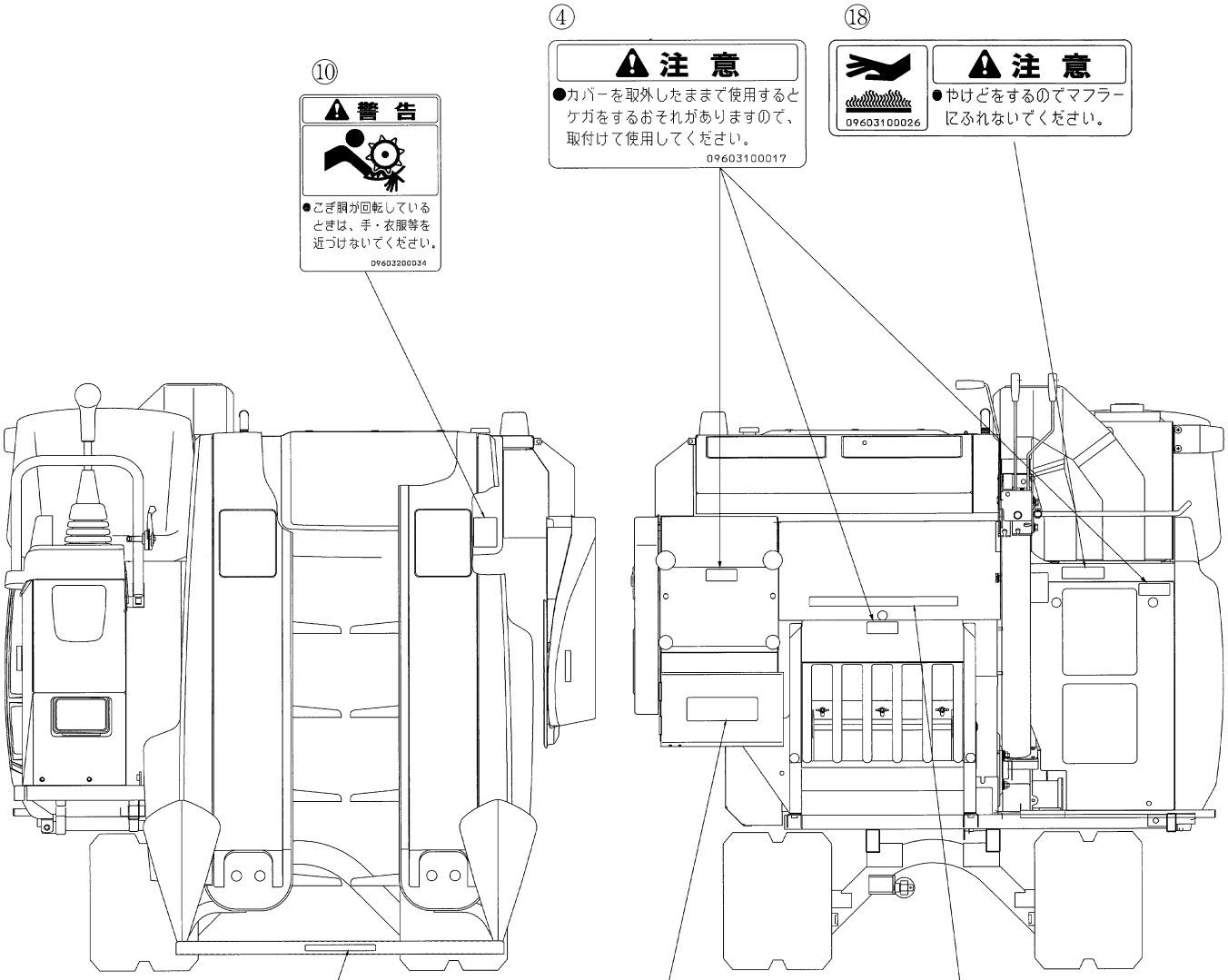
⑨

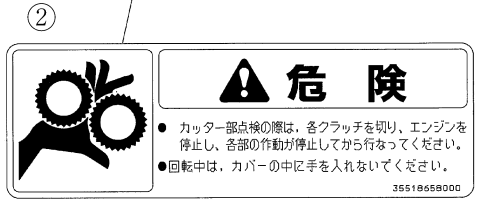


火気厳禁　メガネ着用　こども禁止　硫酸注意　説明書熟読　爆発注意

危険
- 水素ガス発生、取扱いを誤ると引火爆発の恐れあり
  ・工具等でショートやスパークをさせない・充電は風通しのよい所で行う・ブースターケーブルの使用は取扱説明書に従う
- バッテリー液（硫酸）で失明ややけどの恐れあり
  液がついたらすぐに多量の水で洗い、目の場合は医師の治療を受ける
- 爆発の恐れあり、液面はLOWER以下で使用しない
- 液漏れの恐れあり、UPPER以上に補水しない

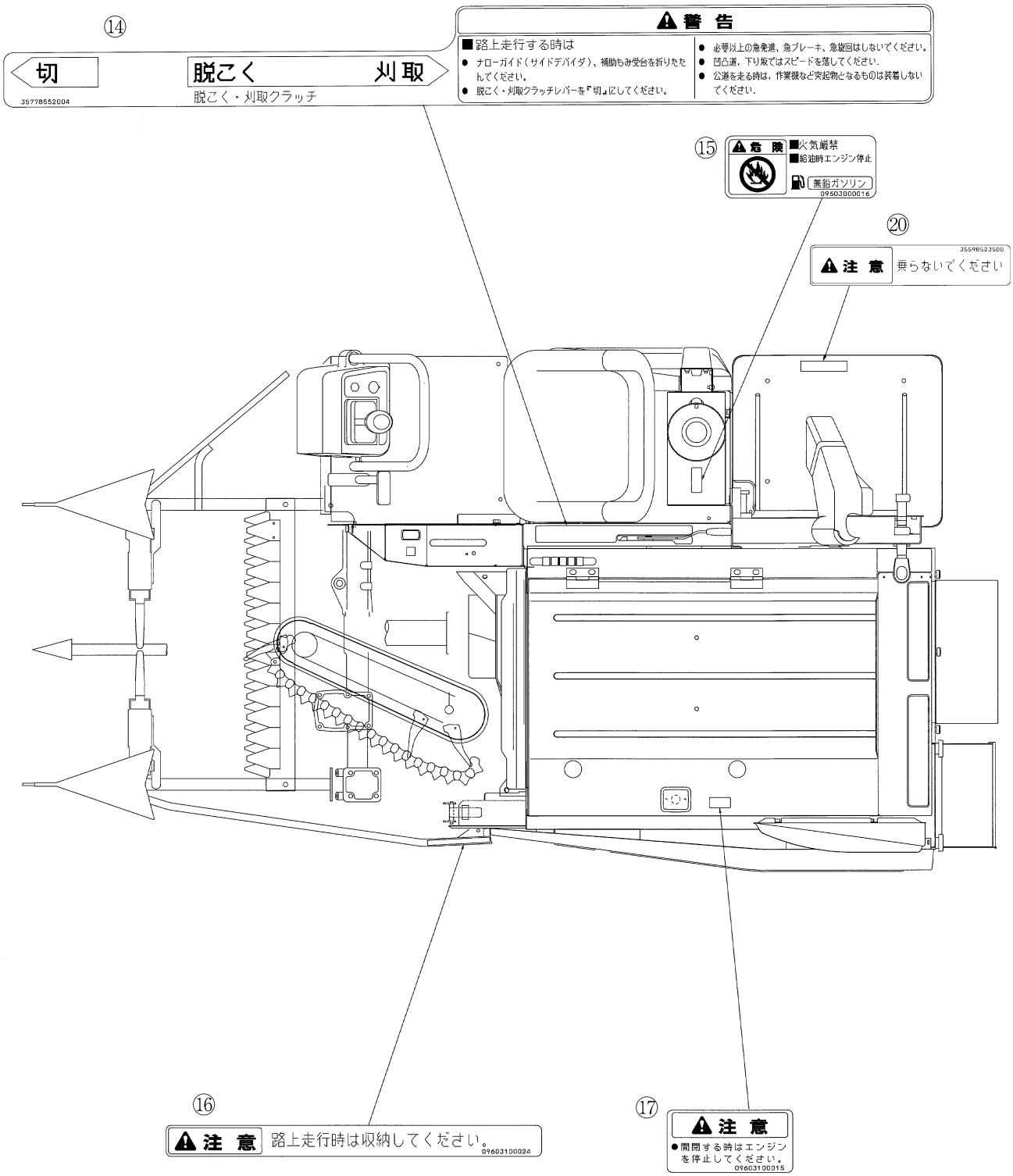
09603000017





⑫
⚠注 意 路上走行時は装着してください。
09603100023

⑬
⚠注 意 回転中は手や足をカバーの中へ入れないでください。
09603100020

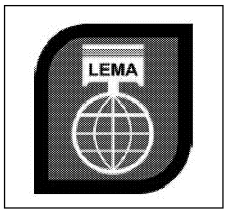

⑭
切
脱こく
刈取
35778552004
脱こく・刈取クラッチ
警 告
■路上走行する時は
● ナローガイド（サイドデバイダ）、補助もみ受台を折りたたんでください。
● 脱こく・刈取クラッチレバーを『切』にしてください。
● 必要以上の急発進、急ブレーキ、急旋回はしないでください。
● 凹凸道、下り坂ではスピードを落してください。
● 公道を走る時は，作業機など突起物となるものは装着しないでください。
⑮
危 険
■火気厳禁
■給油時エンジン停止
無鉛ガソリン
09603000016
⑳
35598523500
注 意
乗らないでください
⑯
注 意
路上走行時は収納してください。
09603100024
⑰
注 意
●開閉する時はエンジンを停止してください。
09603100015

No.	部　品　名　称	部　品　番　号	備　　考
①	ケイコクラベル・チェン	0960 3200 042	1 ケ
②	キケンラベル・カッタ	3551 8658 000	2 ケ
③	トリアツカイマーク	3577 8529 001	1 ケ
④	チュウイラベル・カバー	0960 3100 017	7 ケ
⑤	キケンラベル・カリハ	0960 3000 019	2 ケ
⑥	トリアツカイマーク	3577 8542 000	1 ケ
⑦	ケイコクラベル・コンバイン	0960 3200 024	1 ケ
⑧	トリアツカイマーク	3577 8527 000	1 ケ
⑨	キケンラベル・バッテリ	0960 3000 017	1 ケ
⑩	ケイコクラベル・コギドウ	0960 3200 034	1 ケ
⑪	ケイコクラベル・ハイキ	0960 3200 029	1 ケ
⑫	チュウイラベル・バンパC	0960 3100 023	1 ケ
⑬	チュウイラベル・カッタカバー	0960 3100 020	1 ケ
⑭	トリアツカイマーク	3577 8552 004	1 ケ
⑮	キケンラベル・ガソリン	0960 3000 016	1 ケ
⑯	チュウイラベル・シュウノウ	0960 3100 024	1 ケ
⑰	チュウイラベル・カイヘイ	0960 3100 015	1 ケ
⑱	チュウイラベル・マフラ	0960 3100 026	1 ケ
⑲	チュウイラベル・ゾーン	3577 8539 500	1 ケ
⑳	チュウイラベル	3559 8523 500	1 ケ
㉑	チュウイラベル	3577 8532 500	1 ケ

地球環境を守るために

このたび（社）日本陸用内燃機関協会（陸内協）が環境保全のために定めた排出ガス自主規制の適合エンジンを搭載しました。

この自主規制は、小型汎用火花点火エンジンの排出ガス中の炭化水素（HC)、窒素酸化物（NOx)、及び一酸化炭素（CO）を低減するためのもので、識別のため陸内協で決定した右図の適合ラベルをエンジンファンカバー等に貼付けています。



使用期間中は、次の事項を守ってください

１．自主規制適合ラベルは剥がさないでください。

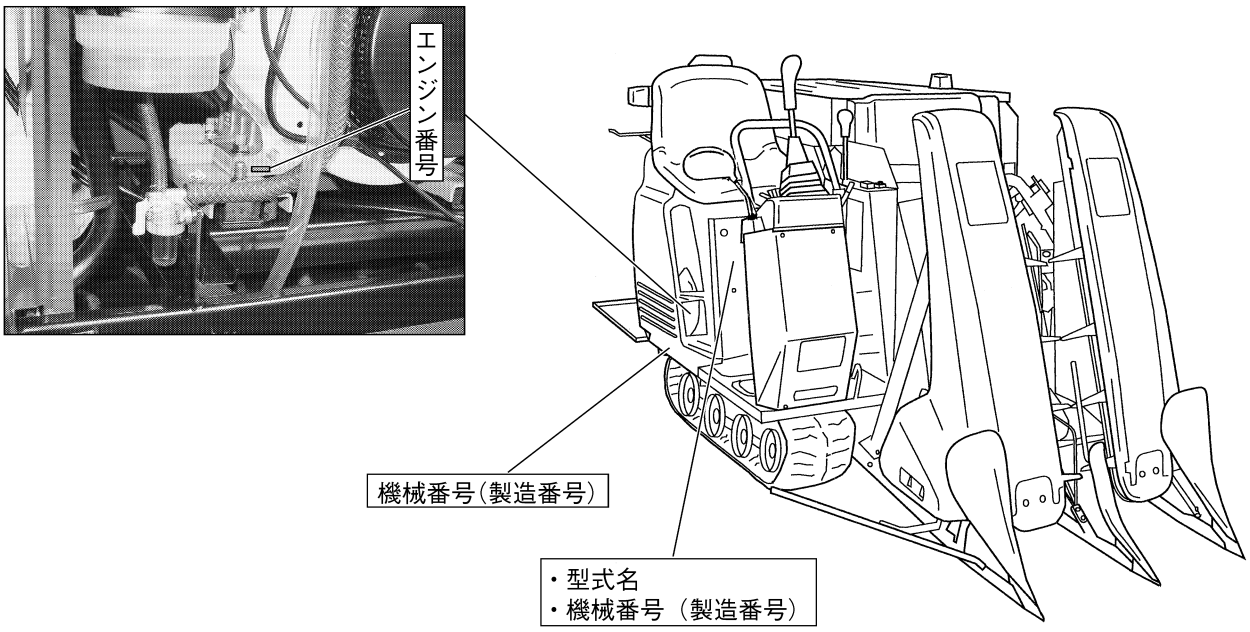
２．エンジンの点検整備は、取扱説明書にしたがって実施してください。
気化器の調整、部品交換が必要な場合には、「お買いあげ先」にご相談ください。

本エンジンは、排出ガスの量が規定値内になるように管理出荷していますが、運転中の吸入空気と燃料の混合比に影響する気化器の調整、整備不良、不適切な部品交換がされた場合、排出ガス量は規定値を外れることがありますので注意願います。

ご使用まえに

1．保証とサービスについて

・この機械には保証書が添付されていますので，ご使用まえによくお読みください。
・「保証書」は，お客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。
・この機械のサービスについてのお問い合わせや部品などのご用命のときは「**お買いあげ先**」にご相談ください。その際「**型式名**」・「**機械番号（製造番号）**」と「**エンジン番号**」をお知らせください。



・補修用部品の供給年限について

・この製品（機械）の補修用部品の供給年限（期間）は，製造打ち切り後 9 年といたします。
ただし，供給年限内であっても，特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。

・補修用部品の供給は，原則的には，上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても，部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

・機械の使用目的について

・機械は**稲・麦の収穫作業**以外に使用しないでください。
・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造した場合は保証の対象となりませんのでご注意ください。

⚠警告

◆機械を使用目的以外の作業に使用しないでください。
◆機械を改造しないでください。
◆使用目的以外の作業や改造すると本来の機能を発揮できないばかりか，人身事故の原因になることがあります。

2．仕様（装備）について

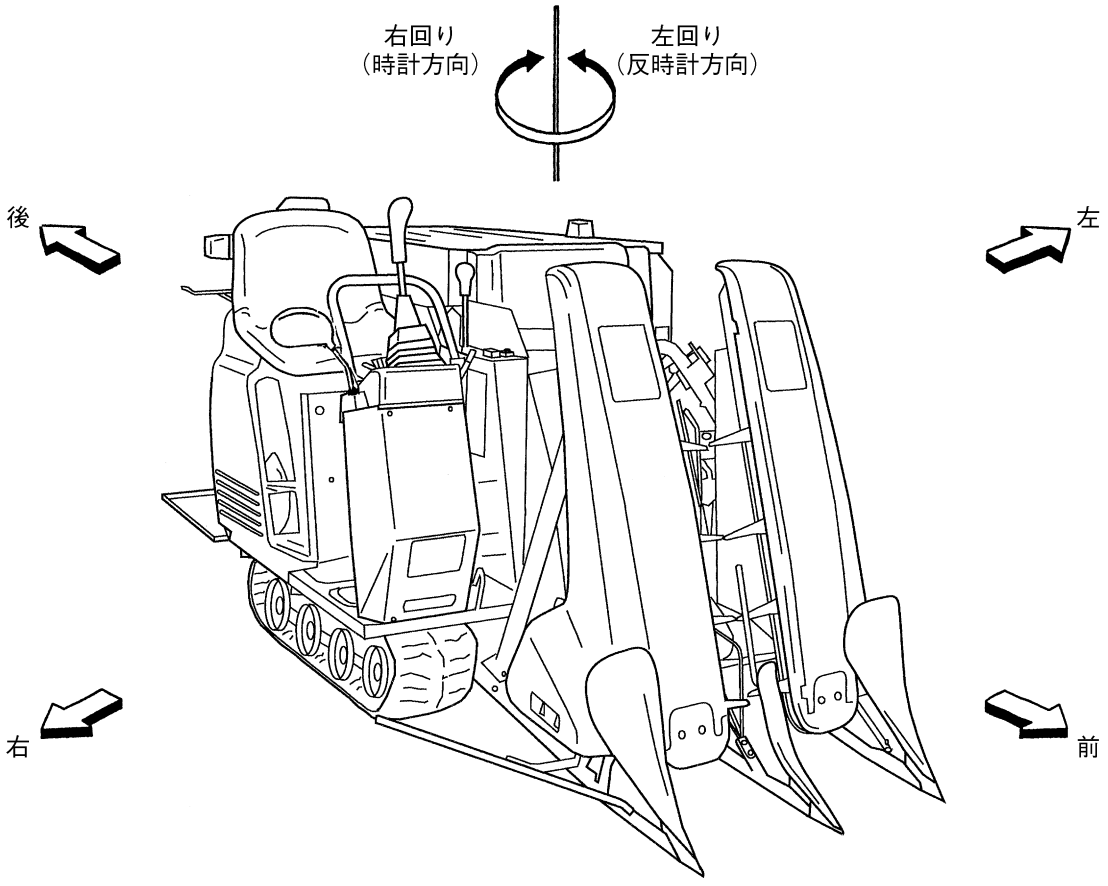
・主な仕様（装備）は次のようになっています。

・お買いあげの機械の型式と主な仕様の違いを次の表でお確かめください。

型　式　名	装　備 区　分	クローラ幅（mm）
VM 7	KS	230（乾田用）
	WKS	280（湿田用）

3．用語について

❶　この取扱説明書に使用している「**前後・左右・右回り・左回り**」などの用語は図示のとおりです。



❷　**マークの説明**

この取扱説明書ではその都度守っていただきたい事柄を次のマークを使用して説明しています。

・危険 警告 注意 ……安全上重要な事項を３段階に分けて説明していますので必ず読んでください。

・**取扱いのポイント** ……機械の機能・性能上に関する説明です。守らないと故障の原因になることがあります。

4．小型特殊自動車について

このコンバインは，「**小型特殊自動車**」に該当し，道路運送車両法に適合していますので公道走行ができます。

1．小型特殊自動車の届出

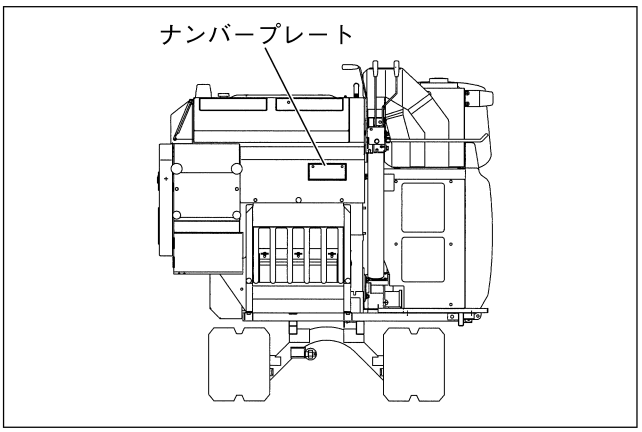
❶　小型特殊自動車取得の届出とナンバープレートの取付け

新たに小型特殊自動車を購入された方または所有者となられた方は，市（町・村）条例により，その取得を市（町・村）役所に届出し，ナンバープレートの交付を受けなければなりません。

・手続きは市（町・村）により多少異なりますので，詳しいことは「**市（町・村）役所**」または「**お買いあげ先**」に相談してください。

小型特殊自動車の取得証明書または売渡・販売証明書等（「**お買いあげ先**」で準備します）をそえて市（町・村）役所に届出し，ナンバープレートの交付を受けます。

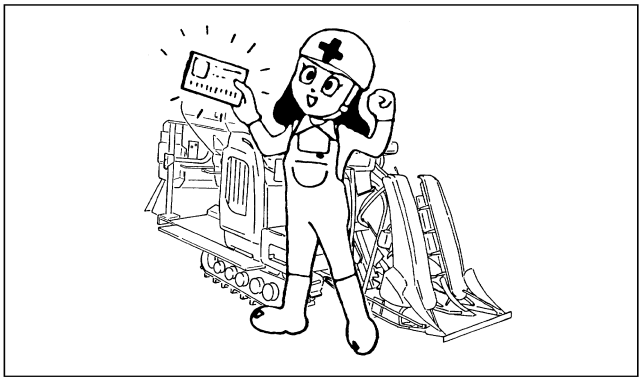
ナンバープレートは，機械の指定された位置に取付けます。



2．公道走行するために

❶　運転免許

公道を走行するときは，「**小型特殊自動車**」の運転免許が必要です。運転免許証を所持してください。



❷　「**小型特殊自動車**」の運転免許で運転できる自動車の基準。

車体の大きさ	全　長	4.70m以下
	全　幅	1.70m以下
	全　高	2.00m以下
最高速度		15km／時以下
原動機の総排気量		1500cc以下

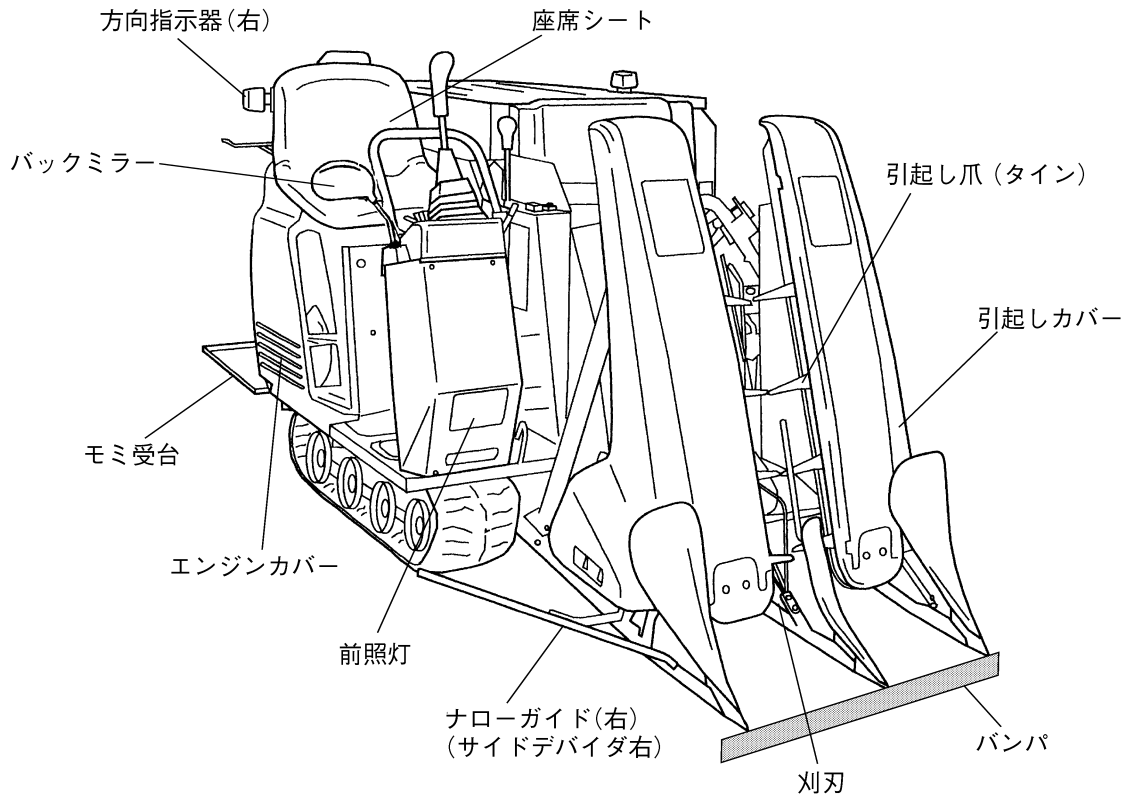
❸　指定の作業機（カッタ）以外の作業機を取付けた状態では，公道走行はできません。

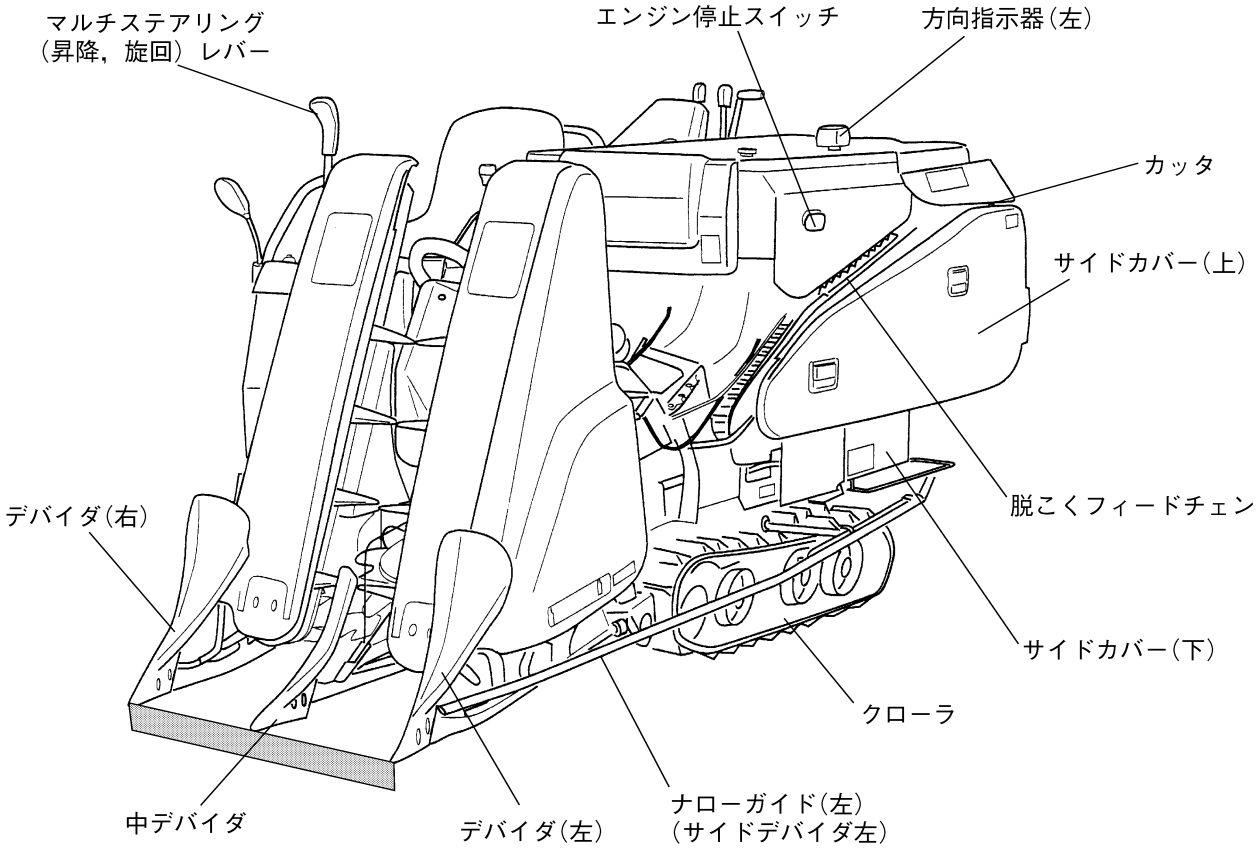
❹　任意保険のお勧め

万一の交通事故にそなえ，自動車共済または，任意保険に加入されるようお勧めします。

各部のはたらき

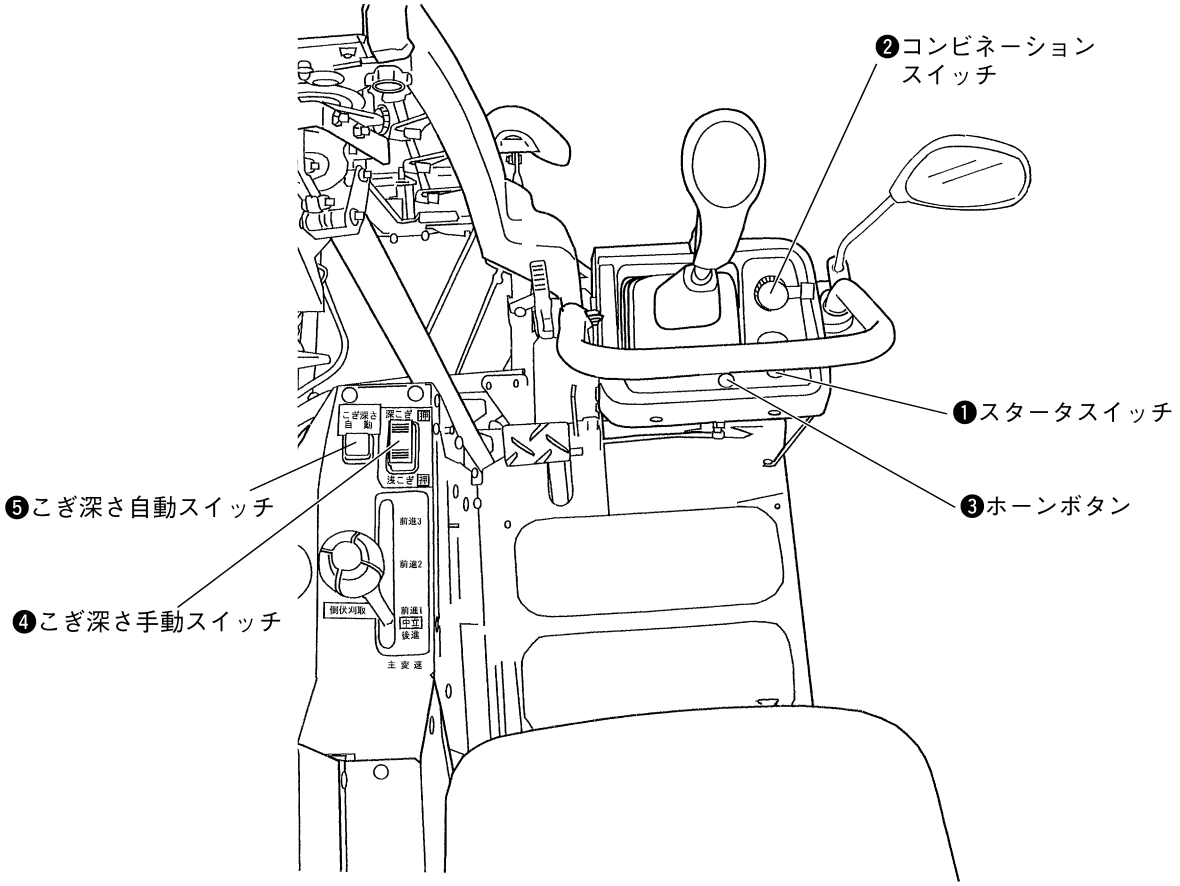
1．各部の名称

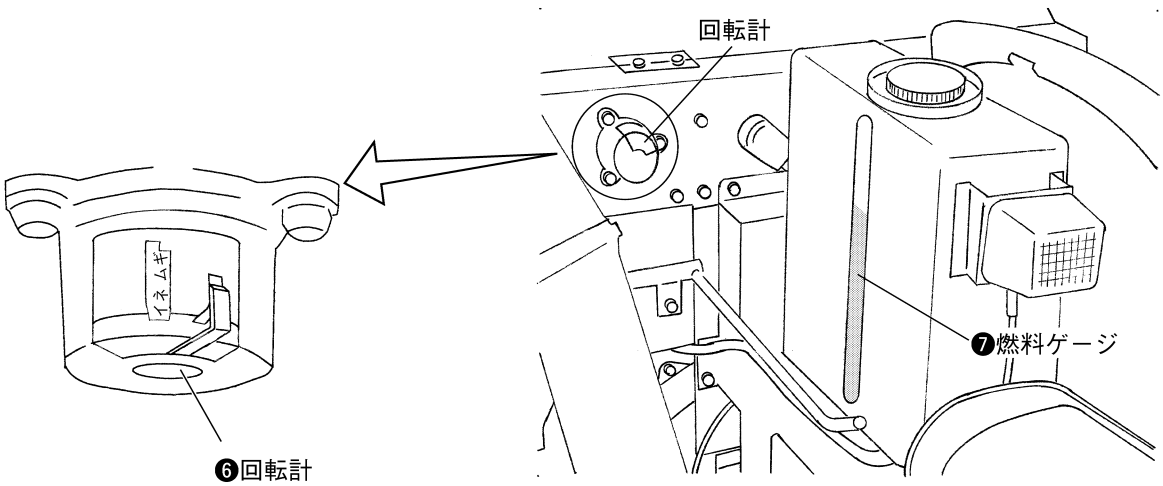


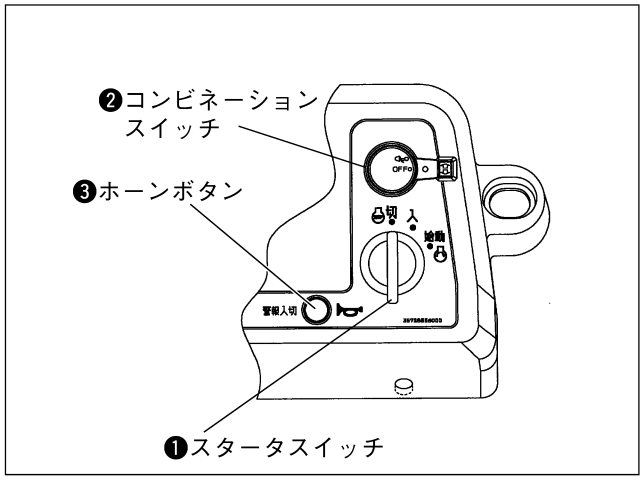


2．運転装置の取扱い

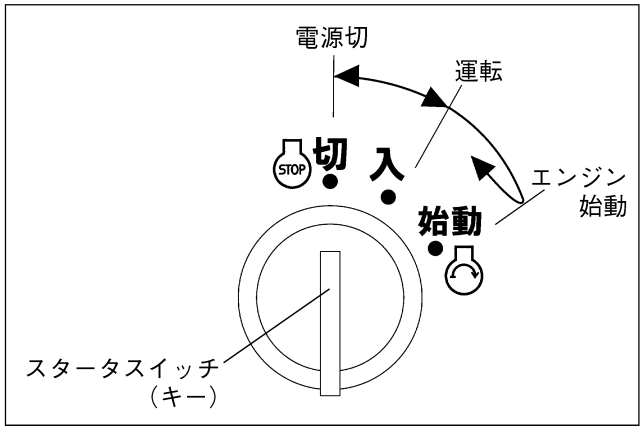
1．スイッチ・計器関係







❶ スタータスイッチ（キー）



《 切》……電源切（エンジン停止）

スタータスイッチを《 切》にするとエンジンが停止します。

《入》（運転）……電源入（運転中）

スタータスイッチを《入》にすると電気装置が使用できます。

《 始動》……エンジン始動

スタータスイッチを《 始動》位置に回すとエンジンが始動します。

手を放せば自動的に《入》位置に戻ります。

取扱いのポイント

- **脱こく・刈取クラッチレバーを《切》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとエンジンの始動はできません。**

❷ コンビネーションスイッチ

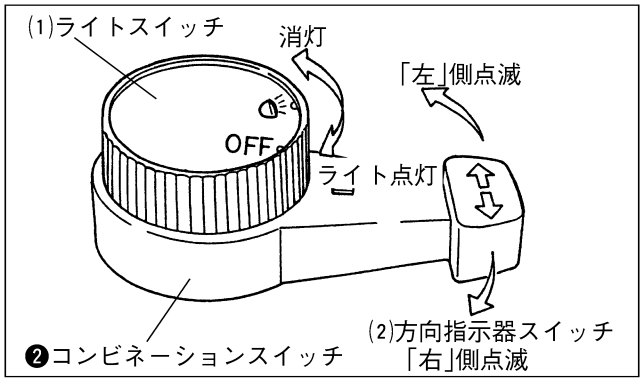
(1) ライトスイッチ

《ＯＦＦ》……消灯

《 》……前照灯が点灯します。

(2) 方向指示器スイッチ

スイッチを前側に操作すると左側，後側に操作すると右側の方向指示器が点滅します。

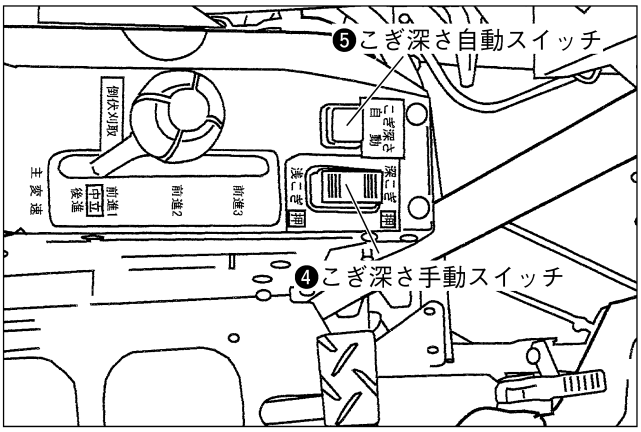


❸ ホーンボタン



(1) ホーン機能

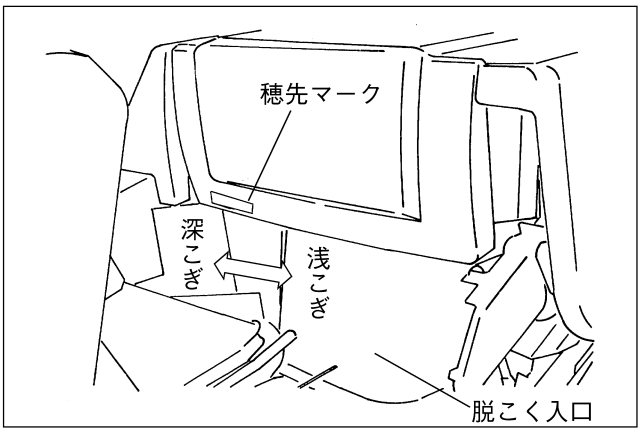
スタータスイッチを《**入**》の位置にして，ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。走行するときの警報，作業時の合図に使用します。

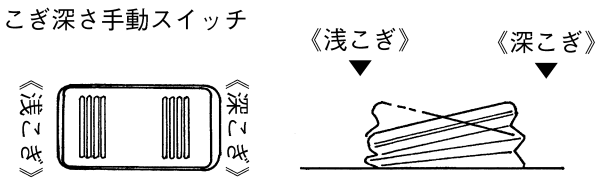


❹　こぎ深さ手動スイッチ

作物の長さに合わせて，脱こく部へ供給される作物の穂の位置を調整するスイッチです。

こぎ深さ自動スイッチを「切」にしてから，脱こく入口の「**穂先マーク**」位置に作物の穂先がくるようにこぎ深さ手動スイッチで調整します。





《深》（**深こぎ**）……こぎ深さが深い位置に移動し，スイッチから手を離すとその時の位置に固定されます。

《浅》（**浅こぎ**）……こぎ深さが浅い位置に移動し，スイッチから手を離すとその時の位置に固定されます。

取扱いのポイント

- **こぎ深さ自動スイッチが「入」の時は，こぎ深さ手動スイッチを操作しても，こぎ深さは移動しません。**

❺　こぎ深さ自動スイッチ

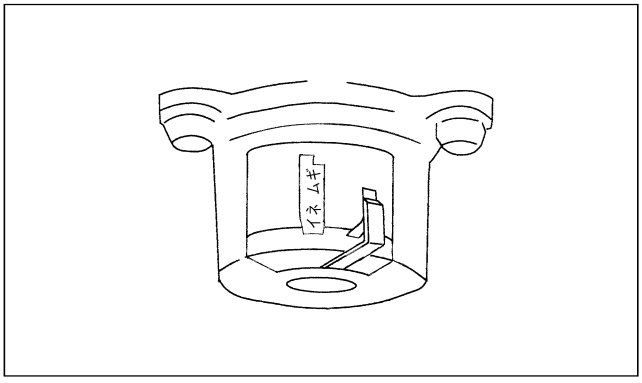
（[**自動制御について**] 42ページ参照）

❻　回転計

・こぎ胴の適正回転範囲を表示します。

・回転範囲の調整はエンジンを始動し，脱こく・刈取クラッチレバーを《脱こく》または《刈取》にし，回転計を見ながらエンジンコントロールレバーで調整します。

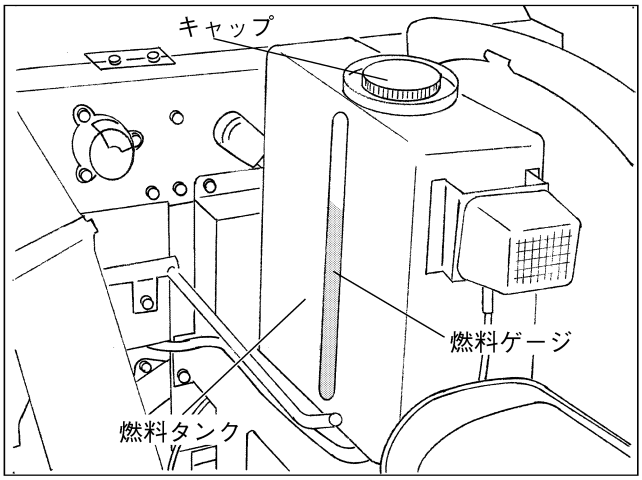
・作業中は回転計の針が常時「**色別表示**」の範囲内に位置するようにして使用します。



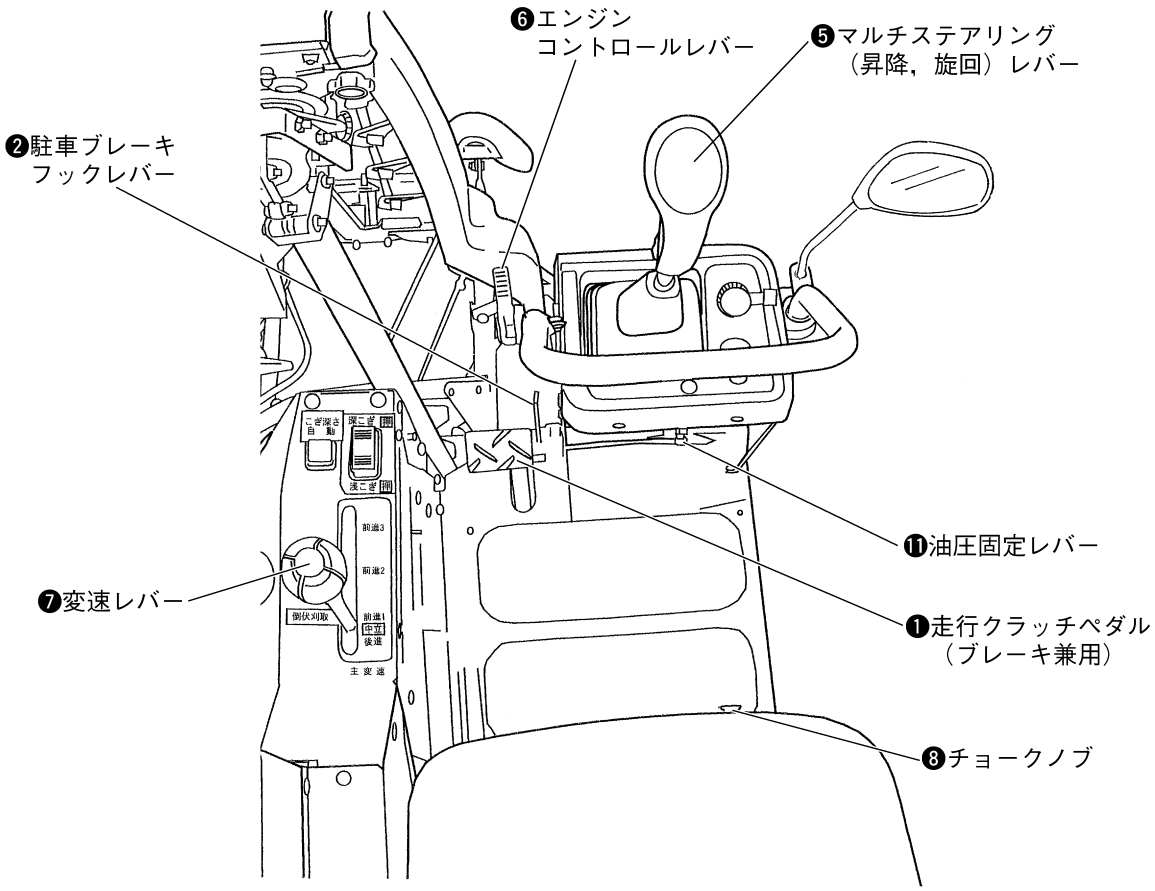
❼　燃料ゲージ

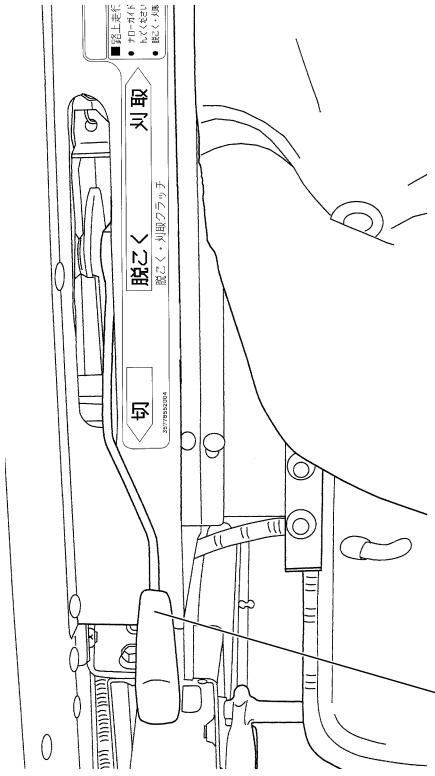
燃料の残り量を，油面の高さで示します。

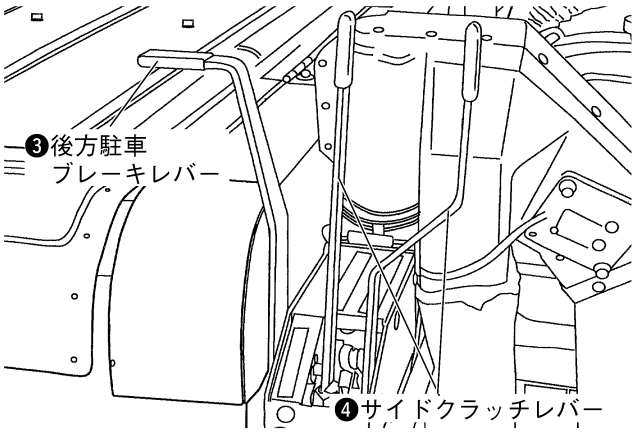
・満量（7.5L）から減ってくるのに従って油面が下がっていきます。



2．ペダル・レバー関係







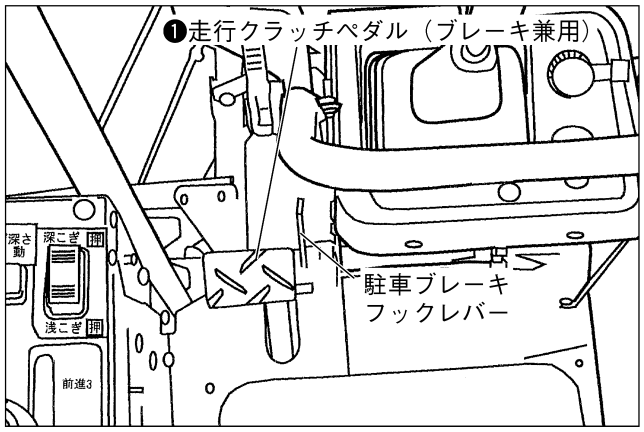
⓬脱こく・刈取クラッチレバー

❶ 走行クラッチペダル（ブレーキ兼用）

⚠警告 傷害事故防止のために

◆走行クラッチペダルは自動車への積込み・積降ろし等アユミの上では操作しないでください。転落事故を起こすことがあります。

◆走行クラッチペダルに足を乗せたまま旋回操作をしないでください。
ペダルに足を乗せていると旋回後も直進に戻らないことがあります。



機械の始動，停止（ブレーキ），変速レバーの操作，駐車ブレーキに使用します。

⑴ **エンジンの始動に使用します。**

・エンジンを始動する時は走行クラッチペダルをいっぱいに踏込みます。

⑵ **変速レバー操作時に使用します。**

・変速レバーを切替える時，走行クラッチペダルをいっぱい踏込みます。

取扱いのポイント

- **脱こく・刈取クラッチレバーを《切》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとエンジンの始動はできません。**

⑶ **機械の停止（ブレーキ）に使用します。**

・走行クラッチペダルをいっぱいに踏込むと，トランスミッションへの動力が断たれ，ブレーキがかかる構造になっています。

⑷ **駐車ブレーキとして使用します。**

・走行クラッチペダルをいっぱい踏込んで駐車ブレーキフックレバーを手前側に倒すと「**駐車ブレーキ**」がかかります。

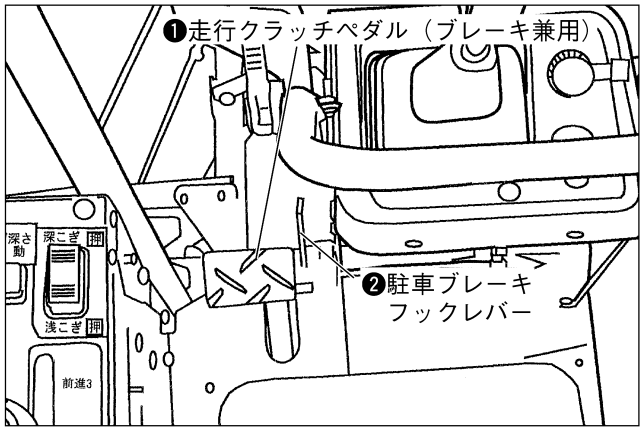
取扱いのポイント

- **走行クラッチペダルを半クラッチ状態で使用するとカウンタ駆動ベルトが焼損する恐れがあります。**
- **作業中，走行クラッチペダルを踏むと走行と同時に刈取部も停止します。**

❷ 駐車ブレーキフックレバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆坂道など傾斜のある所では駐車しないでください。やむをえず駐車する場合には，駐車ブレーキをかけ，木片などでクローラに「歯止め」をしてください。



走行クラッチペダルをいっぱい踏込んだ状態で駐車ブレーキフックレバーを手前側に倒すとフックがペダルにかかり，駐車ブレーキがかかります。

駐車ブレーキを「**解除**」する時は，走行クラッチペダルをいっぱい踏込んだ状態で駐車ブレーキフックレバーを前方に倒します。

取扱いのポイント

- **走行クラッチペダルに駐車ブレーキフックレバーをかけた状態で，後方駐車ブレーキレバーを操作してもブレーキがかかった状態を「解除」することはできません。解除するには，後方駐車ブレーキレバーを《切》位置にし，走行クラッチペダルを踏込んで駐車ブレーキフックレバーを解除します。**
- **駐車ブレーキフックレバーの解除は確実に前方に倒してください。（途中位置に有ると，振動等で落下し，走行クラッチペダルが作用しなくなることがあります。）**

❸ 後方駐車ブレーキレバー

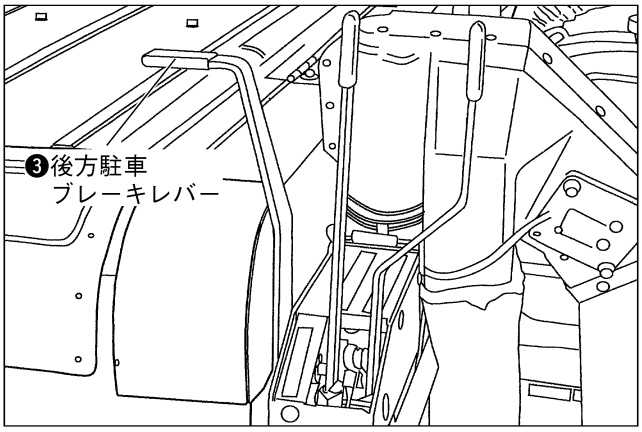
⚠警告 傷害事故防止のために

◆坂道など傾斜のある所では駐車しないでください。やむをえず駐車する場合には，駐車ブレーキをかけ，木片などでクローラに「歯止め」をしてください。

◆後方駐車ブレーキレバーは，自動車への積込み，積降ろし等，アユミの上では操作しないでください。

後方操作部より駐車ブレーキをかける時に使用します。

・後方駐車ブレーキレバーを後方に倒すと駐車ブレーキがかかります。



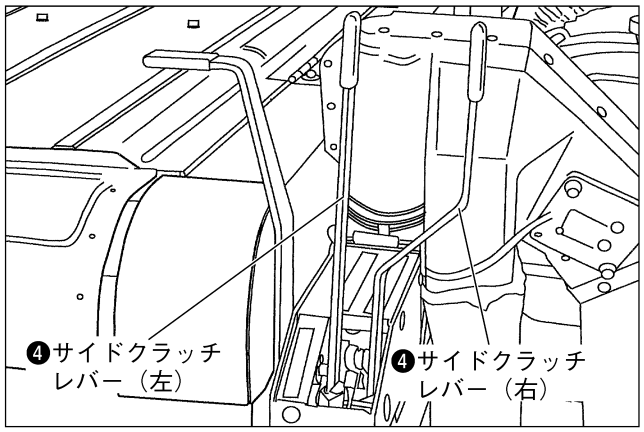
❹ サイドクラッチレバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆旋回する時は速度を落として行なってください。また,旋回はこきざみにしてください。
◆急な坂道や自動車等への積込み・積降ろしの時は，アユミの上でサイドクラッチレバーを操作しないでください。レバー操作をすると急に方向転換して転落事故を起こすことがあります。

機体に乗車せず後方で操縦する時に使う操作レバーであり，後方へ引く事によってまずクラッチが切れ，更に引くとブレーキが掛かります。

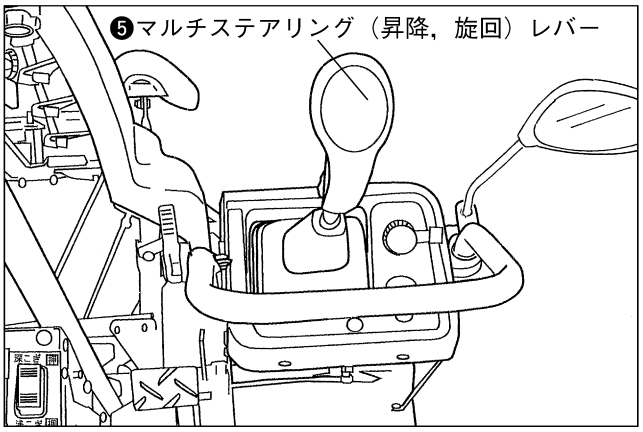
・左右のレバーがあり，どちらか一方のレバーを途中まで引くと徐々に曲がり,更に引くと“引いた方”に旋回します。
・両方のレバーを同時に引くと,“左右とも”クラッチが切れ，更に引くとブレーキが掛かります。



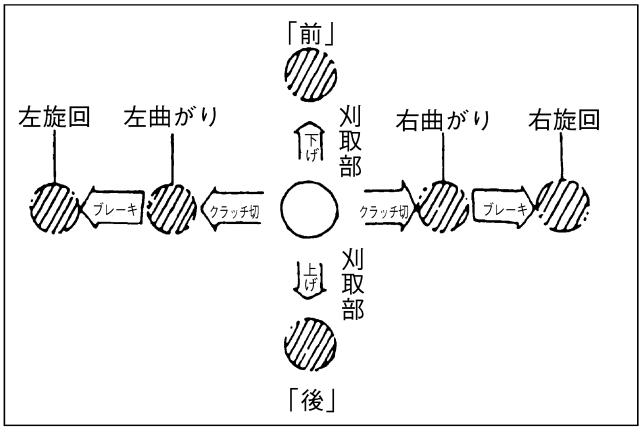
❺ マルチステアリング（昇降，旋回）レバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆旋回する時は速度を落として行なってください。また,旋回はこきざみにしてください。
◆急な坂道や自動車等への積込み・積降ろしの時は，アユミの上でマルチステアリング（昇降，旋回）レバーを左右操作しないでください。レバー操作をすると急に方向転換して転落事故を起こすことがあります。



・１本のレバー操作により，左右操作で「**旋回**」，前後操作で刈取部の「**下げ**」「**上げ**」ができます。
・左右方向に浅く倒すと機械は倒した側に徐々に曲がり，深く倒すと旋回します。



取扱いのポイント

●マルチステアリング（昇降，旋回）レバーを斜め方向に操作すると，刈取部の上げ下げと方向修正・旋回が同時に行えます。

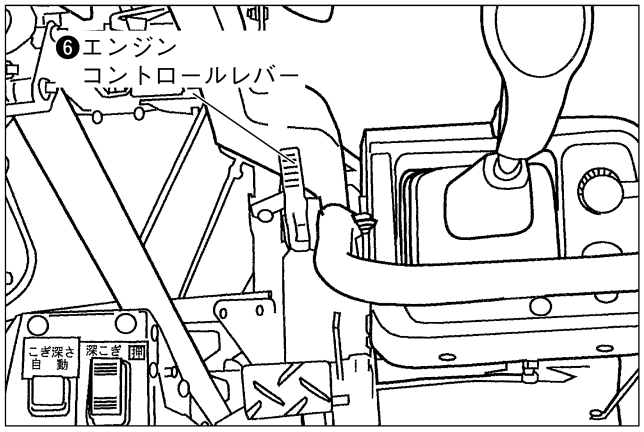
❻ エンジンコントロールレバー

エンジンを増速・減速するレバーです。

・「**始動**」の時は……エンジンコントロールレバーを手前に引き，《 》（**高速**）と《 》（**低速**）の中間の位置にしてエンジンを始動します。

・「**作業**」の時は……適正回転域になるよう回転計の指針を合わせます。

・「**停止**」の時は……《 》（**低速**）の位置にしてエンジンを停止します。



❼ 変速レバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆機械から離れる時は，中立（N）でも動く場合があるので，平坦な場所で駐車ブレーキをかけエンジンを停止してください。

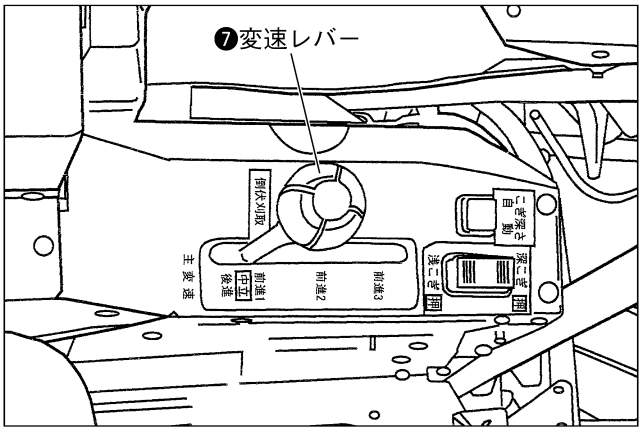
◆前後進の切替えは走行クラッチペダルを踏んで，機械が一旦停止してから行なってください。

◆自動車等への積込み・積降ろしの時は，アユミの上で変速操作，クラッチ操作をしないでください。

◆変速レバー前進《3》での急発進，急停止はさけ，エンジン回転を下げて，発進，停止を行ってください。

・走行は，前進方向《1》・《2》・《3》の3段，後進方向《R》の1段，の変速ができます。

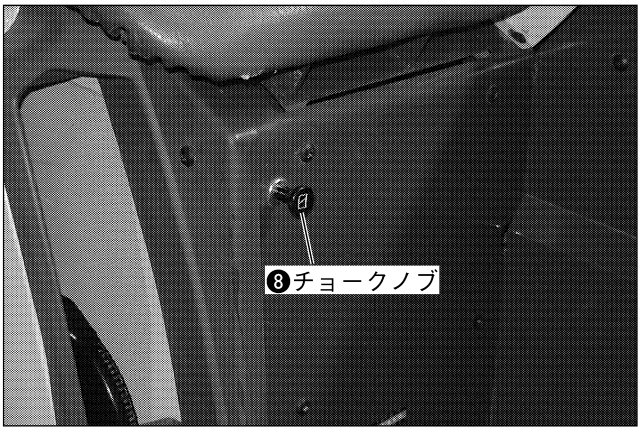
・変速操作時は走行クラッチペダルをいっぱい踏込みます。



❽ チョークノブ

チョークノブを引くと，燃料の混合気が濃くなり，エンジンの始動を容易にします。

・エンジンが冷えている時……
　ノブをいっぱい引いて始動。
・エンジンが暖まっている時……
　ノブを半分程度引く，又は戻したままで始動。
・エンジンが始動したら，エンジンの調子をみながらノブを戻します。



❾ エンジンカバーストッパ

⚠注意

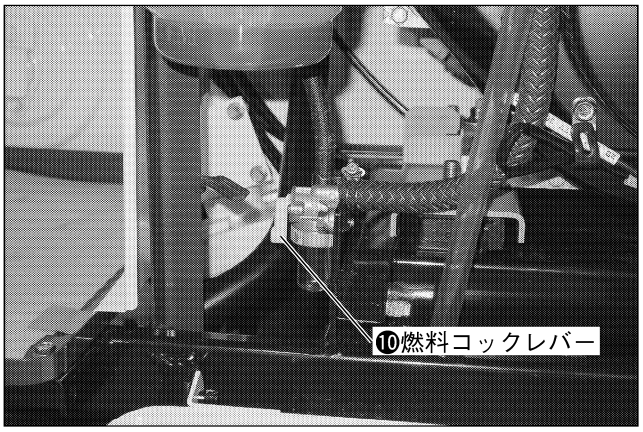
◆エンジンカバーを開閉する時にはエンジンを停止して行ってください。
◆エンジンカバーを閉じた時は，ストッパが作用していることを確認してください。

エンジンカバーを開閉する時に操作します。座席シートを反転させ，ストッパを指で上へ持ち上げると，カバーを開く事ができます。カバーを閉じると，自動的に固定されます。



❿ 燃料コックレバー

タンク内の燃料を出したり，止めたりするときに操作します。



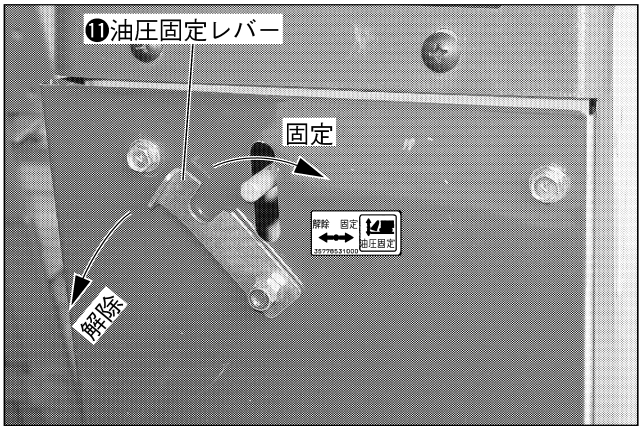
⓫ 油圧固定レバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆刈取部を上げて，その下で整備等する時は，エンジンを停止し，油圧固定レバーを《油圧固定》の位置にしてください。さらに刈取部が下がらないように刈取部の下に固定脚等をおいて作業してください。
◆油圧固定レバーを操作する時は，刈取部付近に人がいないことを確認してください。

刈取部の「**上げ**」・「**下げ**」を固定します。

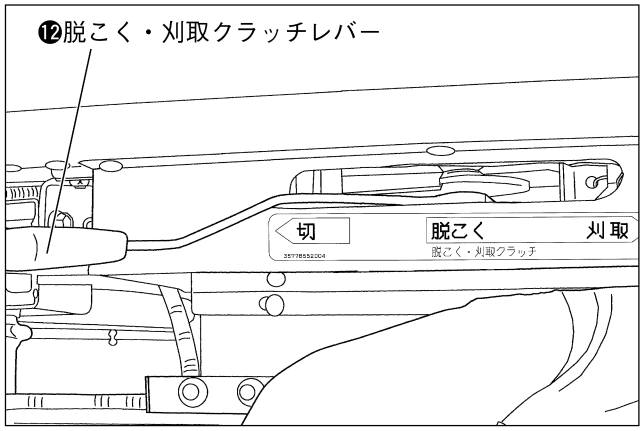
・油圧固定レバーを《**油圧固定**》位置にするとマルチステアリング（昇降，旋回）レバーの前後操作が固定され，刈取部は「**上昇・下降**」できません。
・通常の作業時は油圧固定レバーを《**解除**》にします。



⑫ 脱こく・刈取クラッチレバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆脱こく・刈取クラッチレバーを《脱こく》または《刈取》に操作する時は，コンバインの周囲から人を遠ざけてください。



・**脱こく・刈取クラッチレバー**は，刈取部と脱こく部の運転・停止を操作するレバーです。
・前方《**脱こく**》に操作すると，まず脱こく部のクラッチが入り，更に《**刈取**》に操作すると，刈取部のクラッチが入ります。
・後方《**切**》に操作する時は，刈取部が先に切れ，更に操作すると脱こく部のクラッチが切れます。

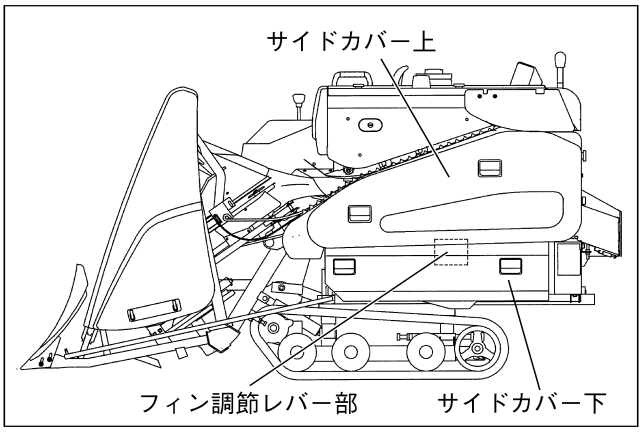
取扱いのポイント

- **刈取り作業を行う時は，脱こく・刈取クラッチレバーを，回転計のそれぞれの「色別表示」以下では《脱こく》または《刈取》にしないでください。脱こく部の詰まりの原因となります。**
- **脱こく・刈取クラッチレバーが《脱こく》または《刈取》の位置にある時はエンジンは始動できません。**
- **エンジンを始動する時は，脱こく・刈取クラッチレバーを《切》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込んでください。**

⑬ フィン（選別量）調節レバー

作物や刈取りの条件により，モミに小枝梗の付着が多いときや稈切れ混入，選別が悪い場合，ロスが多い場合に調節するレバーです。

(1) サイドカバー上，下を外します。



(2) ナット（１個）を外し，点検蓋を上方へスライドさせて外します。

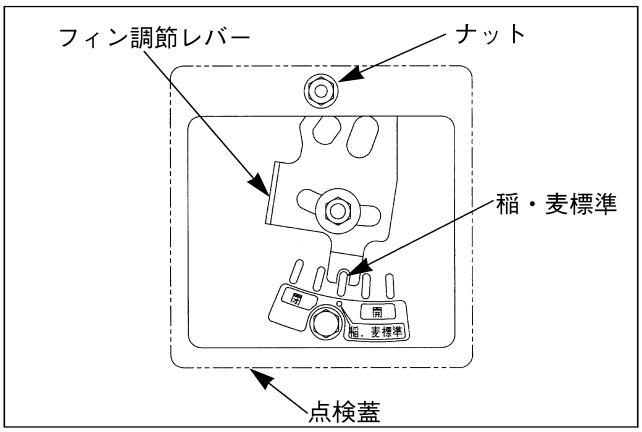
(3) 作物の条件により下記を参考にしてフィン調節レバーで調節します。

「閉」方向に調節

・選別が悪い時。　・小枝梗が多い時。

「開」方向に調節

・ロスが多い時。　・脱ぷが多い時。

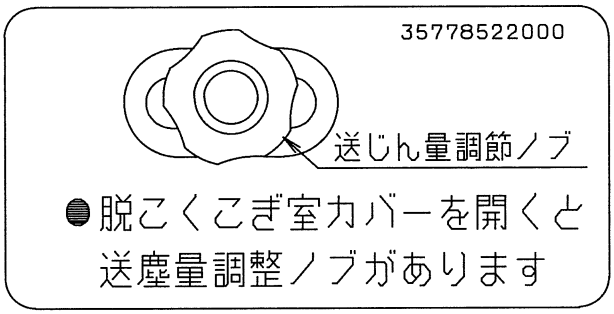


取扱いのポイント

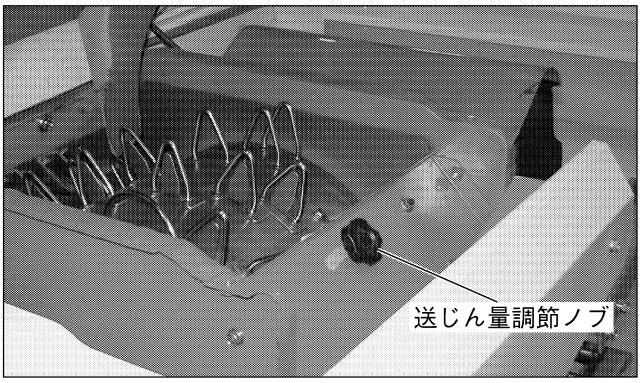
- **レバーを操作する時は，脱こく内部のワラクズ等がきれいに排出されるまで脱こく部を空運転してからエンジンを停止し，行なってください。**
- **シーズン途中や格納前にも作動をスムーズにするために，時々同じ方法でレバーを操作してください。**

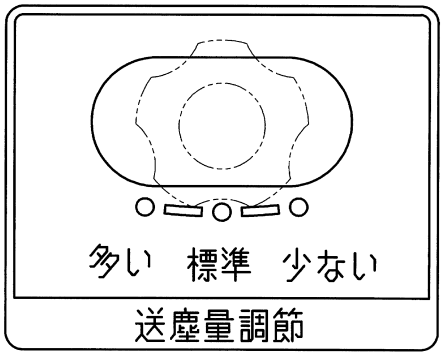
⓮ 送じん量調節ノブ

こぎ室内のワラクズの流れを調節するノブです。



脱こくこぎ室カバー上面に案内マークがありますので，こぎ室を開いてから操作してください。



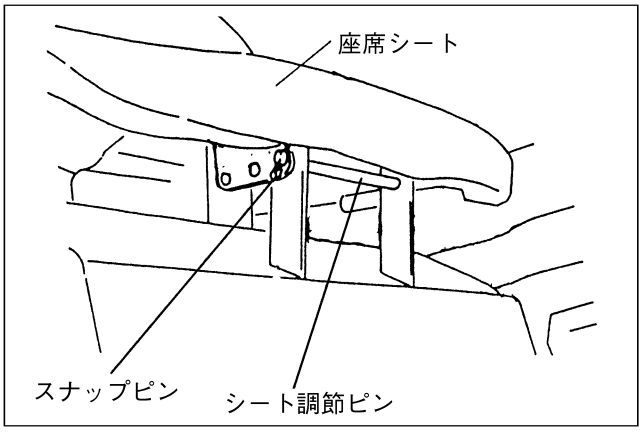


作業状態	送塵量調節ノブ位置
こぎ室内で「ゴトゴト音」がする場合	《多　い》
通常の刈取りの場合	《標　準》
枝梗の付着が多い場合	《少ない》

⓯ シート

シートの前後位置がシート調節ピンで3段階に調節できます。

スナップピンを外し，シート調節ピンの位置を変えて，シートの前後位置を調節します。



3．電装関係

⚠警告 火災防止のために

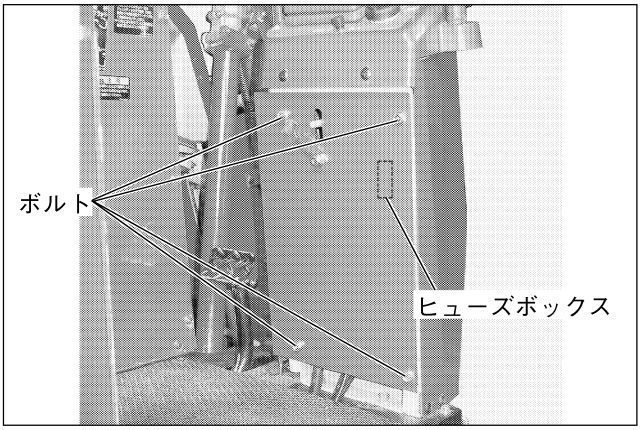
◆取付けてあるヒューズと同じ容量のヒューズを使用してください。針金，銀紙などを使用すると配線の過熱焼損の原因になります。

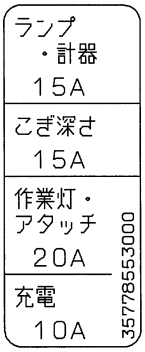
配線の回路に異常を生じたとき，事故を未然に防止するためにヒューズ及びメインヒューズが設けてあります。

運転中,電気系統の異常を確認したときは,ヒューズ及びメインヒューズの状態をチェックします。

❶ ヒューズボックス

運転席前パネル内にヒューズボックスがあります。





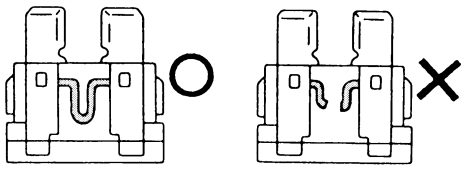
・ヒューズの交換

各ヒューズの該当する装置が作動しないときは次のように処置してください。

(1) スタータスイッチを《 STOP 切》位置にします。

(2) 運転席前パネルのボルト4本を外し，ハーネスに取付てあるヒューズボックスから該当ヒューズを取外して交換します。

(3) ヒューズが切れていれば，スペアのヒューズと交換してください。



取扱いのポイント

●交換してもヒューズが切れるときは,「お買いあげ先」で点検を受けてください。

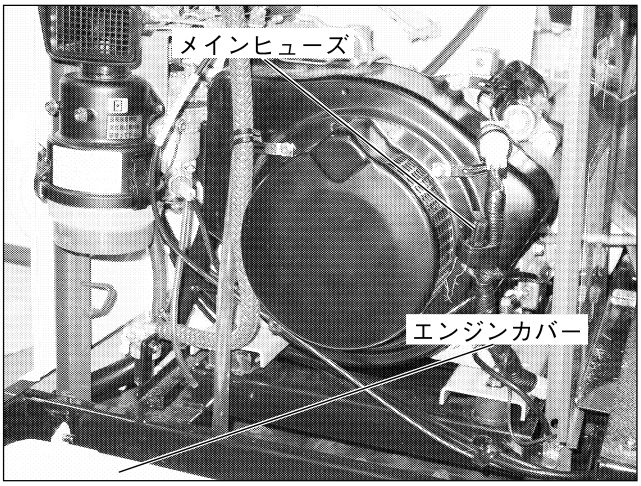
❷ メインヒューズ

> ⚠警告 ヤケド防止のために
>
> ◆作業直後はエンジン部が高温になっています。メインヒューズの点検はエンジンが冷えてから行なってください。

エンジンルーム内の電気配線に直接取付けてあります。全ての電気装置の安全装置となっていて，メインヒューズが切れると全ての電気装置が作動しなくなります。

⑴ エンジンカバーを開きます。（［**手入れのしかた**］の「**エンジンカバーの開閉のしかた**」47ページ参照）

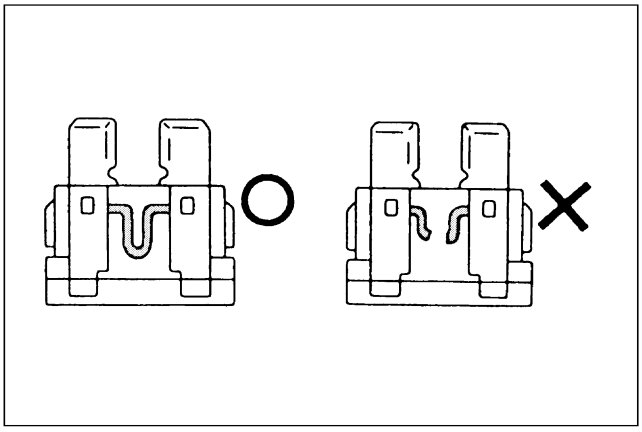
⑵ エンジン前方部にメインヒューズがあります。



・メインヒューズの交換

⚠警告 火災防止のために

◆取付けてあるメインヒューズと異なる容量のヒューズを使用しないでください。また針金，銀紙などをメインヒューズのかわりに使用しないでください。使用すると電線の過熱焼損の原因になります。



⑴ バッテリ（−）端子を外します。

⑵ メインヒューズが右図右側（×印）のようであればヒューズ切れです。指定のメインヒューズと交換します。

・ヒューズが溶断した場合，次の機能が作動不能となります。

ヒューズの種類 ＼ 影響の出る機能	こぎ深さ手動	こぎ深さ自動	バックブザー・ホーン	前照灯・方向指示器	エンジン始動	充電	作業灯・アタッチ装置
ランプ計器 （15A：青）			×	×			
こぎ深さ （15A：青）	×	×					
充電 （10A：赤）						×	
メインヒューズ （30A：緑）	×	×	×	×	×	×	×
作業灯・アタッチ （20A：黄）							×

×：作動不能

取扱いのポイント

●ヒューズを取りかえても切れる場合は「お買いあげ先」で点検を受けてください。

運転のしかた

1．運転まえの点検

安全作業のために毎日の運転まえに「**運転まえの点検表**」を参考に点検してください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆給油・注油・点検する時には機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止してから行なってください。

⚠危険 ヤケドや火災防止のために

◆エンジン回転中やエンジンが熱い時は給油・注油をしないでください。
◆燃料補給時は火気を近づけないでください。燃料に引火し火災の原因になります。
◆燃料補給した後は燃料キャップをしめ，こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
◆燃料タンクや燃料ホースの老化や，傷によるもれなどがあると火災の原因になります。作業前や作業後に点検し，傷やもれがあれば交換してください。

「運転まえの点検表」

点検個所	内　　容	処　　置	参照ページ
エンジンカバー	・エンジンカバーの内側にゴミがたまっていませんか。	・ゴミを取除く。	21
マフラやエンジン回り	・ワラクズがたまっていませんか。 ・マフラ,連結パイプ部に損傷（割れ，破れ，ゆるみ，腐食）がありませんか。	・掃除をする。 ・損傷したものは交換。 ・継ぎ部をしっかり締める。	21
サイドカバー（上)(下)	・ワラクズがたまっていませんか。	・掃除する。	—
各部の損傷，汚れ，ボルトのゆるみ	・エンジン始動後の異常音の原因となります。	・損傷したものは交換。 ・汚れはきれいにする。 ・ボルトのゆるみは締める。	—
油もれ	・各給油個所部に油もれがありませんか。	・給油，排油，検油栓のゆるみを締める。 ・直らない時は点検を受ける。	48〜51
燃料ホース	・損傷（割れ，破れ，継ぎ部のゆるみ）や燃料もれがありませんか。	・ホースの交換。 ・継ぎ部をしっかり締める。	62
電気配線	・他の部品に接触していませんか。 ・損傷はありませんか。	・傷んだ配線を交換修理する。 ・電気配線回りのワラクズ等を取除く。	54
エンジンオイル (エンジンクランクケース)	・オイルがオイルレベルゲージの上限，下限の間にありますか。	・エンジンオイルを規定量位置まで補給する。	48
エンジン	・エンジン始動後の異音がありませんか。 ・排気ガスの色はきれいですか。	・点検を受ける。	—

点検個所	内　　容	処　　置	参照ページ
燃料（燃料タンク）	・作業に必要な量の燃料が入っていますか。	・燃料を補給する。 タンク容量：7.5L	47
脱こくフィードチェン	・スムーズに動きますか。	・注油する。	51
ホーン	・ホーンボタンを押せば鳴りますか。	・ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。	16〜18
方向指示灯等の保安部品	・正常に作動しますか。	・球切れ，ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。	16〜18
バックブザー	・変速レバーを「**後進**」位置にした時，バックブザーが鳴りますか。	・ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。	16〜18
回転計	・脱こく・刈取クラッチ《脱こく》または《刈取》で正常に作動しますか。	・点検を受ける。	7
後方駐車ブレーキレバー	・ゆっくり走行してレバー操作した時に正常に作動しますか。	・点検を受ける。	10
サイドクラッチレバー	・ゆっくり走行してレバー操作した時に正常に旋回，停止しますか。	・点検を受ける。	11
マルチステアリング（昇降，旋回）レバー	・ゆっくり走行してレバー操作して正常に旋回，刈取部が上下しますか。	・点検を受ける。	11
走行クラッチペダル（カウンタ駆動ベルト）	・ゆっくり走行してペダルを操作した時に正常に作動しますか。	・異常個所を調べ，処置する。	9，67
チェン，ベルト，ワイヤ，クローラ	・たるみ，損傷はありませんか。	・正常に調整する。	65

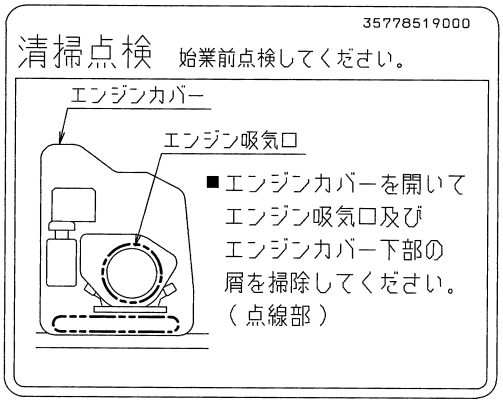
2．エンジンの始動と停止

⚠警告　傷害事故防止のために

◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。
◆始動は座席に座って行なってください。
◆点検整備などで取外したカバー類はすべて取付けてください。
◆変速レバーが《中立》位置，脱こく・刈取クラッチレバーが《切》位置であることを確認してください。
●機械の周囲から人を遠ざけてください。
◆暖機運転は変速レバーを《中立》位置にして，脱こく・刈取クラッチレバーを《切》位置にして駐車ブレーキをかけて行なってください。運転者はエンジンをかけた状態では機械の周囲から離れないでください。
◆空運転する時はこぎ胴部およびカッタ部を開かないでください。

1．エンジン始動のしかた

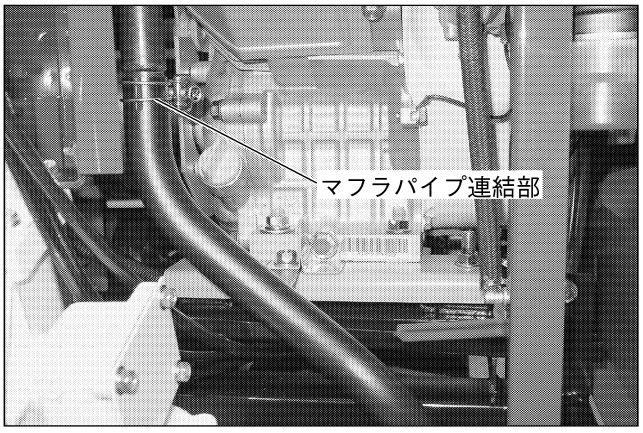
❶　エンジンを始動する前に清掃点検マークに従って，掃除をしてください。



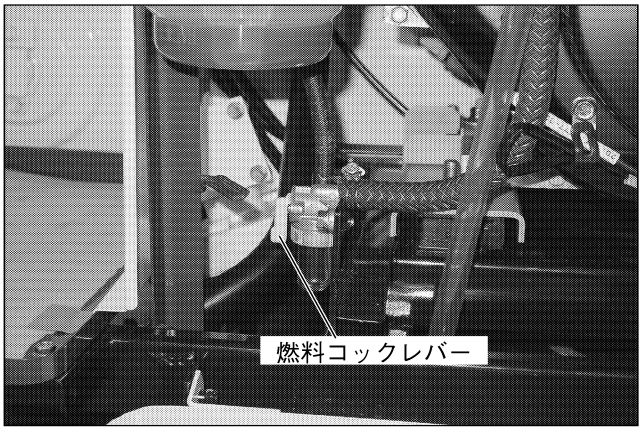
❷　座席シートを反転させ，エンジンカバーストッパを指で持ち上げ、エンジンカバーを開きます。



❸　エンジンカバーを開いて
・エンジン吸気口およびエンジンカバー下部の屑を掃除してください。（マーク表示部）
・マフラ付近の屑を掃除してください。
・マフラパイプ連結部の損傷、ゆるみを確認してください。

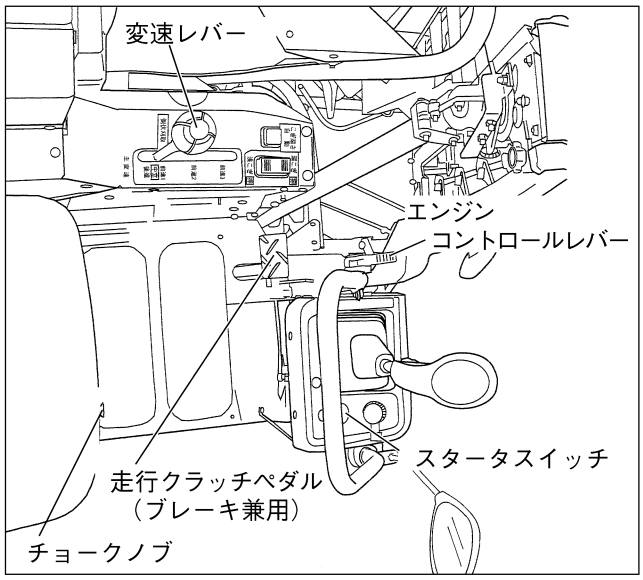


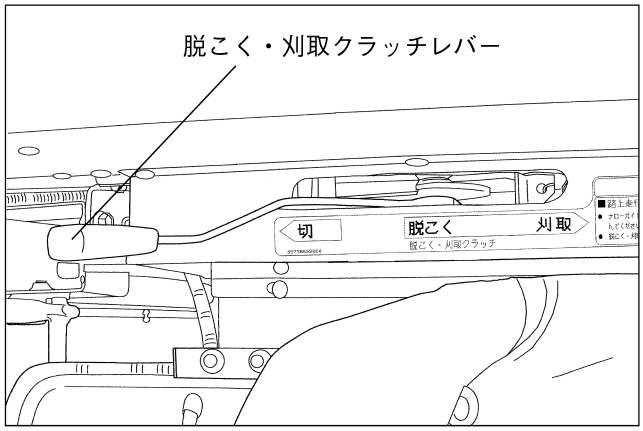
❹　燃料コックレバーを《**開**》にします。



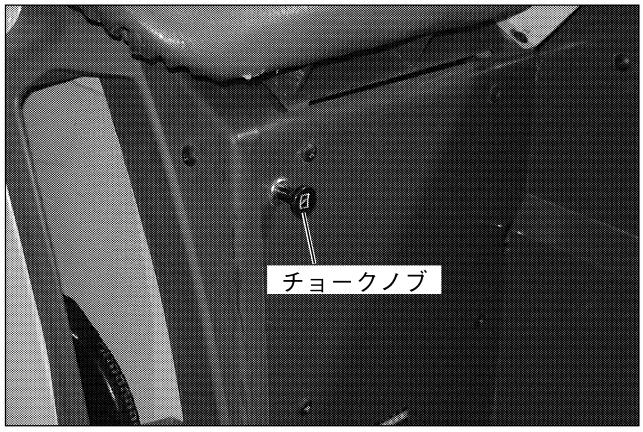
・エンジンカバーを閉じた時は，ストッパが作用していることを確認してください。

❺　変速レバーを《**中立**》位置に，脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》位置にします。





❻　チョークノブをいっぱい引きます。（エンジンが暖まっている時は，半分程度又は戻したままで始動できます）



❼　エンジンコントロールレバーを「**高速**」と「**低速**」の中間位置にし走行クラッチペダルをいっぱい踏み込んだ状態で，

❽　スタータスイッチを《**始動**》位置まで回すと，エンジンが始動します。（手を放すと自動的に《**入**》「**運転**」位置に戻ります，調子をみながらチョークノブを戻していきます。）

取扱いのポイント

- **脱こく・刈取クラッチレバーを《切》位置にし，走行クラッチペダルをいっぱい踏み込まないとエンジンは始動しません。**
- **スタータスイッチは５秒以上の連続使用はしないでください。**
  セルモータは短時間に大きな電力を消費しますので５秒以上の連続使用はバッテリ故障の原因となります。

２．エンジン停止のしかた

❶　エンジンコントロールレバーを「**低速**」位置にします。

❷　スタータスイッチを《 STOP **切**》位置にするとエンジンが停止します。

3．走行・停車のしかた

1．走行のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆走行する前に機械を「収納状態」にしてください。
●バンパを取付ける。
●ナローガイド(サイドデバイダ)を収納する。
◆運転者の他に子供等，人や物を機械にのせないでください。
◆公道走行時は機体後方の後方操作部で操縦しないでください
◆公道走行は交通法規を守って運転してください。
◆ヘルメットをかぶってください。
◆発進，停止および旋回する時は周囲を確認し速度を落としてください。
◆狭い農道や傾斜地では，路肩に寄りすぎないようにして低速走行し，軟弱な路肩や草の生い茂っている所は走行しないでください。

❶ 脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》位置に，変速レバーは《**中立**》位置にしてから，走行クラッチペダルをいっぱい踏み込んでエンジンを始動します。

❷ マルチステアリング（昇降旋回）レバーで刈取部先端を「**20cm**」程度上げ，油圧固定レバーを「**固定**」にして，刈取部を固定します。

❸ 走行クラッチペダルをいっぱい踏み込んだまま変速レバーを任意の位置に入れます。

❹ 駐車ブレーキフックレバーを「**解除**」し，走行クラッチペダルをゆっくり離すと発進します。

※座席シートから降りて後方操作する場合には，上記❸項の変速レバーを入れる前に，後方駐車ブレーキレバーを後方に引いて，ブレーキを掛けておきます。

上記❹項を行なっても，まだ発進しませんので，機械の後方へ回り，後方駐車ブレーキレバーをゆっくり前方《**切**》位置へ操作して発進します。

2．停車のしかた

⚠警告 火災や傷害事故防止のために

◆平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，刈取部を下げて，各操作レバーを《切》，《中立》位置にしてください。
◆燃えやすいものの近くには止めないでください。
◆機械から離れる時は平坦な場所に置き，刈取部を下げ，駐車ブレーキをかけてエンジンを停止し，スタータスイッチからキーを抜取ってください。

❶ 走行クラッチペダルをいっぱい踏み込み，変速レバーを《**中立**》にします。

❷ 走行クラッチペダルをいっぱい踏み込んだ状態で，駐車ブレーキフックレバーを手前側に倒して駐車ブレーキを掛けておきます。

※座席シートから降りて，機械後方で操作している場合には「**後方駐車ブレーキレバー**」を後方に引くと，クラッチが切れ駐車ブレーキが掛かります。

取扱いのポイント

- **駐車ブレーキは後方駐車ブレーキレバーをかける場合と，走行クラッチペダルに駐車ブレーキフックレバーをかける場合の二通りがあります。**
- **走行クラッチペダルは半クラッチでは使用しないでください。機械がずり落ちたり，カウンタ駆動ベルトが焼損する恐れがあります。**

4．自動車への積込み･積降ろし

・自動車への積込み・積降ろしは，まわりに障害物のない平坦で硬い場所を選び，運転者は誘導する補助者と協力して次のことを守り，慎重に行います。

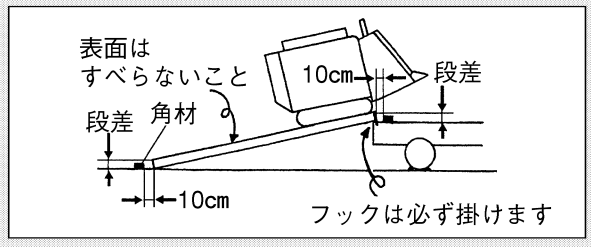
⚠警告　傷害事故防止のために

◆刈取部とカッタを装着した状態では軽トラックを使用しないでください。
- ●軽トラックへ積込んで移動する場合は刈取部とカッタを２人作業で外してください。
- ●自動車は平坦で硬い場所に停止し，駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，変速を１速か後進（バック）に入れ，タイヤに歯止めをしてください。

◆アユミは機械の重量に耐える強度，幅（クローラが外れない幅），長さ（荷台高さの４倍以上）のある，すべり止め，フック付きのものを使用します。
- ●アユミを機械のクローラ間隔に合わせ自動車の荷台に平行にはずれないようにかけます。
- ●機械は「収納状態」にします。

◆積込み・積降ろしは補助者立会誘導のもとに行なってください。また機械の周囲に人を近づけないようにしてください。
- ●アユミの上での進路変更がないように，左右のクローラをアユミの中央にまっすぐにセットします。

◆アユミと路面及び自動車の荷台との段差が６cm以上ある場合は段差の半分程度の高さの角材などを置いてください。



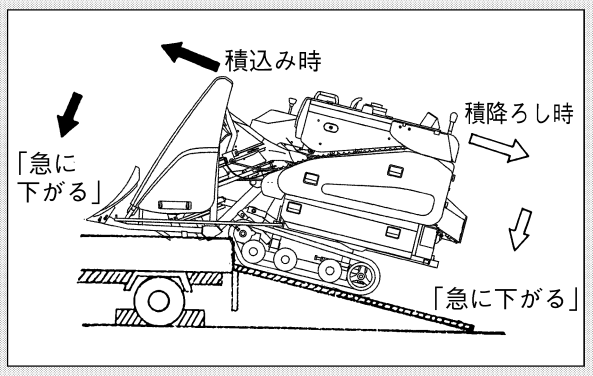
◆積込みは前進，積降ろしは後進で，変速レバー《前進１》《後進》位置で行なってください。

◆機械がアユミの上を走行中は，乗車及び機体後方操作部での操縦をしないでください。また，機械の直前・直後には立たないでください。

◆自動車への積込み・積降ろし中は，つぎの操作はしないでください。操作をすると，急に方向転換し転落する恐れがあります。
- ・変速レバー
- ・マルチステアリング（昇降，旋回）レバー
- ・走行クラッチペダル
- ・サイドクラッチレバー
- ・後方駐車ブレーキレバー

} はアユミの上では操作しないこと。

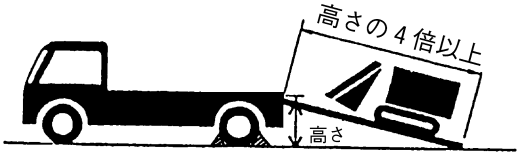
◆機械がアユミから自動車に乗る直前や自動車からアユミに降りる直後では，急に姿勢が変わることがありますので，機械が自動車に乗って（路面に降りて）から近づき，後方駐車ブレーキレバーを「入」れて，機械を停止させてください。



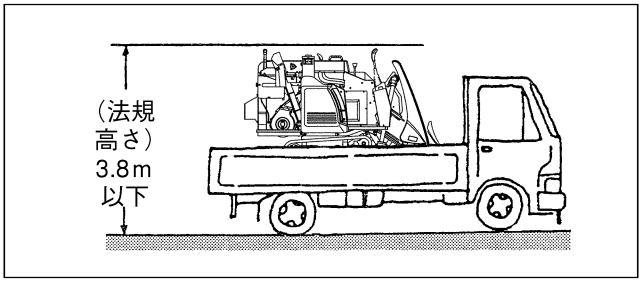
◆各カバーの固定が確実か確認してください。

◆積込みが終わったらコンバインのフレームの４隅のフックにロープ又はワイヤをかけて機械を固定してください。
このフックは他の物のけん引には使用しないでください。

1．自動車・アユミについて



❶　自動車の荷台から機械がはみ出さない車を使用します。



・トラックに積んだ場合，「**車両制限令**」により地上からの高さが3.8m以下に規制されています。3.8mを越える場合は許可が必要になりますので所轄の警察署で緩和申請を受けてください。

❷　自動車は駐車ブレーキをかけ，タイヤに「**歯止め**」をします。

❸　アユミは，機械の重量に耐える強度，幅（クローラが外れない幅），長さ（荷台高さの４倍以上）のあるすべり止め付き，フック付きのものを使用します。

アユミの基準

長さ	自動車の荷台の高さの４倍以上
幅	40㎝以上
数量	２枚
強度	１枚が500㎏以上の重量に耐えるもの

❹　アユミは機械のクローラに合わせ自動車の荷台と平行に「**段差**」のないようにかけ，「**横ずれ**」したり，「**はずれ**」たりしないようにセットします。

❺　機械輸送時の自動車の運転で，急発進・急停止・急ハンドル等の操作は行わないでください。荷くずれや自動車の転倒事故につながります。

２．コンバインの取扱い

❶　ナローガイド（サイドデバイダ）を収納します。(収納状態)

❷　エンジンを始動します。

❸　エンジンコントロールレバーを「**中速**」にセットします。

❹　刈取部をいっぱい上げます。

❺　積込みは，変速レバー《**前進１**》で行います。

❻　積降ろすときは，変速レバー《**後進**》で行います。

❼　積込み・積降ろしは，機械に乗らないで行います。

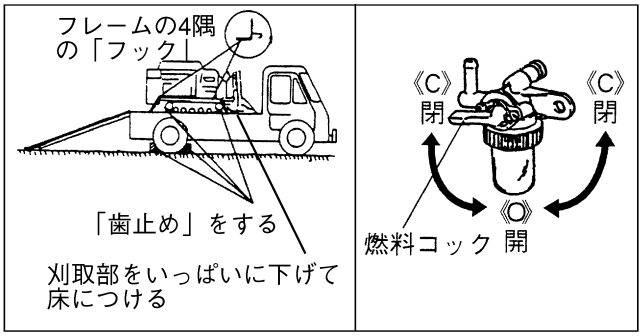
❽　積込み・積降ろしの途中では，進路変更はしないようにします。

❾　補助者の立会誘導のもとに，周囲を確認して行います。

❿　自動車に積込みが終わったら，機械のクローラに「**歯止め**」をし，駐車ブレーキをかけ，機械のフレームの４ケ所のフックにロープ又はワイヤをかけて固定します。

⓫　刈取部は完全に下げて床につけます。

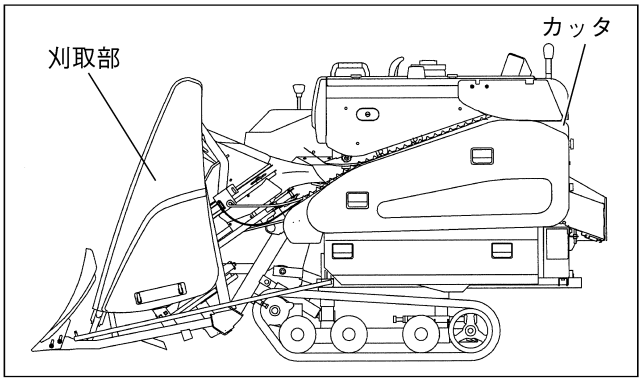
⓬　トラック等での運搬時は燃料コックレバーを閉じてください。



⓭　軽トラックに積込んで移動する場合は，刈取部とカッタを外して下さい。
外さない場合は積載重量違反になります。

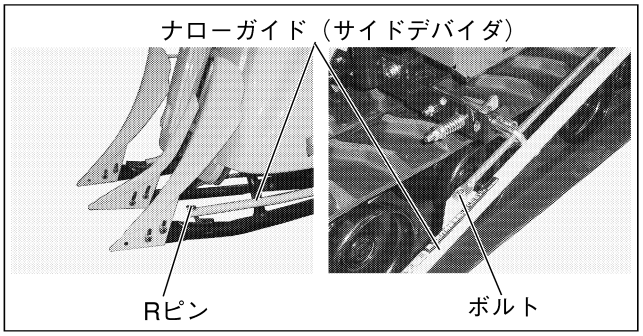
３．軽トラックへの積込み

・軽トラックへ積込む場合には，刈取部とカッタを２人作業で取外して下さい。

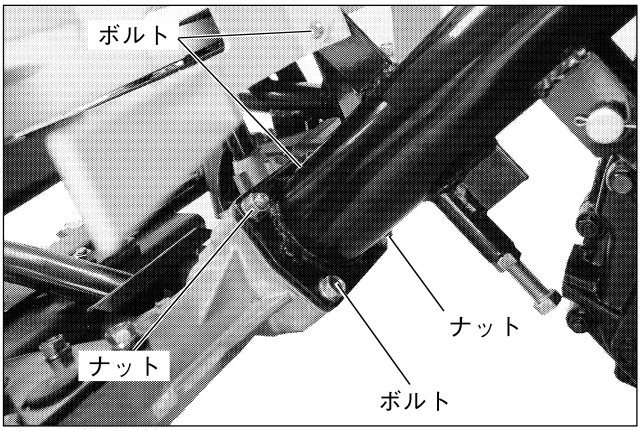


❶　刈取部の取外し

(1)　Rピンとボルトを外して，ナローガイド（サイドデバイダ）を外します。

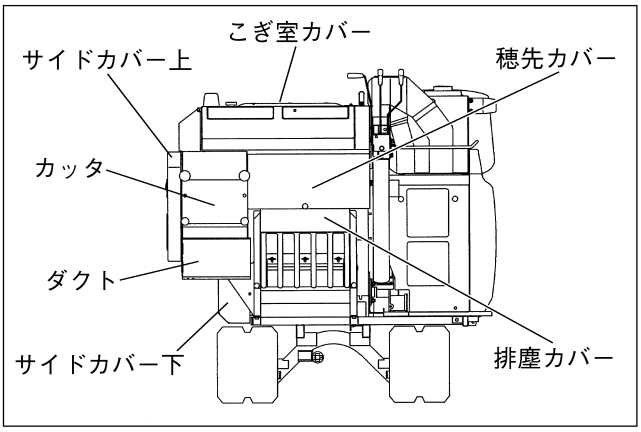


⑵　ボルト（３本），ナット（２ヶ）を外して刈取部を外します。

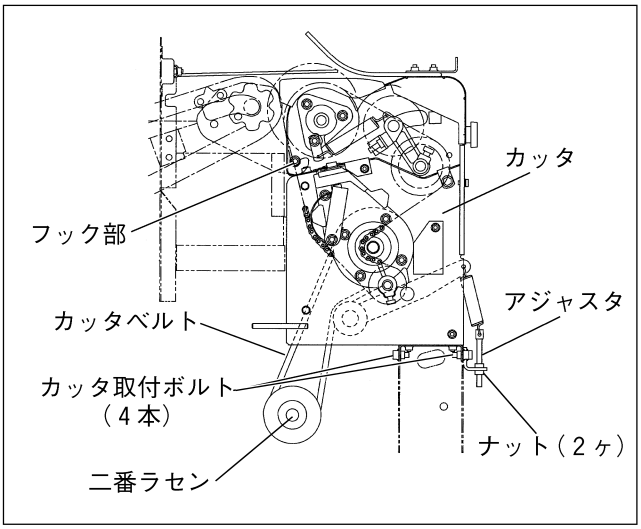


❷　カッタの取外し

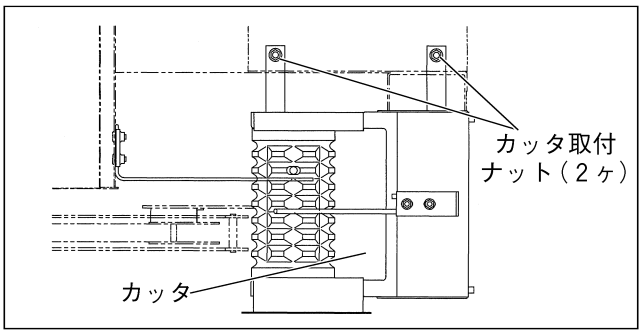
⑴　こぎ室カバーを開き，ノブナット，ノブボルト，ボルト，ナットを外してカバー類（サイドカバー上，下，ダクト，排塵カバー，穂先カバー）を外します。



⑵　ナット，アジャスタを外してカッタベルトをゆるめます。



⑶　カッタ取付ボルト（４本），カッタ取付ナット（２ヶ）を外し，カッタを持ち上げフック部を外してから取外します。



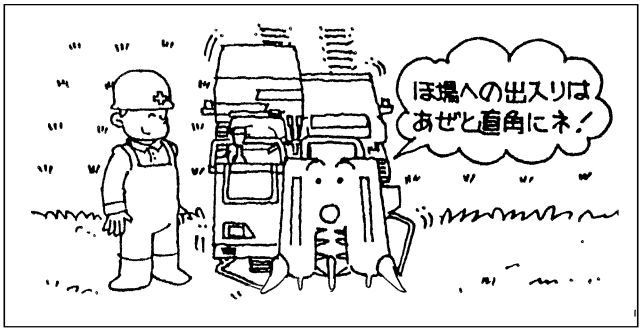
5．ほ場への出入り

⚠警告　傷害事故防止のために

◆10 cm以上のあぜ，溝，10度以上の急傾斜のあるほ場への出入りは，アユミを使用し「低速」で「直角」に行なってください。

◆あぜがくずれないことを確認してから，ゆっくり行なってください。

1．ほ場への出入りのしかた



❶　刈取部を上げ，エンジンコントロールレバーを「**中速**」にセットし，変速レバーを《**前進１**》または《**後進**》にしてあぜに直角に走行します。

❷　アユミを使用する時は，「**自動車への積込み・積降ろし**」の内容に従って行います。

作業のしかた

1．作業まえの準備

作物やほ場の条件が刈取り作業に適していないと，脱こく精度が低下するおそれがあります。つぎの条件を整えて作業に入ります。

1．作物の条件について

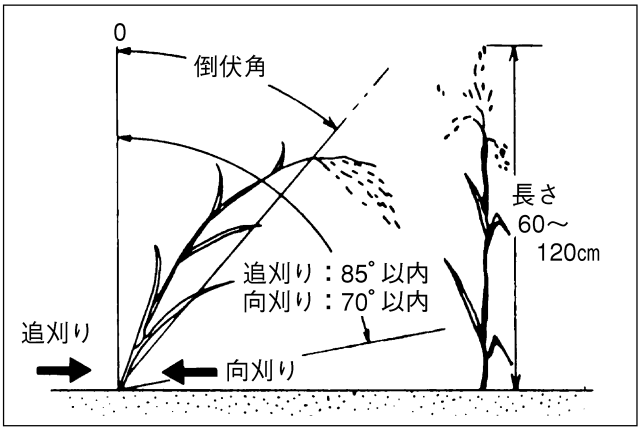
❶ 作物の長さと倒れ

・長さ…60～120㎝まで刈取りできます。

・倒れ（倒伏角）

…追刈り：85°以内まで刈取りできます。

向刈り：70°以内まで刈取りできます。



❷ 作物のぬれ

・ぬれた作物（雨あがり・朝露）の刈取りはつぎのようなことがありますので，乾燥するのを待って刈取ります。

・能率があがらない

・選別不良

・詰まりやすい

・乾燥処理時間の増加

❸ 病虫害におかされた作物

病虫害におかされた作物の刈取りはつぎのようなことがありますので，刈取り作業の速度をおそくするか，またはできるだけその部分は「**手刈り**」をしておきます。

・こく稈が折れやすい

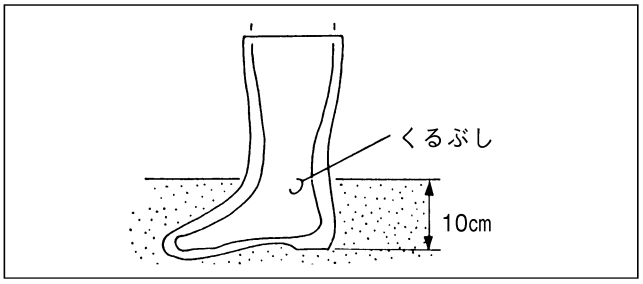
・刈取り・搬送部の詰まり

・脱こく部の詰まり

2．ほ場の条件について

❶ 湿田ほ場のぬかるみ程度

・沈下量が「**くるぶし**」（10㎝）までは作業ができます。

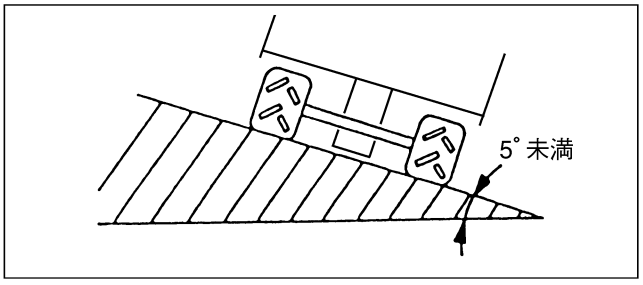


取扱いのポイント

●一度通ったクローラ跡はなるべく通らないようにしてください。

❷ 機械の傾斜

機械の傾斜角度5°以上では作業できません。



取扱いのポイント

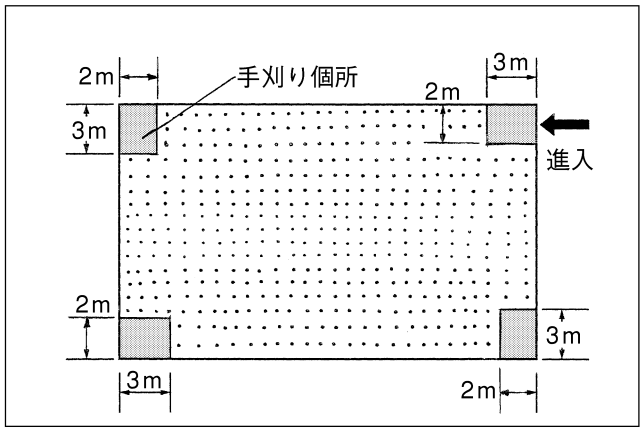
●適応範囲をこえての作業はできません。行わないでください。

●ほ場内に雑草が多いと刈取り作業ができない場合があります。ほ場内の除草に心がけてください。

3．ほ場の準備

❶ 手刈り

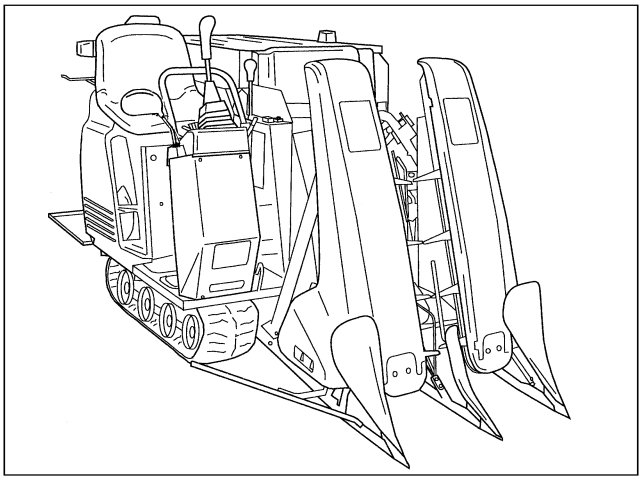
・機械をほ場に入れるまえに，あらかじめ四隅を「旋回できる程度」手刈りします。



取扱いのポイント

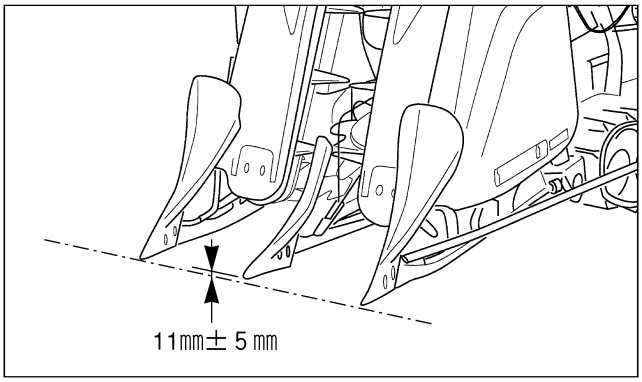
●ほ場の周囲がコンクリートあぜ，又は高あぜで，あぜぎわいっぱいに植付けされているときは，作業に支障がないように手刈りしてください。

4．機械の準備



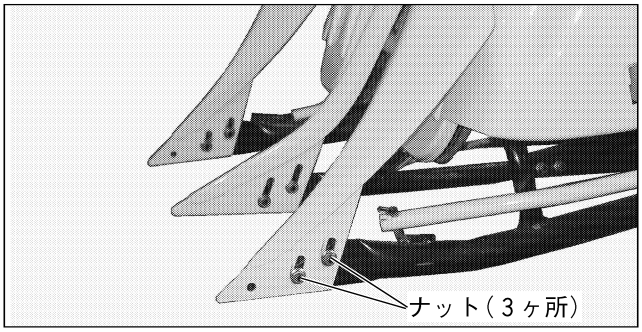
❶ デバイダの調整

(1) デバイダ先端は，中デバイダを左右のデバイダより11㎜±５㎜高くセットします。



(2) 刈取部を下げた時，デバイダよりも先に刈刃が地面に着く場合やデバイダ先端が地面より離れている場合はデバイダの取付け位置を調整します。

・取付ナットをゆるめ，長穴部で調整し確実に締付けます。

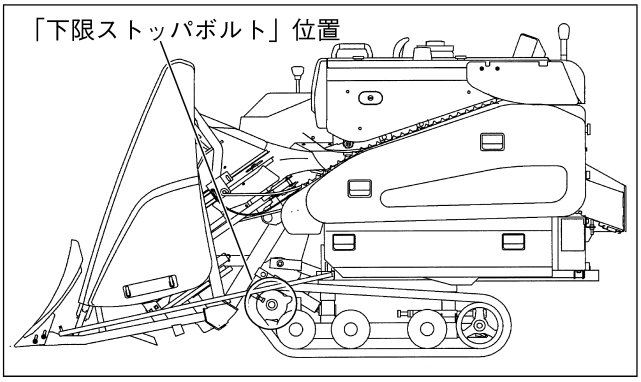


❷ 刈高さの調整

⚠警告 傷害事故防止のために

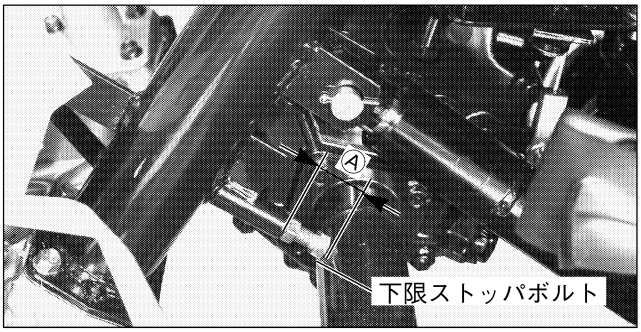
◆下限ストッパボルトを調整する時は，刈取部を上げた後，油圧固定レバーを《油圧固定》の位置にしエンジンを停止してください。さらに刈取部の下に固定脚等をおいてください。

◆脱こく・刈取クラッチレバーが《脱こく》または《刈取》位置では，作業しないでください。



刈取部をいっぱい下げた状態で，デバイダ先端が土に突っ込まないよう，刈取部の下部に装備されている**「下限ストッパボルト」**で最低刈高さを調節します。

ボルトを緩めてⒶ寸法を長くすると刈高さが高くなり，締め込んで短くすると低くなります。



取扱いのポイント

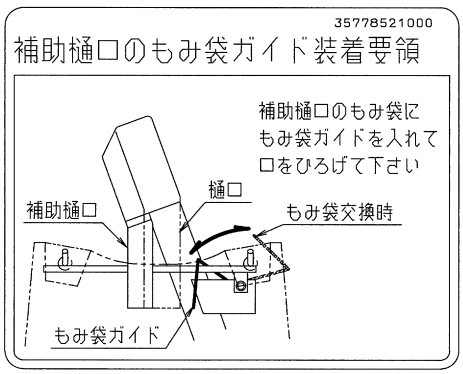
- **クローラが沈下するほ場では，デバイダ先端が突っ込まないようにマルチステアリング（昇降・旋回）レバーで刈取部を少し上げて刈取り作業をしてください。**

❸ モミ袋の取付け

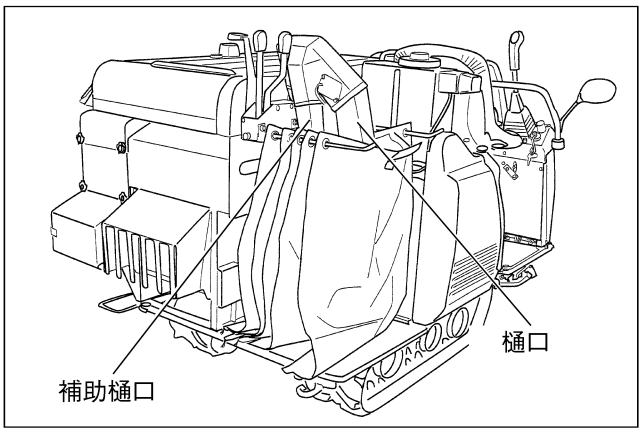
⑴ モミ袋のファスナーを開き，ハンガーに**10枚程度**かけます。

⑵ 一番内側の袋は補助用で，補助樋口から出て来るモミを受けます。

・ガイドを入れて口をひろげてください。

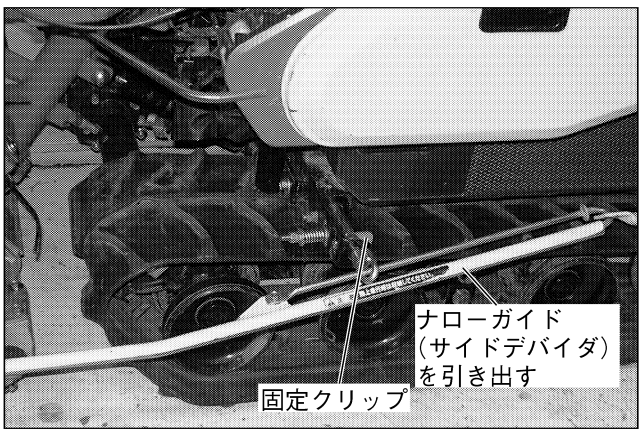


⑶ 一番外側の袋は樋口から出て来るモミを受けるようにしておきます。



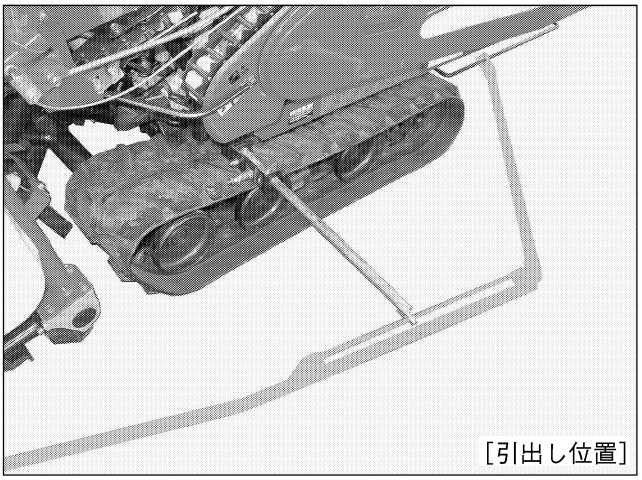
❹ ナローガイド（サイドデバイダ）の調節

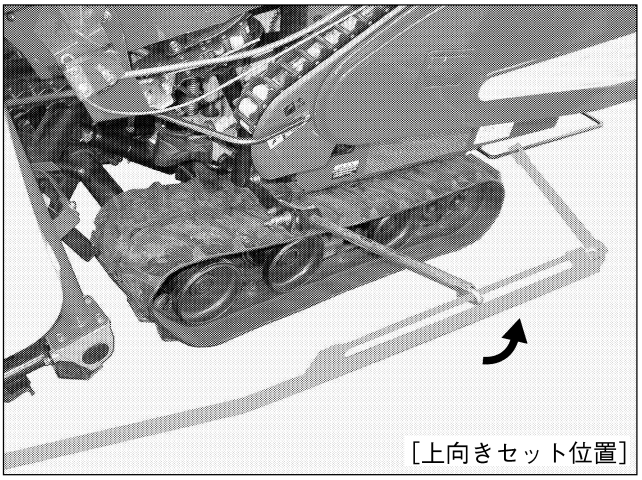
ナローガイド（サイドデバイダ）（左）の固定クリップを指で強くつまんで，固定を外し，ナローガイド（サイドデバイダ）を引出し，作業状態にします。



取扱いのポイント

- 長稈材等で未刈稈が倒れ込み，脱こく入口部の搬送に支障がある場合は，「上向きセット」にして作業を行います。
- ナローガイド（サイドデバイダ）を引出した状態で上に引き上げます。こうする事で，ナローガイド（サイドデバイダ）は上向きになったまま固定されています。（上向セット）





❺　カッタ・排ワラ切替えの調節

・作業に合わせてカッタ・排ワラの切替え調節を行います。（41ページ参照）

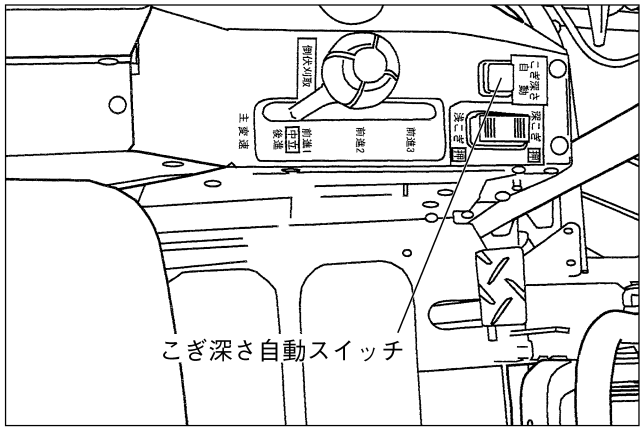
2．刈取り作業のしかた

1．刈取り操作の手順

⚠警告 傷害事故防止のために

◆刈取り作業をするときは，周囲を確認し，機械に人を近づけないでください。

❶ エンジンを始動します。こぎ深さ自動スイッチが点灯していることを確認します。点灯していない場合はこぎ深さ自動スイッチを押します。

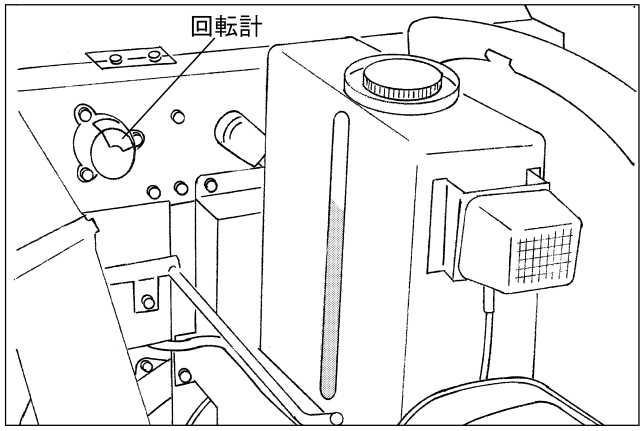


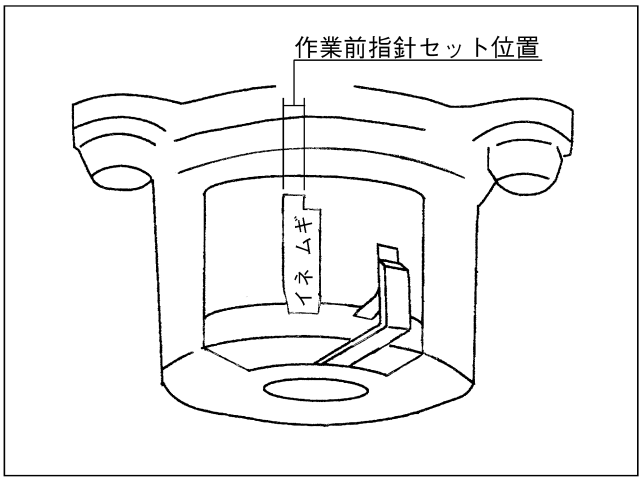
❷ **回転数のセット**

・回転数の調整はエンジンを始動し脱こく・刈取クラッチを《**刈取**》にして，回転計を見ながらエンジンコントロールレバーで調整します。

・作業前はこぎ胴回転が「**作業前指針セット位置**」になるように，作業中は回転計の針が常時「**色別表示**」の範囲内に位置するようにして使用します。

・イネ・ムギの場合……黄色範囲





取扱いのポイント

- **「色別表示」の範囲内に常時指針があるように作業速度を選んでください。**
- **エンジン低速回転で，脱こく・刈取クラッチレバーを《脱こく》または《刈取》にしないでください。詰まりの原因となります。**

❸ 刈取り条件に合わせて適正な速度を選び，クラッチペダルを踏込んで変速レバーを入れます。

作業内容	変速
積込み，あぜ越え（前進）	前進 1
倒伏刈取り	前進 1
標準刈取り	前進 2
路上，ほ場走行（前進）	前進 3
路上，ほ場走行（後進）	後　進
積降ろし，あぜ越え（後進）	後　進
刈取りのときの後進	後　進

❹ クラッチペダルをゆっくり離していくと，機体が走行し，刈取りが始まります。

❺　こぎ深さ手動調整

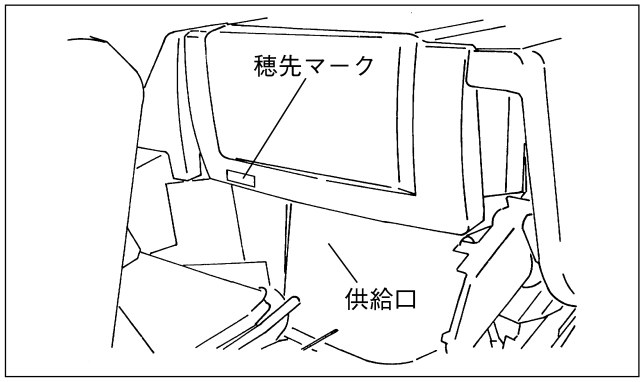
つぎの状態ではこぎ深さ自動スイッチを「切」（ランプ消灯）にし，穂先が**「穂先マーク」**の位置になるよう，こぎ深さ手動スイッチで調整します。

○倒伏角45°以上の倒伏作物

○軟弱な稈で搬送が乱れるとき

○雑草が多いとき

○作物の長さが極端に変動するとき

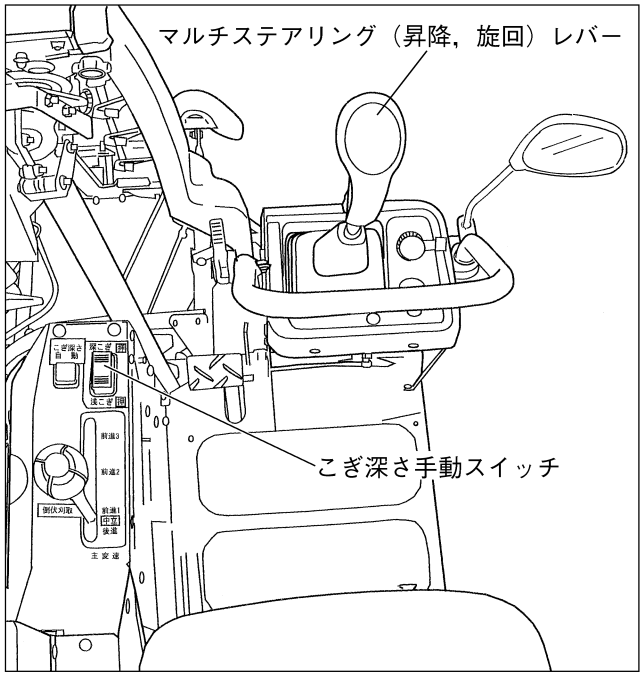


取扱いのポイント

●こぎ深さ自動制御については，「こぎ深さ自動制御の取扱い」の項（42～43ページ）を参考にし，適正こぎ深さになるよう調整してください。

❻　方向修正

刈取り作業中の方向修正はマルチステアリング（昇降，旋回）レバーでこきざみに操作します。



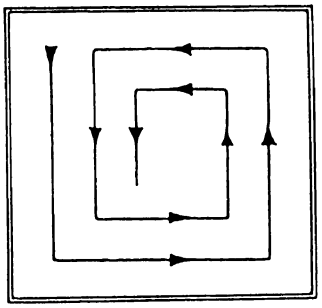
2．ほ場の刈取り手順

❶　回り刈り

・このコンバインでの刈取りは，カッタ作業では**「左回り刈り」**が基本です。

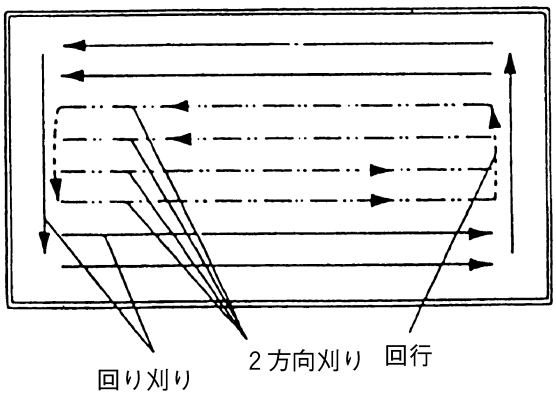
ほ場の形状・大きさにより，つぎのような刈取りをします。

⑴　正方形に近いほ場



⑵　長方形に近いほ場

・回行部分が広くなったら，長い２方向のみ刈取ると能率的です。

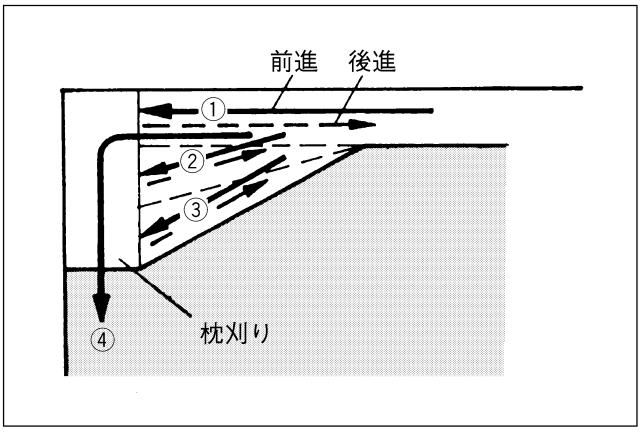


⑶　あぜぎわ刈り

あぜの草等により，デバイダが見づらい場合がありますので，右デバイダをあぜに当てたり，デバイダ先端を突っ込んだりしないように刈取りします。

⑷ コーナー部の刈取り

回り刈り時機械が旋回できるコーナー部が狭い場合の刈取りは下図のようにします。

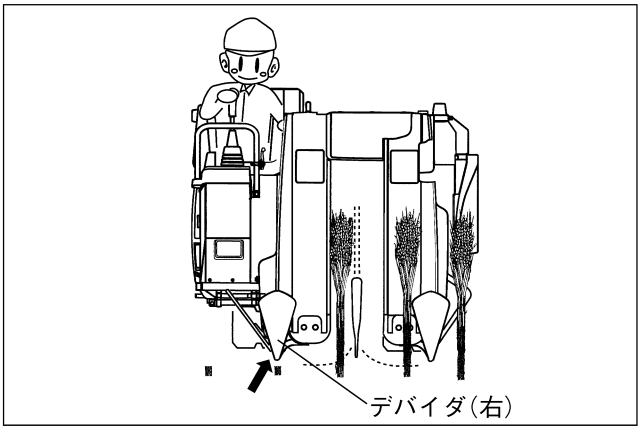


取扱いのポイント

- **コーナー部の刈取り中に方向修正しないでください。途中で方向修正すると稈が倒れ稈長が不揃いになりこぎ残しの原因になります。**
- **②③の斜め刈りで回行しにくいときや湿田では斜め刈りの回数をふやして刈取りしてください。**

⑸ 条合わせ刈り

・デバイダ（右）を基準に刈株の**外側**に合わせ，「**左回り**」で刈残しのないように刈取りします。

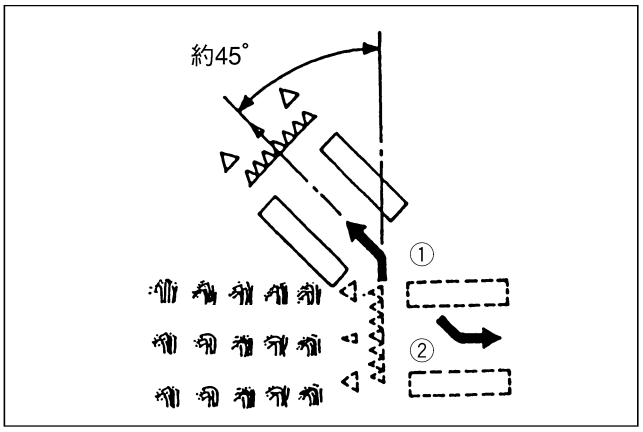


⑹ 旋回のしかた（左回り刈り）

・刈り終わったら刈取部を15㎝程度上げます。
（デバイダでワラを引っ掛けない高さ）

1，脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にしないで，エンジン回転はそのまま，連続作業の状態で旋回し，(湿田では大きく回ります。) 左に「**約45°**」向きを変えて停止します。

2，後進しながら向きをかえ，次の刈取る方向に機械がまっすぐになるように「**条合わせ**」をします。



⑺ 排ワラ作業

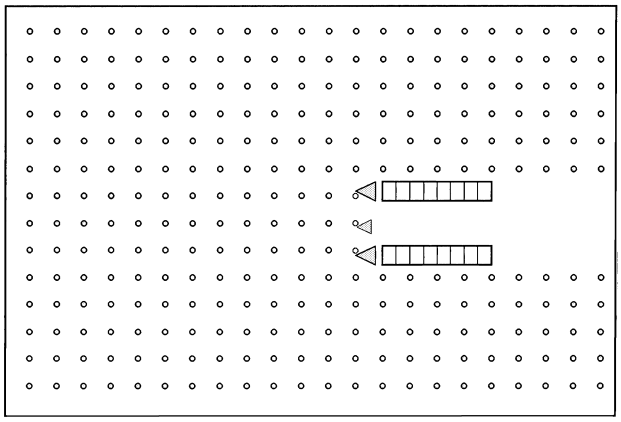
排ワラ作業（ドロッパ，たれ流し）は「**右回り刈り**」で刈取をします。

取扱いのポイント

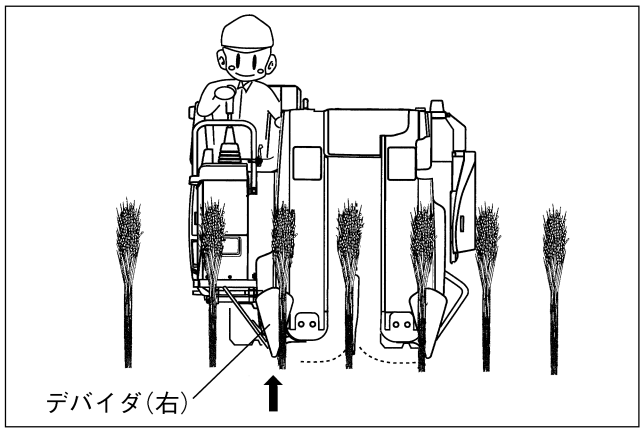
- **旋回のときには，エンジン回転を下げたり脱こく・刈取クラッチレバーを《切》にしないでください。脱こく部の詰まりの原因となります。**

❷ 中割り刈り

広いほ場を能率良く刈取り作業を行う場合は「**中割り刈り**」をして分けて刈取ります。



(1) デバイダ（右）を刈取る株元の右側に合わせて刈取ります。



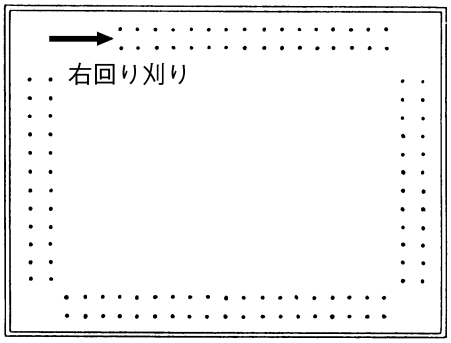
取扱いのポイント

- **倒伏した作物の，中割り刈りはさけてください。**

❸ あぜぎわ刈り

まわりのあぜが高く左回り刈りできない時，右回りであぜぎわを刈取ります。

(1) あぜぎわの２条を残して「**中割刈り**」します。
(2) 中央部は「**左回り**」刈りします。
(3) 残した２条を最後に「**右回り**」で刈取ります。
(4) あぜぎわを「**右回り刈り**」するときは「**ナローガイド（サイドデバイダ）左**」を収納し「**デバイダ左**」をあぜに突っ込まないようにします。

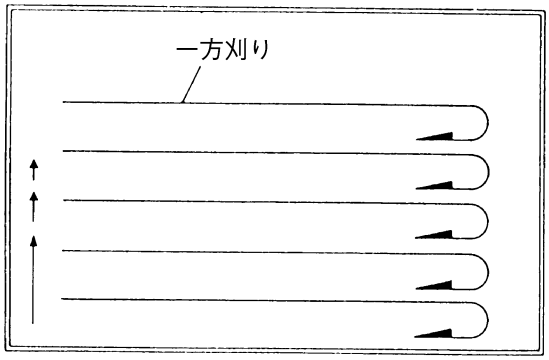


取扱いのポイント

- **あぜがコンクリートの場合はあぜでクローラを傷めることがありますので，左回り刈りで外側2条を残して刈取り，最後に右回りで外側2条を刈取ります。**

❹ 倒伏作物の刈取り

・倒伏した作物は，状態にあわせて「**一方刈り**」を行います。

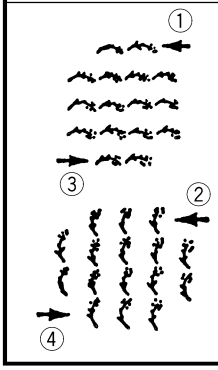


⑴ **刈取り方向**

・倒伏した作物の刈取りは下の図表を参考にして行います。

1.「**刈取り速度**」は，変速レバーを前進１《**倒伏刈取**》の位置で刈取ります。

2.「**②右倒伏刈り**」が困難なときは，「**④左倒伏刈り・③追刈り**」となるように「**一方刈り**」をします。

刈取り方向＼倒伏程度		倒伏	中倒伏	立毛状態
	①向い刈り	×	△	○
	②右倒伏刈り	×	○	○
	③追い刈り	△	○	○
	④左倒伏刈り	△	○	○

○刈取り可能　△走行速度を落として刈取り可能
×刈取り不可能

取扱いのポイント

- **倒伏した作物を刈取るときは，引起し爪が最もさがった状態（地面に近い位置）で作用するようにデバイダを調整してください。**
- **デバイダ先端が土に突っ込まないようにしてください。**
  土に突っ込むと株の引きぬきが発生し，詰まりの原因となります。
- **クローラで穂先を踏まないようにしてください。脱こく部の詰まり等の原因になることがあります。**

❺ **刈取り途中での停止**

⑴ モミ袋の交換など刈取り途中で機械を停止する場合は，クラッチペダルを踏込んで変速レバーを《**中立**》位置にし，脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にします。

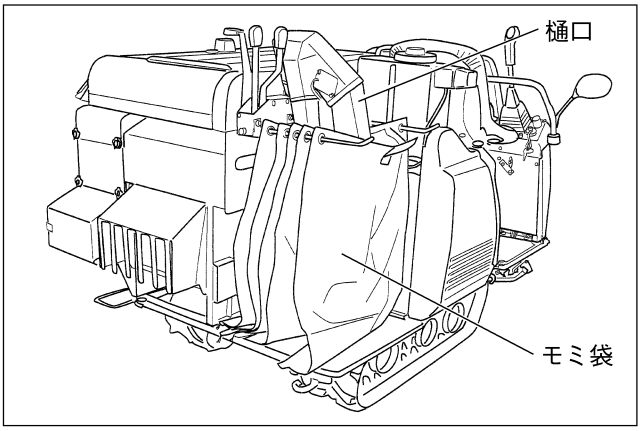
⑵ 刈取り作業を再スタートする時は機械を50cm程度後方に移動させ，回転を整えてから刈取り作業をします。

3．モミ袋の交換のしかた

❶ モミ袋が満タンになると，ホーンで知らせます。

⑴ 直ちに作業を中止します。(停車し，脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にする)

⑵ モミ袋を交換するとホーンが止まります。

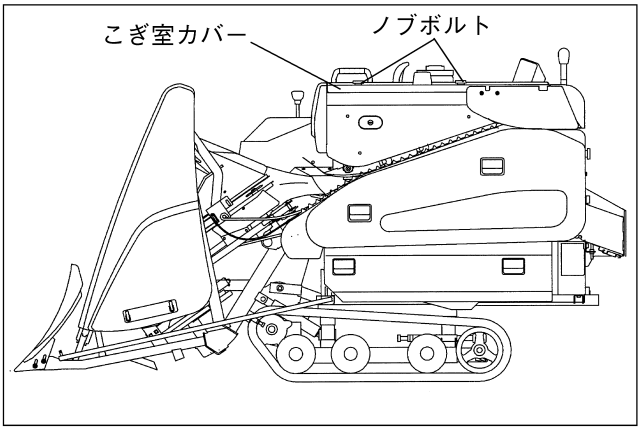


4．作業に適した調整のしかた

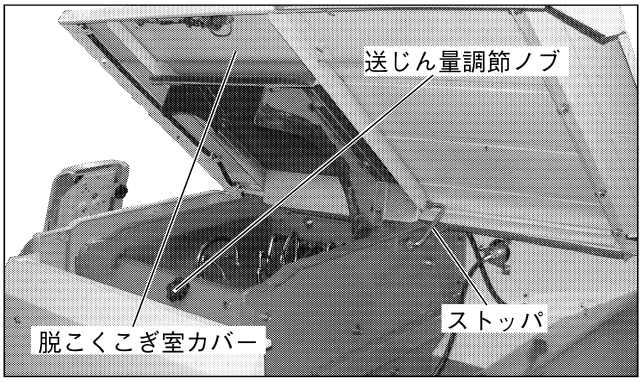
通常は各調節レバーは「**標準**」位置で作業を行いますが，刈取る作物やほ場の条件に合わせて，調整します。

❶ **送じん量の調節**

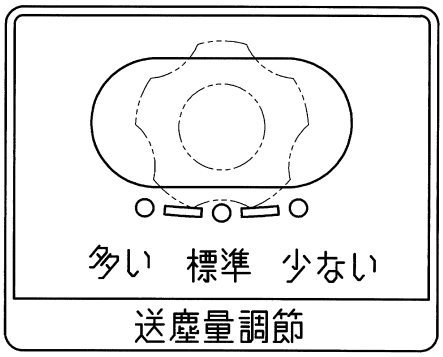
⑴ ノブボルト（２ヶ）を外してこぎ室カバーを開けます。



⑵ 脱こくこぎ室カバーをストッパで固定します。



・モミに枝梗の付着が多い時やこぎ室内で「**ゴトゴト音**」がする場合は送じん量調節ノブで調節します。



作業状態	送塵量調節ノブ位置
こぎ室内で「**ゴトゴト音**」がする場合	《**多　い**》
通常の刈取りの場合	《**標　準**》
枝梗の付着が多い場合	《**少ない**》

❷ フィン調節レバーの切替え（14ページ参照）

⚠注意

◆フィン調節時は，各クラッチを切り，エンジンを停止し，各部の作動が停止してから行なってください。

モミに小枝梗の付着が多いときや稈切れ混入，選別が悪い場合，ロスが多い場合に調節します。

●フィン調節方法

1．ナットを外し，点検蓋を外します。

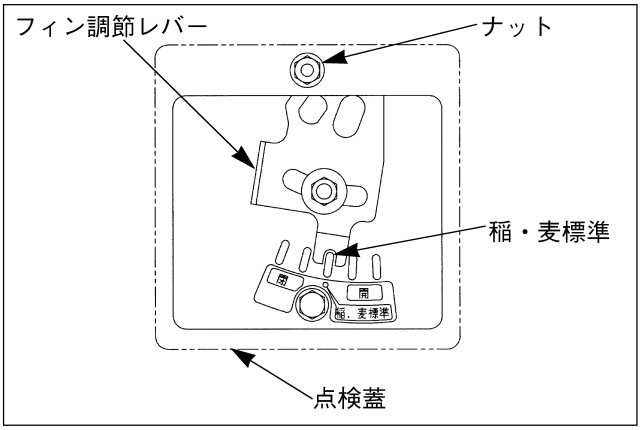
2．作物の条件により下記を参考にしてフィン調節レバーで調節します。

「閉」方向に調節

・選別が悪い時。　　・小枝梗が多い時。

「開」方向に調節

・ロスが多い時。　　・脱ぷが多い時。



3．点検蓋を取付け，ナットを締込みます。

5．トルクリミッタの取扱い

⚠警告　傷害事故防止のために

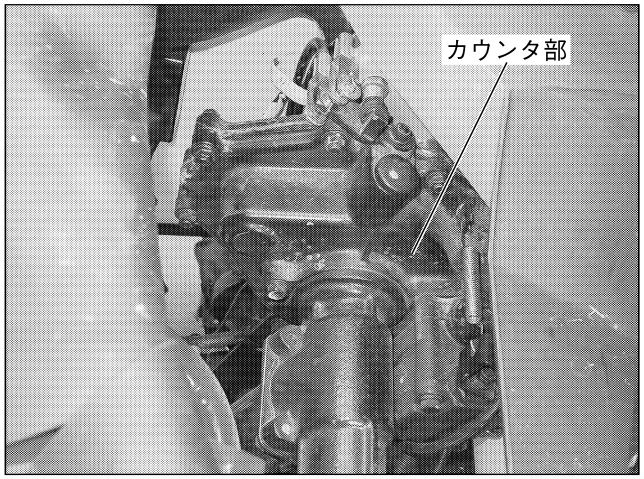
◆詰まり等の異常が発生した時に詰まったワラクズ等を取除く場合や搬送部の点検をする場合には，平坦な場所でエンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。

◆刈取部を上げて掃除・点検をする場合は刈取部が下がらないように油圧固定レバーを《油圧固定》の位置にして，さらに刈取部の下に「固定脚」等をセットして作業してください。

⚠注意

◆詰まりを取除いて，回転確認を行う前に機械の周囲に人がいないことを確認し，低速回転で行なってください。

刈取り作業中に異常（詰まり等）が発生した時，機械の破損を未然に防ぐため，カウンタ部に「**トルクリミッタ**」が設けてあります。



❶ トルクリミッタの作動

設置個所	トルクリミッタの作動
カウンタ部	・株元搬送で搬送詰まりおよび異常負荷が発生した時

❷ トルクリミッタの処置

⑴ 作業中，異常（詰まり等）が発生した時は「**トルクリミッタ**」が作動して，刈取り及び搬送が停止します。

⑵ ただちにクラッチペダルを踏込んで走行を停止し，変速レバーを《**中立**》にし，脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》位置にします。

⑶ マルチステアリング（昇降，旋回）レバーを操作して刈取部を少し上げ，油圧固定レバーを《**油圧固定**》位置にしてからエンジンを停止します。さらに刈取部の下に「**固定脚**」をセットしておきます。

⑷ 詰まり個所を掃除します。

⑸ エンジンを始動し，脱こく・刈取クラッチレバーを《**刈取**》にして，刈取部・搬送部が作動する事を確認します。

⑹ 良好ならば，エンジンを停止して固定脚を外し油圧固定を解除して通常の刈取り作業に戻ります。

6．手こぎ作業

⚠警告 傷害事故防止のために

◆手こぎ作業は機械を停止し駐車ブレーキをかけて行なってください。

●機械を走行しながらの手こぎ作業はしないでください。

●機械をワラクズの近くに止めないでください。（火災防止）

◆脱こく・刈取クラッチレバーは周囲の人に合図してから《脱こく》位置にしてください。

◆手こぎ作業をするときは手袋を使用しないでください。そで口はきっちり止めて，はち巻，首巻き，腰タオルはしないでください。巻込まれてケガをする恐れがあります。

◆手こぎ作業は，手や衣服を供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れたりしないでください。また指先や衣服がフィードチェンに巻込まれないように注意してください。巻込まれるとケガをする恐れがあります。

●手や衣服の袖が巻込まれた場合は，エンジン停止スイッチを押してください。エンジンが停止し作業を中止できます。

◆カッタの切ワラがたまったら作業を中断し機械を移動するか，脱こく・刈取クラッチレバーを《切》にし，エンジンを停止して切ワラを取除いてください。

❶ 変速レバーを《**中立**》にして，走行を停止し，駐車ブレーキをかけます。

❷ 刈取部をいっぱいに「**下げ**」て，こぎ深さ自動スイッチを「**切**」にします。搬送体をこぎ深さ手動スイッチ操作で「**深こぎ**」側に下げます。

❸ 脱こく・刈取クラッチレバーを《**脱こく**》に，エンジン回転を「**色別表示の上限**」にセットします。

❹ 作物の穂先を穂先マーク位置に合わせ，手こぎ作業をします。

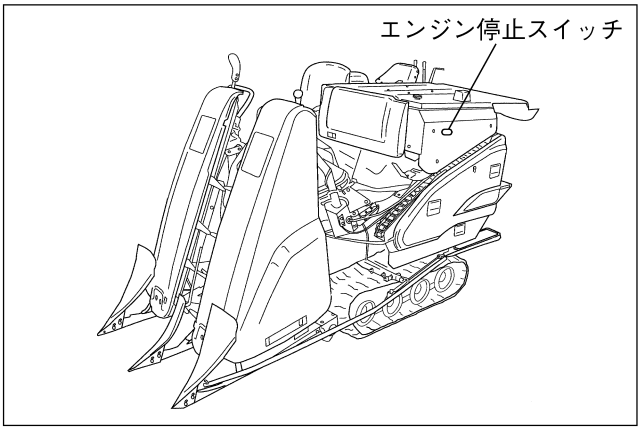
取扱いのポイント

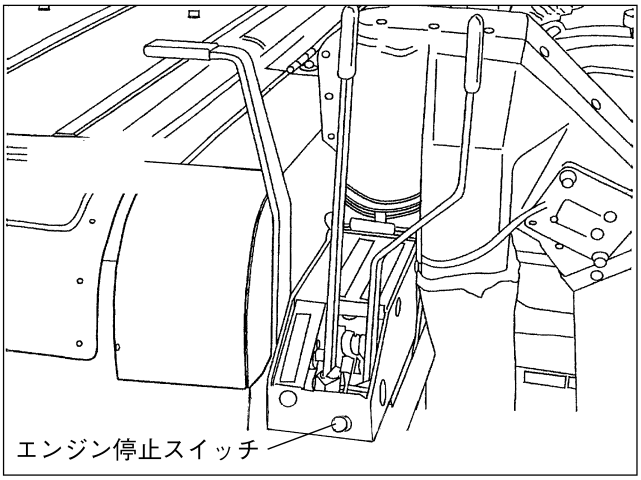
●バラこぎで平均に供給します。結束した束を脱穀するときは，結束ヒモを切ってください。

●こぎ深さ手動操作は自動スイッチを「切」にして行います。

7．エンジン停止スイッチの取扱い

このスイッチを押すと，エンジンが停止します。手こぎ作業中や後方運転中にトラブルが発生したときはこのエンジン停止スイッチを押してエンジンを停止します。





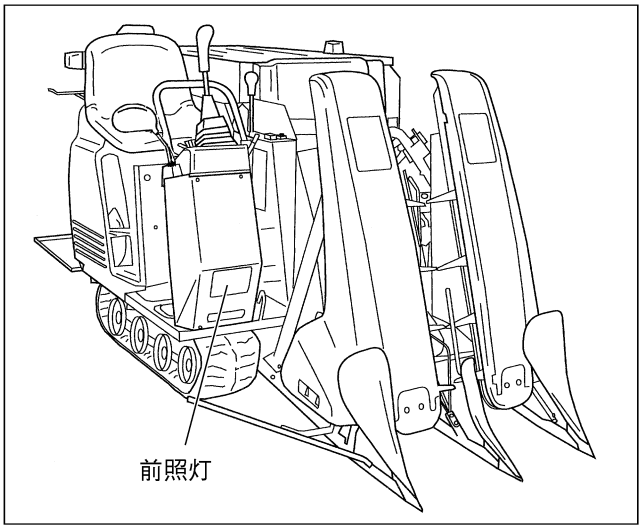
取扱いのポイント

- エンジン停止スイッチでエンジンを停止したときは，スタータスイッチを《 STOP 切》にしてください。そのまま放置するとバッテリあがりの原因になります。
- エンジン停止スイッチは緊急時以外は使用しないでください。

8．夜間作業

⚠警告

◆夜間の刈取作業は行わないで下さい。
◆夜間に走行するときは前照灯を点灯してください。

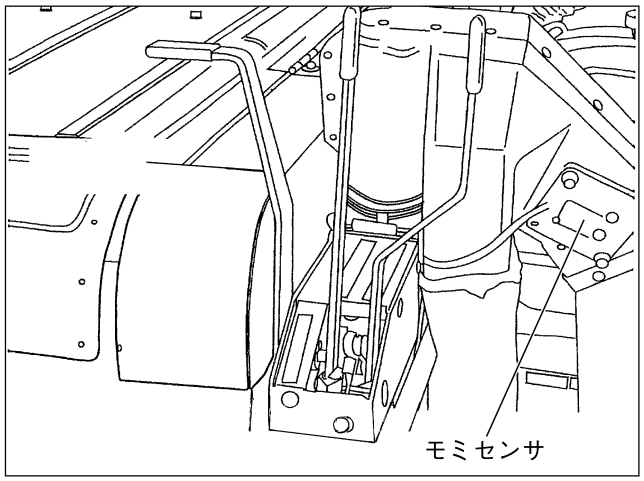


9．警報装置について

❶　モミ満杯警報

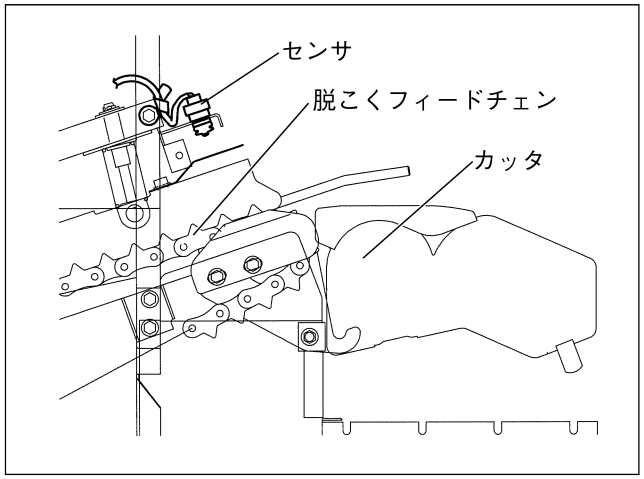
・モミ袋が満杯になると，モミセンサで検出してホーンが鳴ります。クラッチペダルを踏込んで走行を停止し，変速レバーを《**中立**》に，脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》位置にしてからモミ袋を交換します。

・モミ袋を交換するとホーンが止まります。



❷　脱こくフィードチェン終端部，カッタ部にワラが詰るとセンサが働き，ホーンが鳴ってエンジンが停止します。

この時には，スタータスイッチを《 STOP **切**》，脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にしてからワラを取除いて下さい。



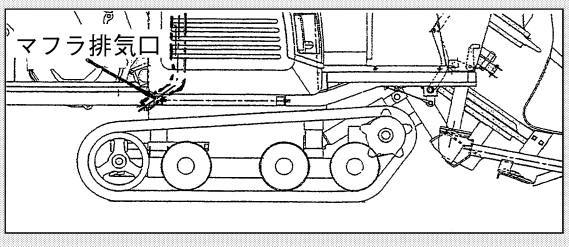
10．刈取り作業終了後の取扱い

⚠警告　火災防止のために

◆機械をワラクズのたまった近くに止めないでください。マフラ排気口にワラクズが触れ火災になることがあります。

◆シートカバーをかけるときは，エンジンが冷えてから行なってください。

◆エンジン，マフラ，燃料タンク，バッテリ周囲のワラクズ等を掃除してください。



❶　平坦な場所で変速レバーを《**中立**》の位置にします。

❷　脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》の位置にします。

❸　駐車ブレーキをかけます。

❹　エンジンコントロールレバーを《 》（**低速**）の位置に戻してしばらく空運転をし，エンジン温度を下げてから停止します。

❺　**作業後の手入れ**

・機械をきれいに洗車し，各回転部・摺動部に注油をします。

取扱いのポイント

- **脱こく・刈取クラッチレバーは，脱こく内部のワラクズ等がきれいに排出されるまで空運転してから《切》にします。**
- **水洗いするときは，エンジンまわり，電気配線部，運転パネル部その他電装品および脱こく内部には水をかけないでください。故障の原因となります。**

3．ワラ処理部の取扱い

⚠警告　傷害事故防止のために

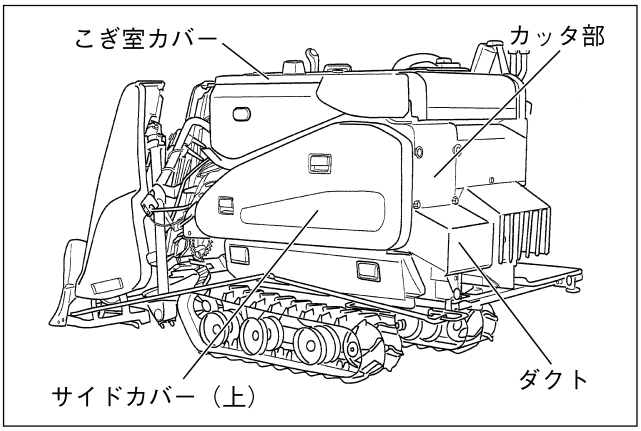
◆回転部にワラ等の巻付きが発生し，または異物が混入した時は，エンジンを停止して各部の回転が止まってから，ワラ等を取除いてください。

◆巻付き等を取除くときは，カマ等を使用し，手ではカッタ刃にふれないでください。

◆排ワラ・カッタの切替えはエンジンを停止して行なってください。

1．カッタ作業（左回りで作業）

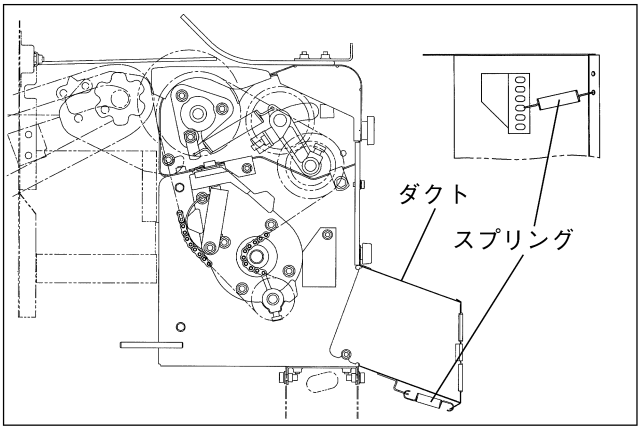
工場出荷状態でカッタ作業ができる様になっています。



❶　**切断ワラ放出方向の切替**

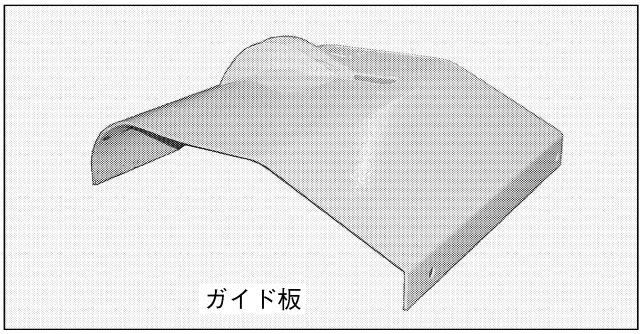
切断ワラはダクト後方より放出されます。

放出方向はダクト下側のスプリングセット位置で調節できます。



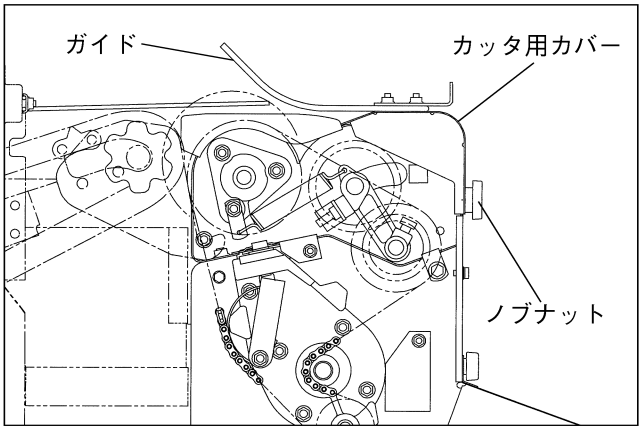
2．排ワラ作業（右回りで作業）

❶　付属品袋から「**ガイド板**」を準備します。



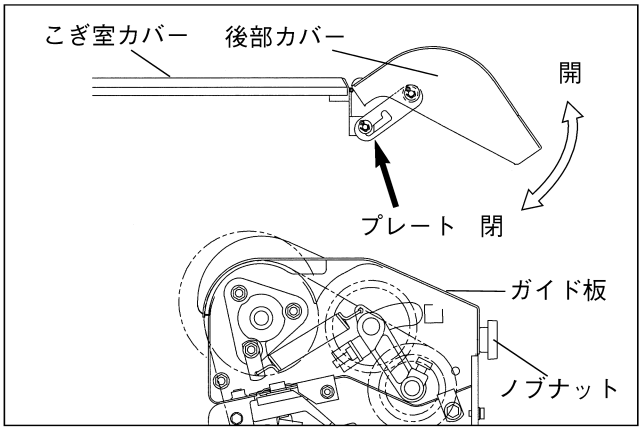
❷　ノブナット（2ヶ）を外して，カッタ用カバーをガイドがついたまま外します。

カッタ作業には使用しますので大切に保管下さい。



❸　ノブナット（2ヶ）でガイド板を取付けます。

後部カバーの内側にあるプレートを矢印方向に押し上げながら，後部カバーを開閉させてください。



取扱いのポイント

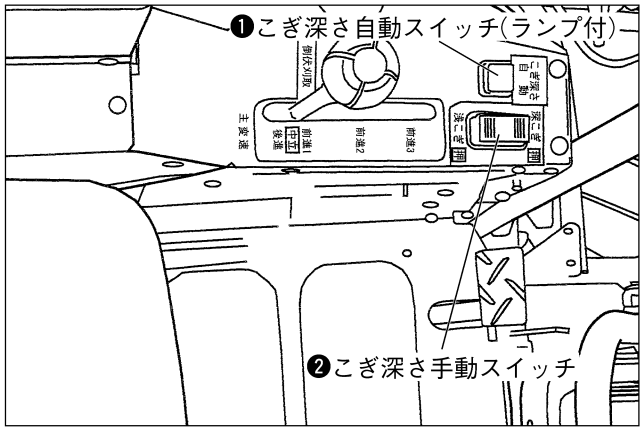
●こぎ室カバーを開けるときは，後部カバーを閉めてください。

自動装置について

1．こぎ深さ自動制御

こぎ深さ自動は，刈取った作物の長さを搬送の途中に設けたセンサで検出して適正なこぎ深さとなるように自動的に調整します。

1．運転装置



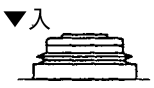
こぎ深さ調整は,「**自動制御**」と「**手動**」の二通りの操作が可能です。

・自動制御中は手動スイッチによる調整はできません。

❶　こぎ深さ自動スイッチ

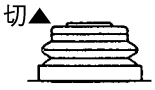
スタータスイッチを「**入**」位置にして，こぎ深さ自動スイッチを押し,「**入**」位置にするとスイッチ内のランプが点灯し，こぎ深さ自動が作動します。

・「**入**」……押すとスイッチ内のランプが点灯し



こぎ深さ自動が「**入**」であることを表示します。

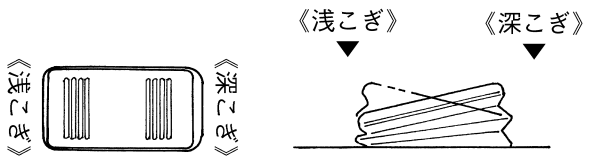
・「**切**」……「**入**」の状態から再び押すとランプ



が消え,「**切**」状態になります。この時こぎ深さ自動制御は作動しません。

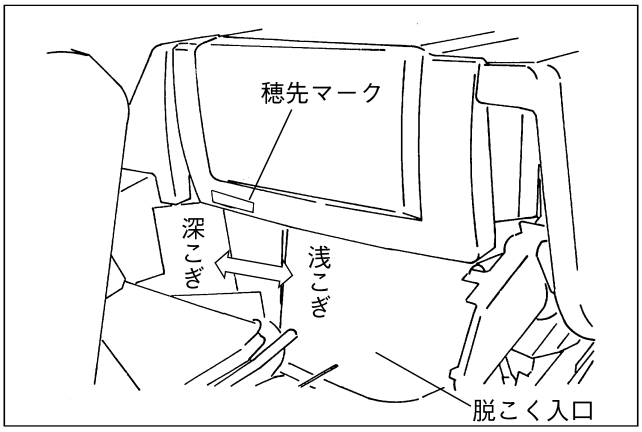
❷　こぎ深さ手動スイッチ

脱こく供給口の「**穂先マーク**」位置に作物の穂先がくるようにこぎ深さ手動スイッチで調整します。（こぎ深さ自動スイッチ「入」の時は手動スイッチによる調整はできません。）

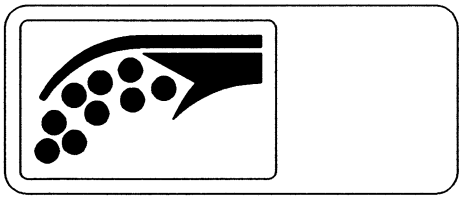


《**深こぎ**》……《**深こぎ**》側を押すと作物の穂先が深い位置に移動します。

《**浅こぎ**》……《**浅こぎ**》側を押すと作物の穂先が浅い位置に移動します。



穂先マーク



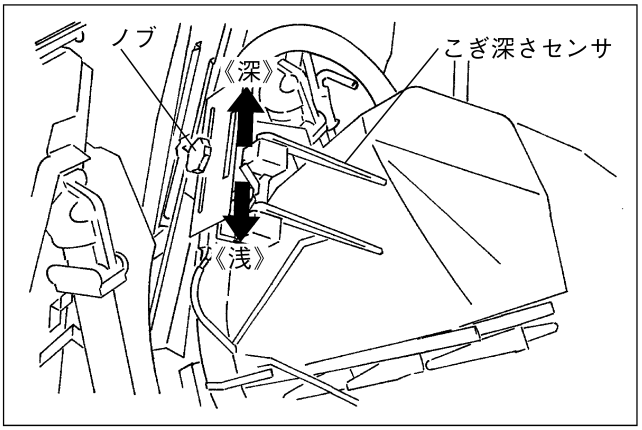
2．こぎ深さセンサの調整

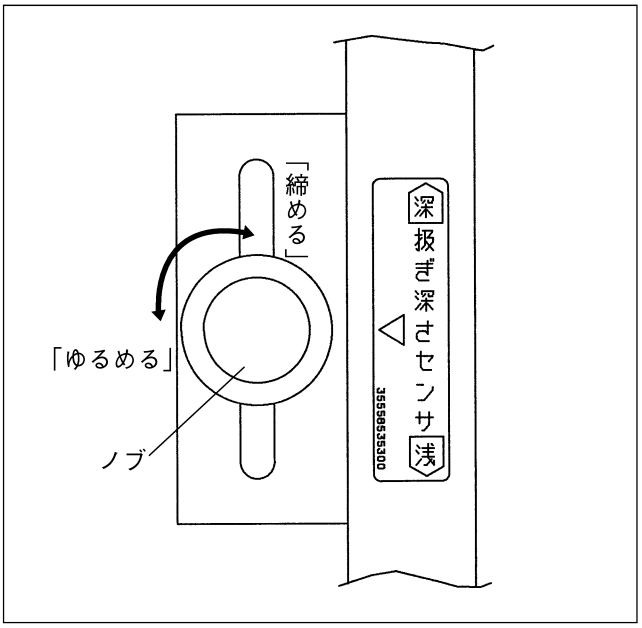
こぎ深さセンサは工場からの出荷のときは「**標準**」(合わせマークの中央）の位置に調整してあります。

・つぎのようなときは，ノブをゆるめセット位置を調整します。

こぎ深さを「**深く**」したいときは，センサケースを矢印の《**深**》方向へ移動します。こぎ深さを「**浅く**」したいときは《**浅**》方向へ移動します。

・調整後はノブを確実に締めます。





3．こぎ深さ自動制御が使えない条件

・つぎの状態ではこぎ深さ自動スイッチを「**切**」(ランプ消灯)にし，手動スイッチでこぎ深さを調整します。

○**倒伏角45°以上の倒伏作物**
○**軟弱な稈で搬送が乱れるとき**
○**雑草が多いとき**
○**作物の長さが極端に変動するとき**

手入れのしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆点検・整備・掃除する時は平坦な場所に機械を置いて，駐車ブレーキをかけエンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
◆屋内でのエンジン始動は窓や戸を開けて換気をしてください。
◆取外したカバー類は全て取付けてからエンジンを始動してください。

1．定期点検整備

・正常な機能を発揮し，いつでも安全な状態であるように**「定期点検整備表」**に従って定期的に点検し，必要により掃除・調整・整備を行います。

「定期点検整備表」（点検・補給・掃除・調整○，交換●）

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備間隔						参照ページ
			シーズン前	運転前	25H毎	50H毎	格納時	備考	
エンジン関係	エンジンオイル	点検･補給･交換	○	○		●	○		48
	エアクリーナエレメント･オイル	点検･掃除･補給･交換	○	○		●	○		49, 53
	燃料ストレーナ	点検･掃除	○				○		53
	燃料ホース	点検･交換	○				○	2年毎●	62
	点火プラグ	点検･掃除･交換	○			○		100H毎●	63
	マフラー	点検･掃除･交換	○				○	損傷の場合交換	19
	エンジンまわりの屑たまり	点検･掃除		○			○		21
電装関係	バッテリ液	点検･補給	○				○		54～56
	電気配線 (配線･接続部のゆるみ,損傷)	点検･修理	○	○			○	損傷の場合交換	54
	計器，スイッチ類	点検	○	○					―
走行・運転操作関係	カウンタ(オイルタンク)オイル	点検･補給･交換	○			● (最初50H)		150H毎●	50
	トランスミッションケースオイル	点検･補給･交換	○			● (最初50H)		150H毎●	49
	走行駆動ベルト	点検･調整･交換	○			○		150H毎●	67
	カウンタ駆動ベルト	点検･調整･交換	○			○		150H毎●	65
	クラッチペダル	点検･調整	○		○				9, 67
	昇降・旋回レバー	点検･調整	○		○				11
	脱こく・刈取クラッチレバー	点検･調整	○		○				14, 65
	アイドラ，転輪	点検･調整･補給	○		○	アイドラのグリスアップは50アール作業毎，格納時および湿田作業直後			51
	クローラ	点検･調整	○	○					69

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備間隔						参照ページ
			シーズン前	運転前	25H毎	50H毎	格納時	備考	
刈取部	スターホイルギヤケースオイル	点検･補給	○						50
	こぎ深さギヤケースオイル	点検･補給	○						50
	こぎ深さ搬送チェン	点検･調整･交換	○			○		150H毎●	51
	引起しチェン，爪（タイン）	点検･調整･交換	○	○	○	○		150H毎●	51,60
	穂先チェン，爪（タイン）	点検･調整･交換	○	○		○		150H毎●	51,60
	刈刃	点検･調整･交換	○	○		○		150H毎●	51,60
脱こく部	脱こくギヤケースオイル	点検･補給	○						51
	脱こく入力ベルト	点検･調整･交換	○	○		○		150H毎●	65
	ラセン駆動ベルト	点検･調整･交換	○	○		○		150H毎●	66
	揺動駆動ベルト	点検･調整･交換	○	○		○		150H毎●	66
	脱こくフィードチェン	点検･調整･交換	○	○		○		150H毎●	51,68
	フィードチェン駆動チェン，ギヤ	点検･調整･交換	○	○		○		150H毎●	52,68
	１番・揚こくラセン交差部	点検･掃除	○				○		58
	２番ラセン・スロワ部	点検･掃除	○				○		58
	こぎ歯	点検･増締め･交換	○			○		150H毎●	62
	ワラ切カマ（切刃）	点検･交換	○					150H毎●	61
	脱こく受網	点検･掃除･交換	○				○	150H毎●	61
	脱こく底板・こぎ室揺動選別部	点検･掃除	○				○		58
カッタ部	カッタ刃	点検･交換	○					100H毎●	63,64
	カッタベルト	点検･調整･交換	○			○		150H毎●	67
	カッタチェン	点検･調整･交換	○	○	○			150H毎●	52

取扱いのポイント

- エンジンオイル等の油脂類および不凍液を交換して廃却する時は、廃却設備のある所で廃却処理してください。
- 部品（バッテリ等）または機械を廃却する時は，「お買いあげ先」にご相談下さい。

2．給油・注油のしかた

・オイルの点検・交換は，「**運転まえの点検**」及び「**定期点検整備表**」に従って行います。
・オイルの点検・交換は機械を平坦な場所に駐車して行います。
・オイル交換は「**お買いあげ先**」で行うことをおすすめします。（有償）
・交換したオイルを廃却する時は，油脂類廃却設備のある所で処理します。

取扱いのポイント

- **各給油個所には指定オイルを規定量給油してください。**
- **廃油など汚れたオイルを注油すると，故障の原因となりますので使用しないでください。**
- **下表の容量は工場出荷時の数値です。交換時は残油量がありますので，レベルゲージ又は検油栓により容量を確認してください。但し検油栓のない個所は全量交換してください。**
- **エンジン関係の整備時には，エンジンカバーを一杯開いて外して行ってください。**
- **使用オイルの詳細は「潤滑油について」を参照してください。**
- **交換したオイルを，廃却する時は，廃却設備のある所で廃却処理してください。**

⚠警告 傷害事故防止のために

◆給油・注油・点検する時は，機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから行なってください。
◆回転部・摺動部から摺動音が発生する時はエンジンを停止し，各部の動きが止まってから注油してください。
◆エンジンカバーを開いて点検等を行なった後は，エンジンカバーを閉じてストッパがかかったことを確認してください。

⚠危険 ヤケドや火災防止のために

◆燃料補給時は火気を近づけないでください。
◆エンジン回転中やエンジンが熱い時は給油・注油しないでください。
◆損傷や劣化した燃料ホースは交換してください。燃料もれがあると火災の原因となります。
◆こぼれた燃料はきれいにふきとってください。

「給油・注油表」

No.	個　所	種　類	種　類		容量(L)	備　考
			API サービス分類	SAE 粘度番号		
①	燃　料　タ　ン　ク	無鉛ガソリン	－	－	7.5	
②	エンジンクランクケース	＊エンジンオイル	SD級以上	10W－30	1.0	
③	エ　ア　ク　リ　ー　ナ	＊エンジンオイル	SD級以上	10W－30	0.1	
④	トランスミッションケース	＊ギヤオイル	GL－4以上	80W	1.3	
⑤	カ　ウ　ン　タ　ケ　ー　ス	＊ギヤオイル	GL－4以上	80W	1.5	
⑥	スターホイルギヤケース	ギヤオイル	GL－5以上	140	0.25	
⑦	こぎ深さギヤケース	ギヤオイル	GL－5以上	140	0.25	
⑧	脱こくギヤケース	ギヤオイル	GL－5以上	90	0.4	

・＊はマルチストーオイル使用可

1．燃料の補給

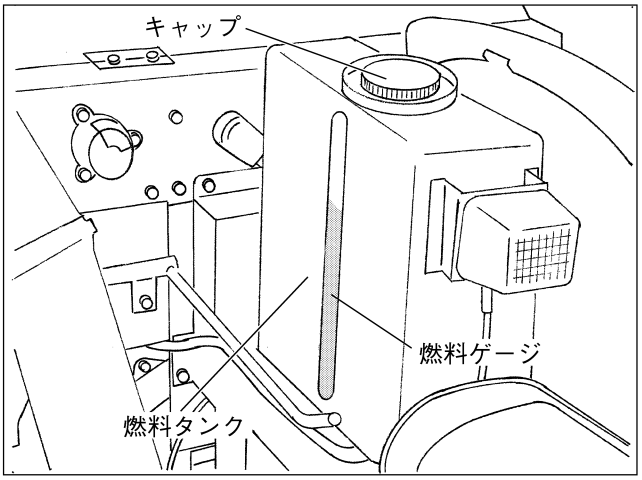
❶ 燃料タンクキャップを外して，燃料ゲージで確認しながら給油口から補給します。

・燃料……無鉛ガソリン

・タンク容量……7.5 L

取扱いのポイント

- **燃料はフィルタを通してゴミや水が混入しないように補給してください。**
- **運転途中（作業途中）で燃料切れにならないように燃料の残量を確認し，早めに補給してください。**

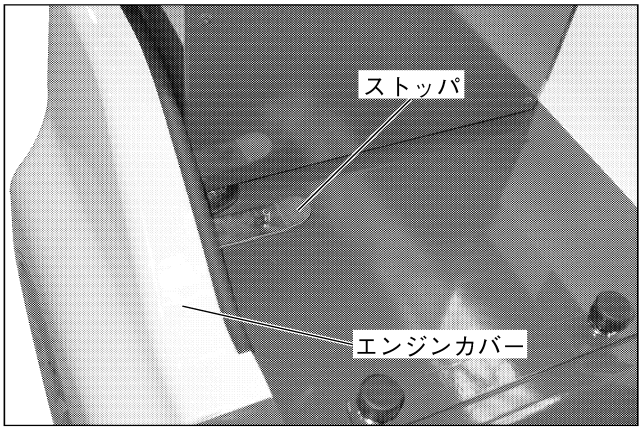


2．エンジンカバーの開閉のしかた

❶ エンジンカバーを開くとき。

(1) 座席シートを前方へ反転させます。

(2) ストッパを指で上方へ持ち上げてピン固定部から外し，エンジンカバーを外側へ開きます。



❷ エンジンカバーを閉じるとき。

(1) エンジンカバーを下から回動上昇させ，ストッパの穴がピンに掛かるまで押し込みます。

(2) 座席シートを使用位置へ戻します。

3．エンジンオイルの点検・交換

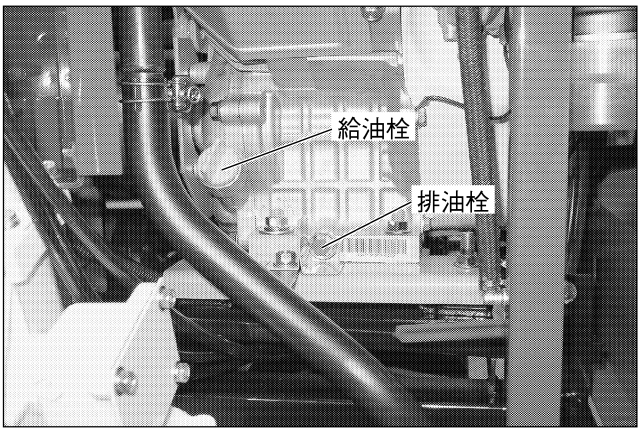
❶ エンジンオイルの点検

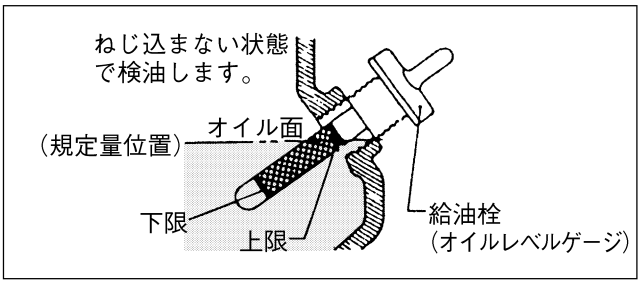
(1) エンジンカバー，エンジン後部カバーを外します。

(2) 給油栓をゆるめて外します。

(3) 給油栓にオイルレベルゲージが付いていますのでオイルレベルゲージ部をきれいにふき取ります。

(4) もう一度差込んでから抜き，オイルレベルゲージの上限と下限の間にオイルがある事を確認します。不足しているときは，給油口よりオイルレベルゲージの上限（規定量位置）まで給油します。さらに，油もれのないことも調べます。



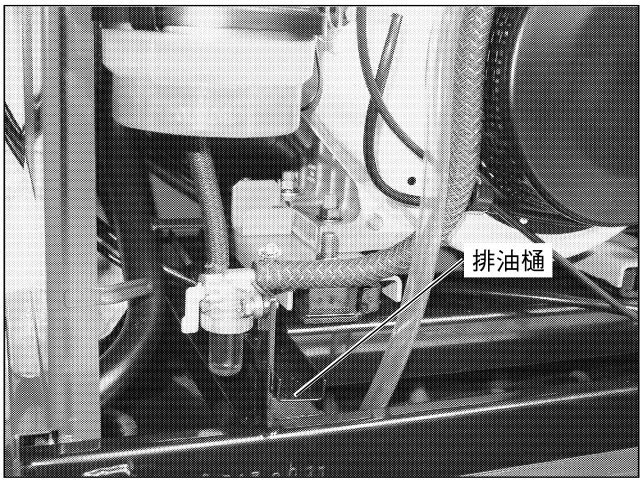


取扱いのポイント

- **オイルの量は，エンジンが冷えている時に確認してください。**
- **給油口からワラクズ等が入らないよう事前に周囲を掃除してください。**
- **排油栓，給油栓は確実に固定されていることを確認してください。**
  又，エンジンカバーはストッパの穴がピンに掛かるまで押し込んで，確実に閉じてください。

❷ エンジンオイルの交換

(1) エンジンの給油栓を外し，側面の排油栓を取外します。排油樋部でロート等を使用してオイルを受けます。



(2) オイルを抜き終わったら，排油栓を取付け，新しい**「ガソリンエンジン用エンジンオイル」**をオイルレベルゲージの刻み線上限（規定量位置）まで給油します。

・ガソリンエンジン用エンジンオイル
API・SD級以上，SAE・10W−30
・オイル量…… 1.0 L

(3) 給油栓を取付けエンジンカバー，エンジン後部カバーを取付けてからエンジンを始動し，5分間エンジンだけ低速回転で運転します。

(4) エンジンを停止し，エンジンが冷えてからエンジンオイルの点検を行います。

取扱いのポイント

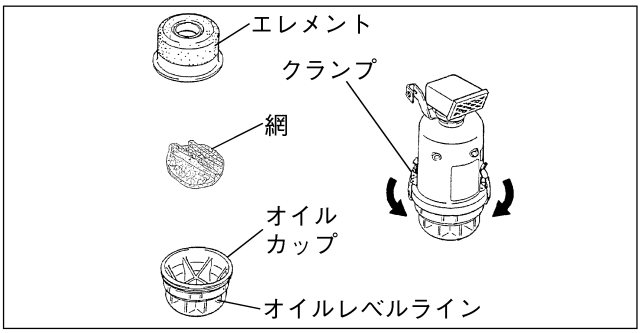
- **エンジンオイルの交換時期は定期点検整備表に従ってください。**
- **給油時にエンジンオイルにゴミやチリが混入しないようにしてください。**

4．エアクリーナのオイル点検・交換

❶ 点検

(1) オイルカップのオイルレベルライン（規定量位置）までオイルがあるか確認します。

(2) 不足している場合はクランプを矢印方向に倒してオイルカップを外し，オイルレベルライン（規定量位置）までオイルを補給します。



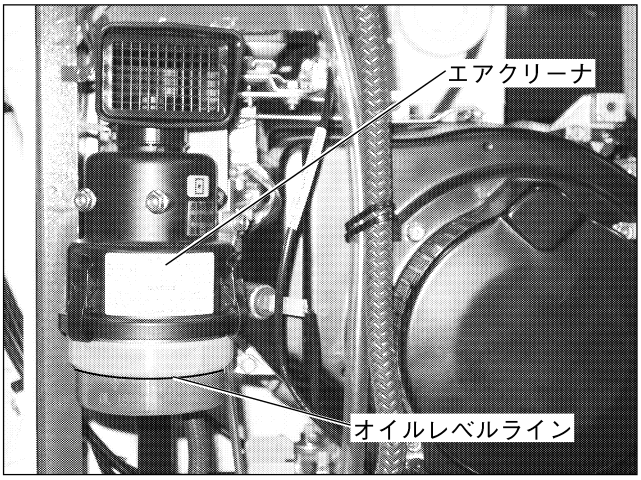
❷ 交換

(1) エンジンオイル交換と同時にオイルを交換します。

(2) エレメント，網，オイルカップを灯油で洗浄します。

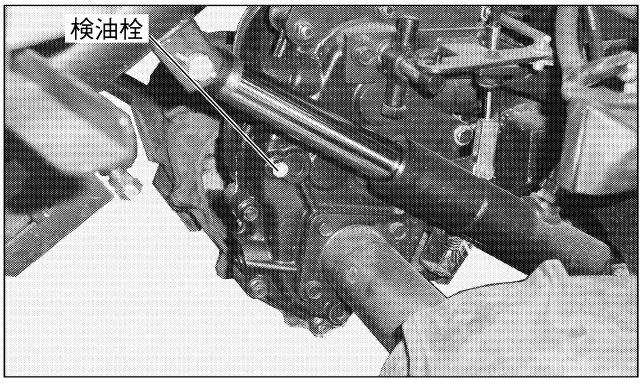
・エンジンオイル…… (純正油) 又は，
API・SD級以上，
SAE・10W－30

・オイル量……オイルレベルライン位置



5．トランスミッションケースのオイル点検・交換

・オイル交換は「**お買いあげ先**」で行います。



❶ 点検

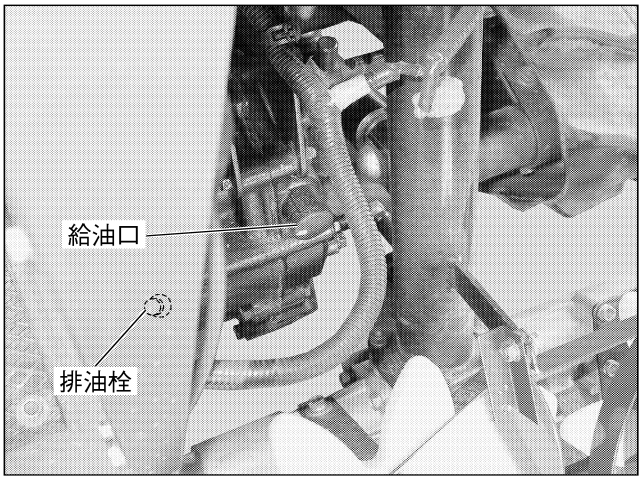
・ミッションケース左側の検油栓を外してオイルが出てくれば適量です。

・不足している時は給油栓を外して給油口より補給します。

❷ 交換

・ミッションケース下部の排油栓を外し，オイルを抜取ります。

・給油する時は，給油口から検油栓よりオイルが出るまで給油します。



・ギヤオイル……API・GL－４以上，SAE・80W

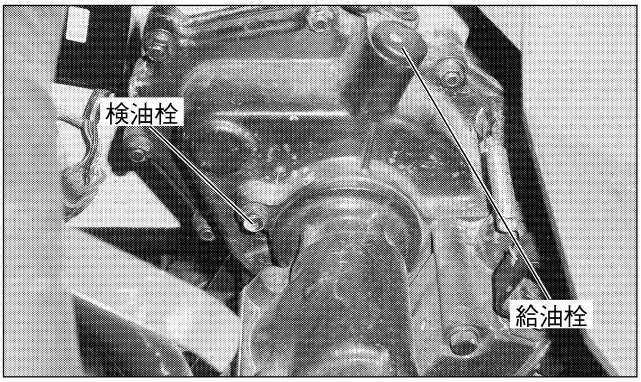
・オイル量……1.3Ｌ

取扱いのポイント

- 点検，交換後に排油栓，給油栓，検油栓が確実に取付けてあるか確認してください。
- こぎ深さを最も浅い位置にすると刈取部左側から点検，交換が容易に行えます。

6．カウンタケースのオイル点検・交換

・オイル交換は「**お買いあげ先**」で行います。



❶　点検

・脱こく入口の下側のカウンタケース前側の検油栓を外してオイルが出てくれば適量です。

・不足している時は給油栓を外し給油口より補給します。

❷　交換

・カウンタケース下部の排油栓を外してクローラにオイルがかからないようにオイルを抜取ります。

・給油栓を外し給油口より新しいオイルを検油栓まで入れます。

・エンジンを始動し，低速回転で10分程度運転しエンジンを停止して，再度オイルを検油栓まで補給します。



・ギヤオイル……API・GL－4以上，SAE・80W

・オイル量……1.5L

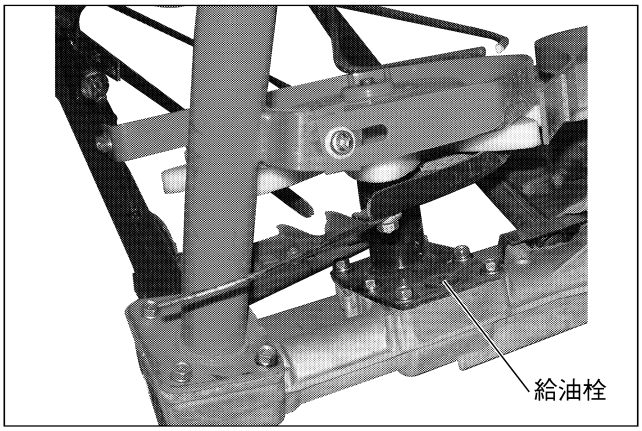
（10分運転後の補充分を含む）

取扱いのポイント

●点検，交換後に排油栓，給油栓，検油栓が確実に固定されていることを確認してください。

7．スターホイルギヤケース

・オイル交換は「**お買いあげ先**」で行います。



・刈取部左側のスターホイル下部にあるスターホイルギヤケースの給油栓を外して給油口より給油します。

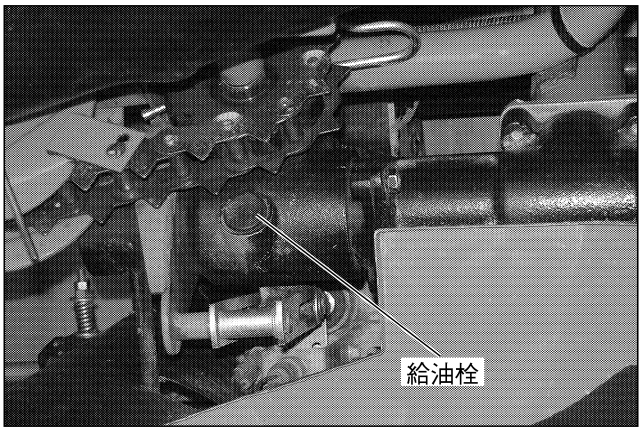
・ギヤオイル……API・GL－5以上，SAE・140

・オイル量……0.25L

給油後に給油栓を取付けて，カバーを取付けます。

8．こぎ深さギヤケース

・オイル交換は「**お買いあげ先**」で行います。

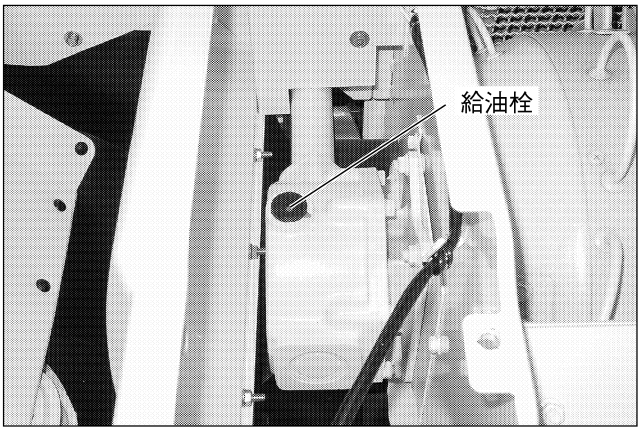


・ギヤオイル……API・GL－5以上，SAE・140

・オイル量……0.25L

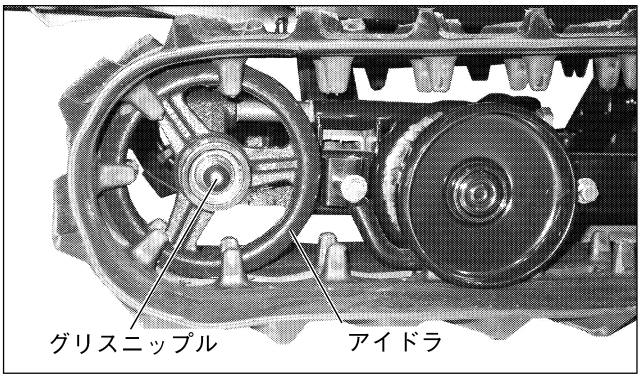
9．脱こくギヤケース

・オイル交換は「**お買いあげ先**」で行います。

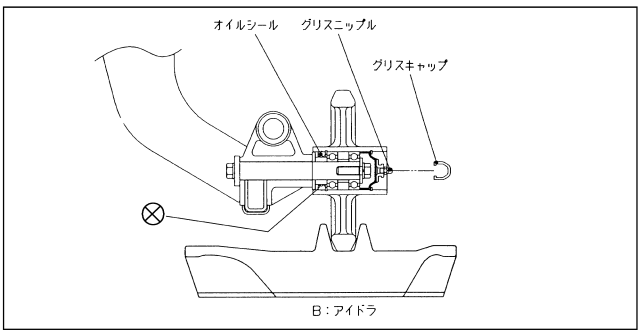


・**ギヤオイル……API・GL－5以上，SAE・90**
・**オイル量……0.4 L**

10．アイドラのグリスアップ



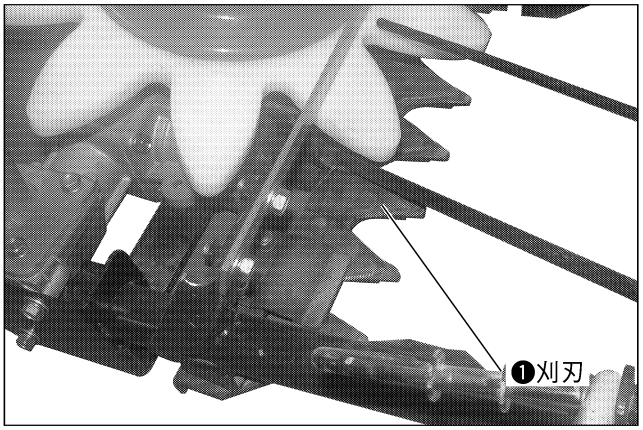
・アイドラのグリスアップは50ａ（アール）作業毎，湿田作業直後，及び格納時に行います。
・グリスキャップを取外し，リチウムグリスをグリスポンプでオイルシール(⊗部)よりわき出るまで給脂してください。グリスアップが終わりましたらグリスキャップを取付けてください。(左右にあります。)



11．注油個所

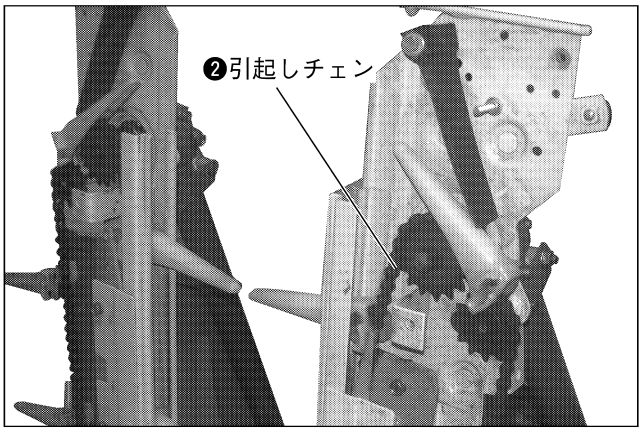
始業前および20ａ（アール）刈取り毎に「**油差し**」で注油します。

❶ 刈刃

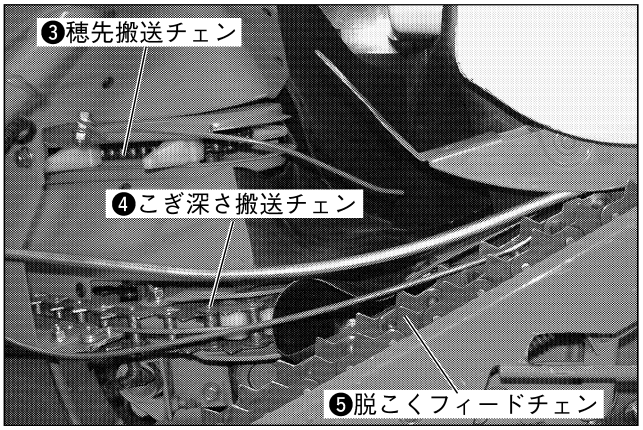


❷ 引起しチェン

引起しケース裏側下部のノブボルトをゆるめて外し，引起しケースカバーを上方へスライドさせて外してから注油します。

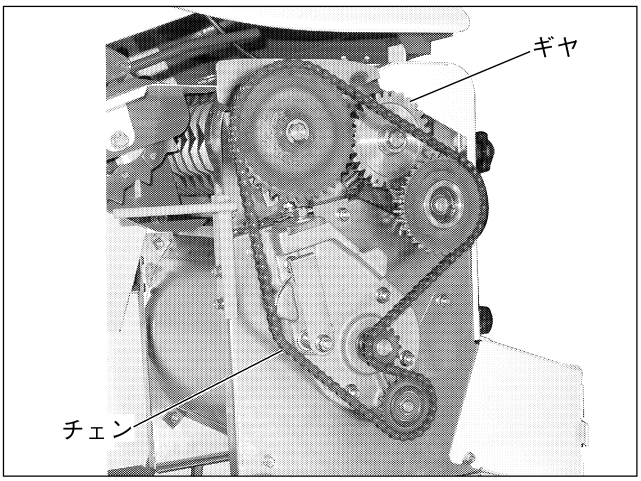


❸ 穂先搬送チェン
❹ こぎ深さ搬送チェン
❺ 脱こくフィードチェン



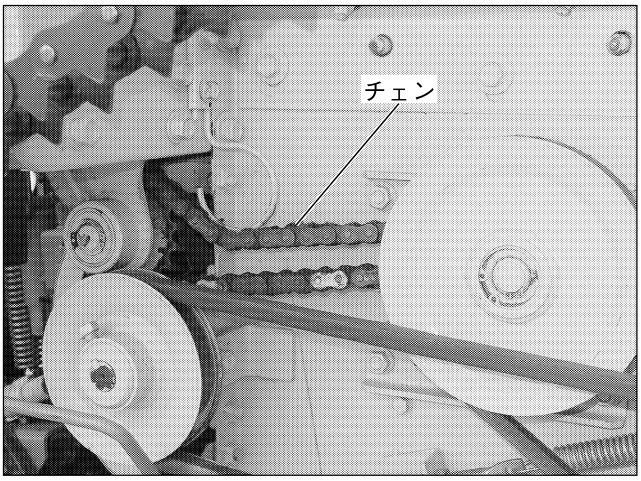
❻　カッターチェン・ギヤ

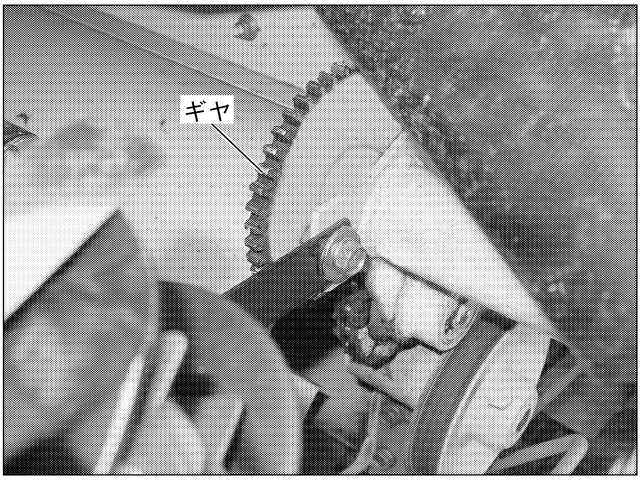
サイドカバー（上）を外し，後方のシリンダ形カッターを駆動しているチェン，ギヤに注油します。



❼　フィードチェン駆動チェン・ギヤ

サイドカバー（下）を外し，前方のフィードチェン駆動チェン，ギヤに注油します。





3．各部の点検と掃除のしかた

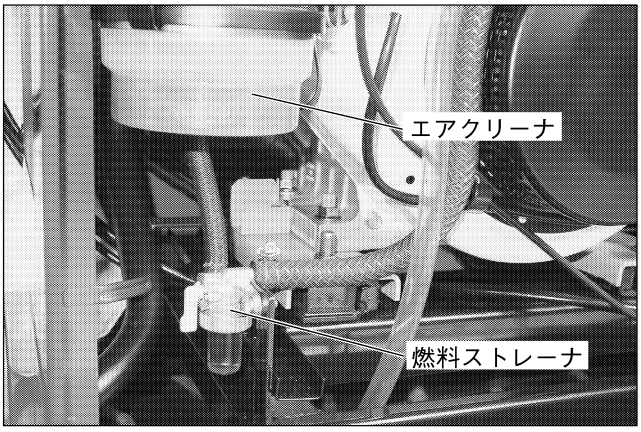
1．エアクリーナの掃除とオイルの交換

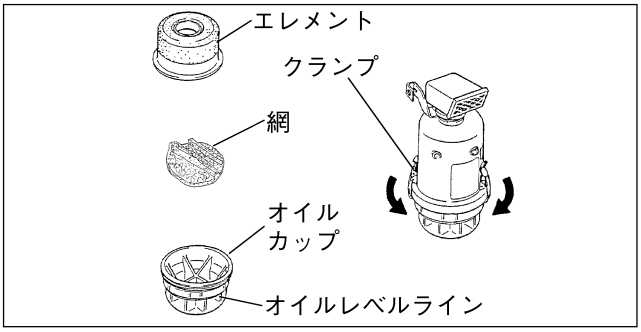
⚠危険 火災防止のために

◆エレメント，網の洗浄にガソリンは使用しないでください。

吸入空気は，オイルカップのオイルとエレメントによって浄化します。

エアクリーナエレメントを汚れたままで使用すると，エンジンの内部損耗や出力低下をまねきます。





❶ クランプを外してオイルカップを外します。

❷ オイルが汚れていればオイルカップ，エレメント，網を灯油で洗浄し，エンジンオイルをオイルレベルの線まで入れます。

・ガソリンエンジン用オイル……API・SD級以上，SAE・10W－30

・オイル量……0.1 L

❸ エレメントは洗浄後，油滴を振切ってオイルカップに取付け，エアクリーナ本体にクランプで取付けます。

2．燃料ストレーナの点検と掃除

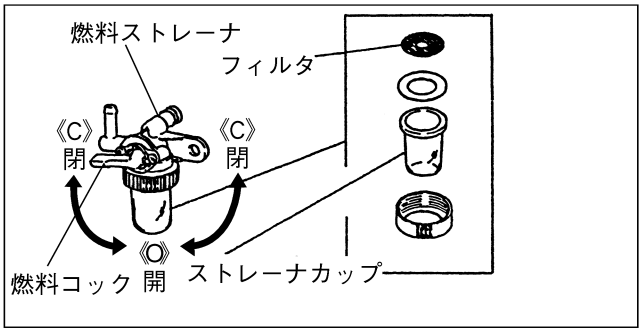
⚠危険 火災防止のために

◆燃料ホースおよび継ぎ部より燃料がもれている場合は，火災の原因となることがありますので交換してください。

❶ 燃料ストレーナの掃除

燃料ストレーナのストレーナカップに水またはゴミがたまっていないか点検します。

燃料コックを《C》「閉」にし，カップを外してきれいに洗浄し組付けます。



取扱いのポイント

- **燃料の中に，水やゴミ等が混入するとエンジンに故障が発生することがありますので，燃料は給油口のフィルタをとおして給油してください。**
- **燃料は雨水等のかからない場所に保管してください。**
- **組み付けた後は燃料コックを《O》「開」にします。**

3．電気配線の点検と掃除

⚠警告 ヤケドや火災防止のために

◆電気配線の点検時には，スタータスイッチを《 切》位置にし，バッテリ㊀コードをバッテリ㊀端子（アース側）から外してください。

◆電気配線およびバッテリ㊉コードが損傷していると，ショートや漏電で火災や損傷の原因となりますので交換してください。

◆エンジン，バッテリ，電気配線回りのワラクズ等を取除いてください。火災の原因になることがあります。

❶ 電気配線の点検

配線の端子部の「**緩み**」や「**接続不良**」または配線が「**損傷**」していると電気部品の性能を損なうだけでなく「**ショート（短絡）**」等することがあります。

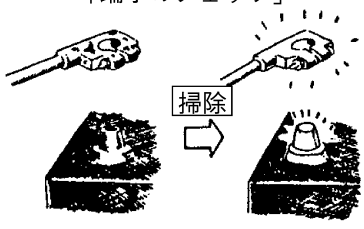
傷んだ配線は，「**お買い上げ先**」で交換，修理します。

❷ 電気配線の掃除

⑴ エンジン，バッテリ，電気配線部にたまっている「**ワラやゴミ**」などは「**火災**」の原因になりますので取除きます。

⑵ バッテリ端子にバッテリ液がかかると，端子が「**腐食**」することがあります。バッテリ端子が腐食すると，「**接触抵抗**」が大きくなり，電流が流れにくくなりますので，「**定期的**」に汚れや腐食をサンドペーパやブラシで取除きます。腐食防止のためにグリスを塗ります。

「端子のチェック」



4．バッテリの点検と充電

バッテリの残存容量と液量を確認します。

指定バッテリ……28A19R

⚠危険 火災や傷害事故防止のために

◆バッテリを「着脱」したり充電器で「充電」する時は，エンジンを停止し，始動キーを抜取ってください。

◆㊉端子と㊀端子を間違えないようにしてください。逆接すると，電装品が焼損します。また，「スパーク」による電気火花で負傷をすることがあります。

◆㊉端子が機械に接触しないようにしてください。

◆バッテリを取外すときはバッテリ㊀コードを先にバッテリの㊀端子（アース側）から外し，次にバッテリ㊉コードを㊉端子（プラス側）から外してください。取付けるときはバッテリ㊉コードを先にバッテリ㊉端子（プラス側）に取付けてください。逆の手順で作業するとショートや漏電を起こす原因となります。

◆バッテリを充電する時は，液口栓をすべて取外してください。

◆バッテリは，充電する時引火性の強い「水素ガス」を多量に発生し，「引火爆発」を起こすことがあります。「火気」を近づけたり，「スパーク」による電気火花が発生しないようにしてください。

◆㊀端子を取付けたままで充電すると発電器や電気配線を焼損することがあります。

◆「水素ガス」が滞留しないよう風通しのよい場所で充電をしてください。

◆バッテリ液（電解液）は，希硫酸で劇毒物ですのでこぼさないようにしてください。ヤケドをすることがあります。

◆充電の時「バッテリ液」が飛散することがあるので眼鏡などで目を守り，衣服や皮膚に付着しないようにしてください。

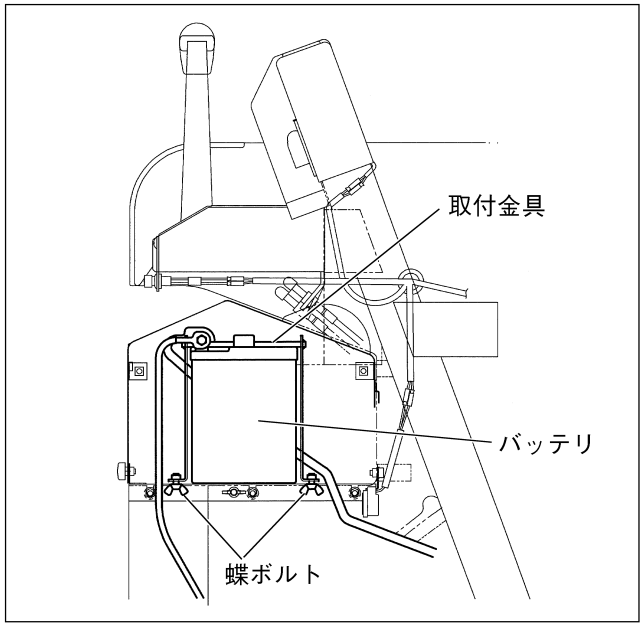
◆バッテリ液が皮膚に付着したり目に入った時は，直ちに水洗いをし，医師の手当を受けてください。

◆衣服についた時は水洗いし，弱アルカリ性石けんで硫酸分を洗い流してください。

◆バッテリの液量が側面に表示されている「下限」（LOWER LEVEL）以下になったままの使用，または充電するとバッテリの破裂（爆発）の原因になることがあります。

❶ バッテリの位置

後方操作部下のカバーを（蝶ボルト３本止め）外します。取付金具（蝶ボルト２本止め）を外すとバッテリが取出せます。



❷ バッテリ取付金具の点検

バッテリの取付けがゆるいと上下左右に動き，振動で電解槽やフタ等が摩耗したり亀裂を起こすことがあります。

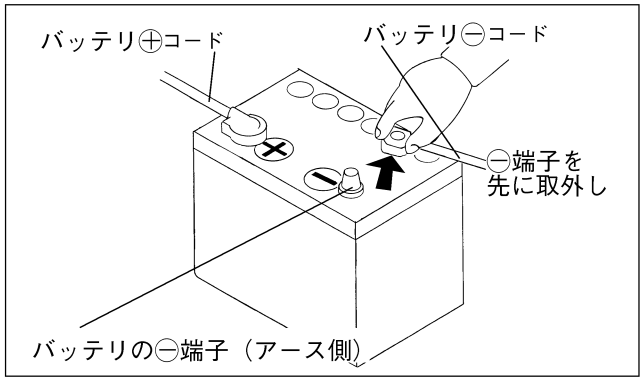
取付金具でしっかり固定します。

取付金具等が腐食していれば修理または取替えます。

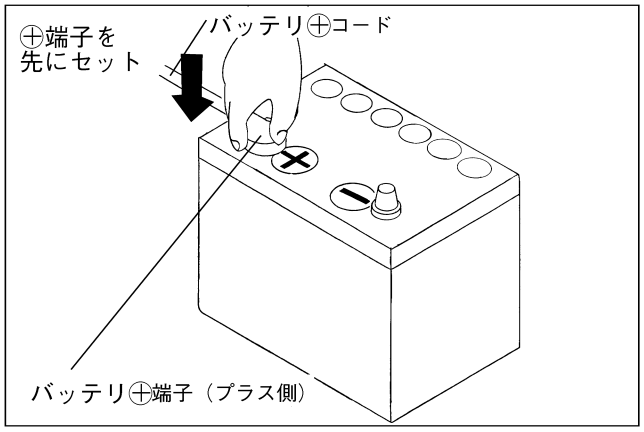
❸ バッテリ着脱時の注意

(1) バッテリを「**着脱**」したり充電器で「**充電**」する時は，エンジンを停止し，スタータスイッチから「**キー**」を抜取ります。

(2) バッテリコードを端子から取外す時は「**㊀端子（アース側）**」を先に外します。



(3) バッテリコードを端子に**セットする時は「⊕端子（プラス側）」**を先に取付けます。



❹ 残存容量の確認

バッテリ液の「**比重**」を測定する方法と，「**バッテリテスタ**」で測定する方法があります。「**お買いあげ先**」にて点検を受けてください。

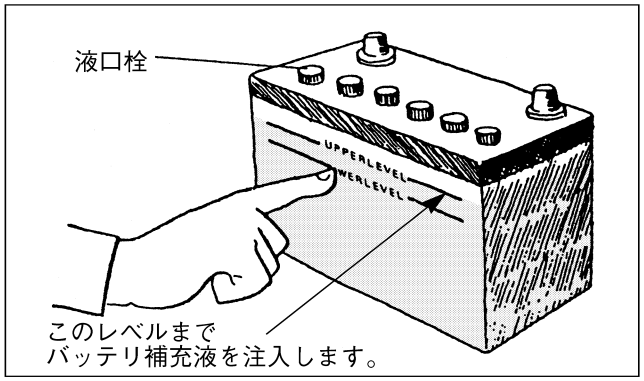
❺ バッテリ液量の確認

⚠危険 傷害事故防止のために

◆バッテリの液量がバッテリの側面に表示されている下限《LOWER LEVEL》以下になったまま使用，または充電するとバッテリの破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。
すぐに《LOWER LEVEL》と《UPPER LEVEL》の間になるまで補水してください。

バッテリ液が不足して極板が空気中に露出しますと，バッテリの寿命は著しく短くなります。

減っていれば，バッテリ補充液を「**UPPER LEVEL**」（上限）まで補給します。



❻ ブースタケーブルの使いかた

バッテリが放電し，エンジンを始動できないとき，他の良好なバッテリ（12V）を電源として用います。

このときは次の手順を守って行います。

⑴ **ブースタケーブルの接続のしかた**

①放電バッテリ⊕端子のゴムブーツを外しブースタケーブル（赤）のクリップを接続します。

②ケーブル（赤）の他の端を良好なバッテリの⊕端子へ接続します。

③ケーブル（黒）のクリップを良好なバッテリの⊖端子へ接続します。

④ケーブル（黒）の他の端を放電バッテリの⊖コード取付ボルトに接続します。

放電バッテリ搭載車のエンジンを始動します。エンジンがかかりにくい時は正常車のエンジンをスタートしてから，放電バッテリ搭載車のエンジンをスタートさせます。

⑵ **ブースタケーブルの取外しかた**

接続の手順と逆の手順（④→③→②→①）で行います。

取扱いのポイント

- **指示と異なるボルトにクリップを接続しないでください。**

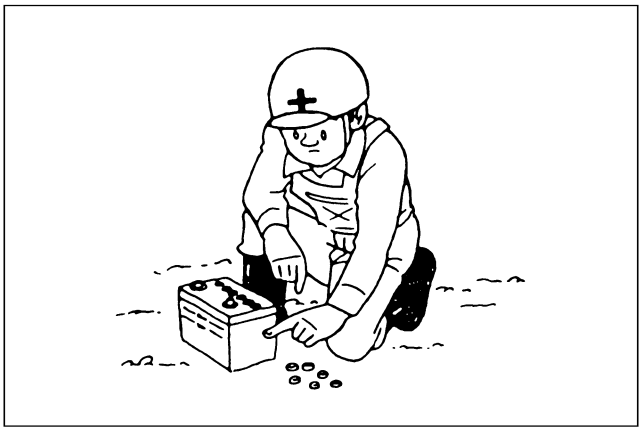
❼ バッテリの充電（コンバインからバッテリを外した状態）

⑴ 充電作業にとりかかる前にエンジンを停止し，スタータスイッチから「**キー**」を抜取ります。

⑵ 機械からバッテリを取外します。

⑶ 「**液口栓**」をすべて取外します。

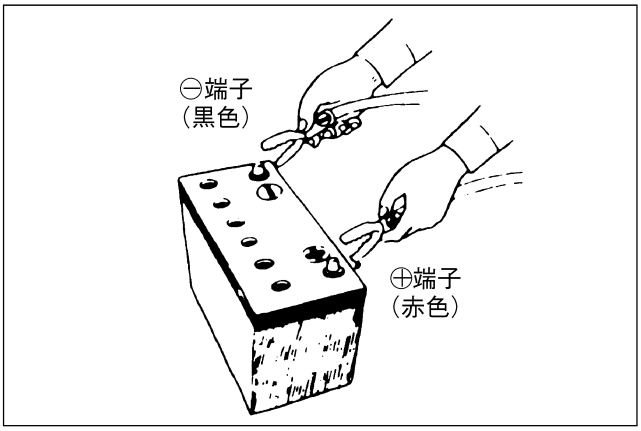
⑷ 急速充電はできるだけ避け，普通充電をし，液温が「**45℃**」を超えないようにします。



(5) 「**水素ガス**」が滞留しないよう風通しのよい場所で充電をします。

(6) 「**火気**」を近づけたり「**スパーク**」による電気火花が発生しないようにします。

(7) 充電器のクリップを着脱する時は，充電器のスイッチを「**切**」にし，⊕端子（赤色）・⊖端子（黒色）を正しく取付けます。



(8) 充電の時「**バッテリ液**」が飛散することがあるので眼鏡などで目を守り，衣服や皮膚に付着しないようにします。

取扱いのポイント

- **各端子は「ゆるみ」がないように締付けてください。**
- **取付けの時，バッテリ端子部は布などで油等をふき取ってください。取付け後バッテリ端子部には，腐食防止のためグリスを塗布してください。**
- **バッテリ⊕端子のゴムブーツは，取付けてください。**
- **厳寒時は，機械を格納する時にバッテリを取外して暖かい所に保管してください。**
- **亀裂や変形のあるバッテリは新品と取替えてください。汚れていれば清水で洗浄してください。洗浄後は水分を拭きとってください。**
- **化学繊維製布による拭きとりは，静電気が発生する恐れがありますのでさけてください。**

5．脱こく内部の掃除

異品種の混合や稲・麦の混合を防ぐため，また長期格納の際の脱こく内部のワラクズや残粒を取除くために，各掃除口を開けてきれいに掃除します。

⚠警告 傷害事故防止のために

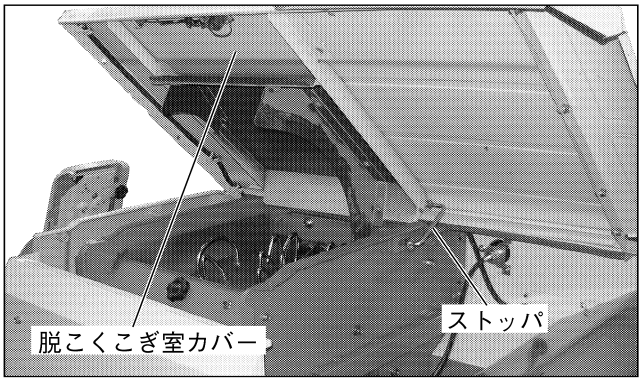
◆各カバー，フタを開き，脱こく内部を掃除する時は，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。

◆２人以上で作業する場合，回転部を動かすときは互いに声をかけあい，確認してから行なってください。

◆脱こくこぎ室カバーを開いた時は，ストッパをかけてください。

❶ こぎ室内部の掃除

(1) 脱こくこぎ室カバーを開いてストッパで固定します。



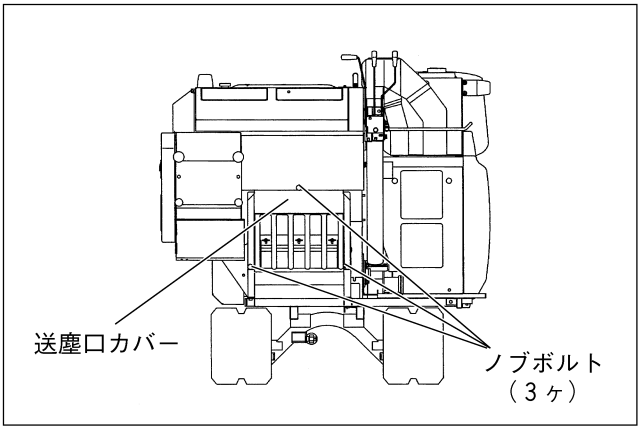
(2) こぎ室内部にたまった穂切れ・ワラクズ等を掃除します。

❷ 受網の掃除

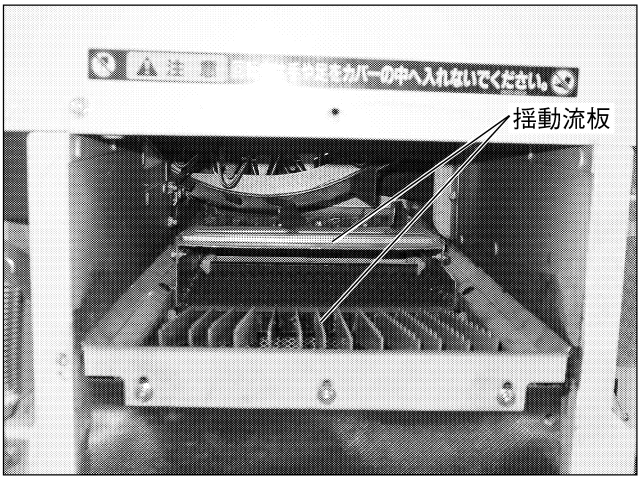
受網を外して掃除をする時は，「**受網の点検，ワラ切カマ（切刃）の点検**」（61ページ）を参照して下さい。

❸ 揺動流板の掃除

⑴ ノブボルト（３ヶ）を外して，送塵口カバーを外します。

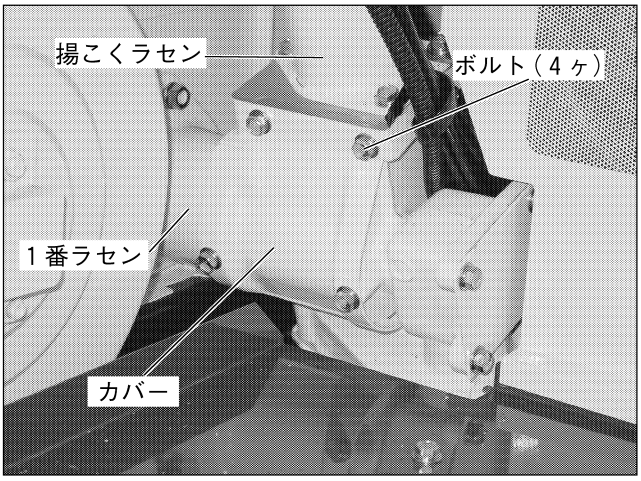


⑵ 送塵口より揺動流板を掃除します。

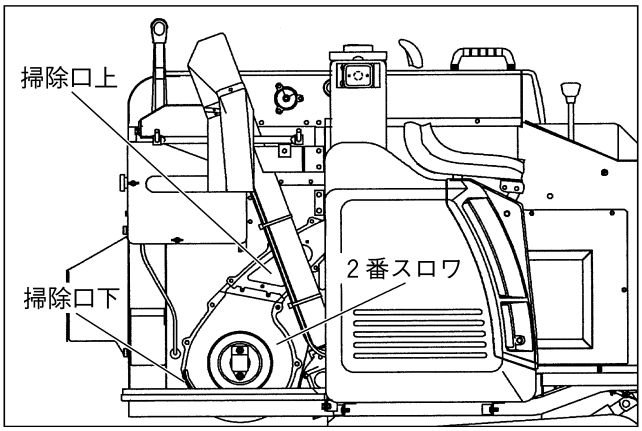


❹ １番揚こくラセン交差部の掃除

ボルト（４ヶ）を外し，カバーを外して掃除します。

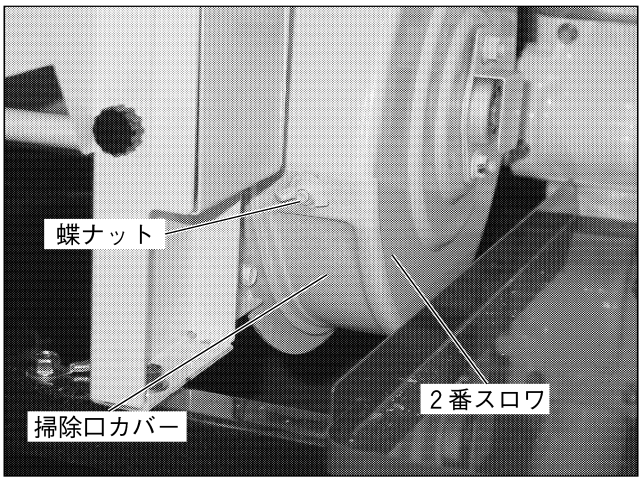


❺ ２番スロワの掃除



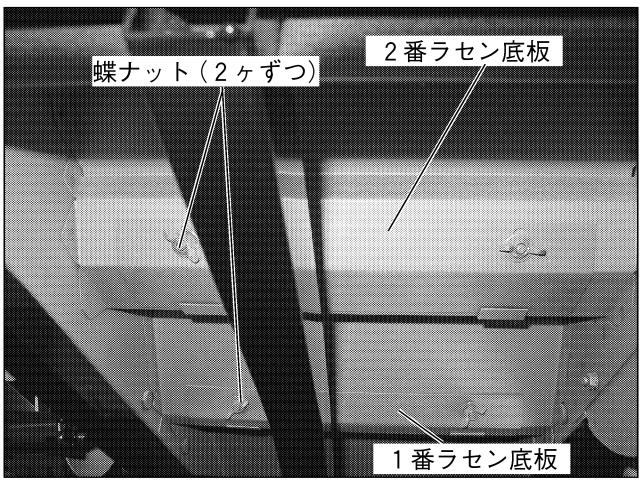
⑴ 掃除口上は蝶ナット（２ヶ）を外し，カバーを外します。

⑵ 掃除口下は蝶ナット（１ヶ）を外し，カバーを開きます。



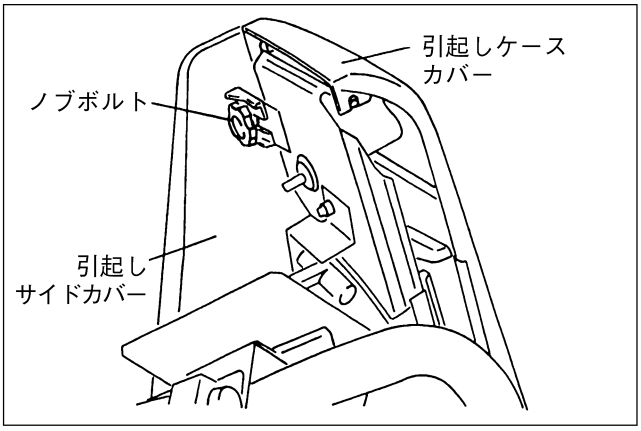
❻ ラセンの掃除

１番ラセン底板，２番ラセン底板共機体下部の蝶ナット（２ヶずつ）を外し，底板を外してラセンの掃除をします。

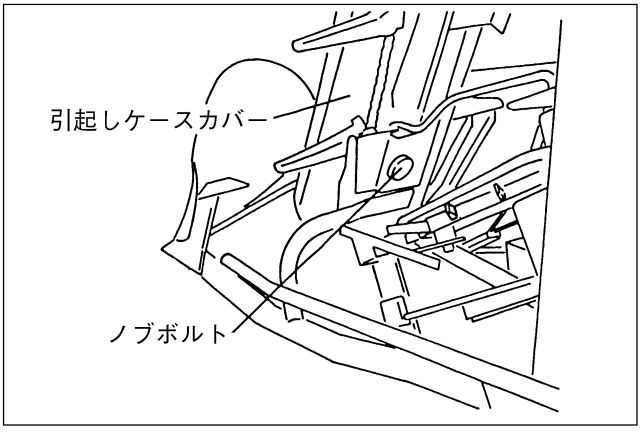


6．引起しケースカバーの外しかた

❶ 引起しケースの上方のノブボルトをゆるめ，引起しサイドカバーを上方に引き取外します。



❷ 引起しケースの下方のノブボルトを外し，引起しケースカバーを上に引きあげて取外します。



4. 各部の点検と部品交換のしかた

・各部の点検および部品交換は「**お買いあげ先**」で行なってください。

1. 爪（タイン）の交換のしかた

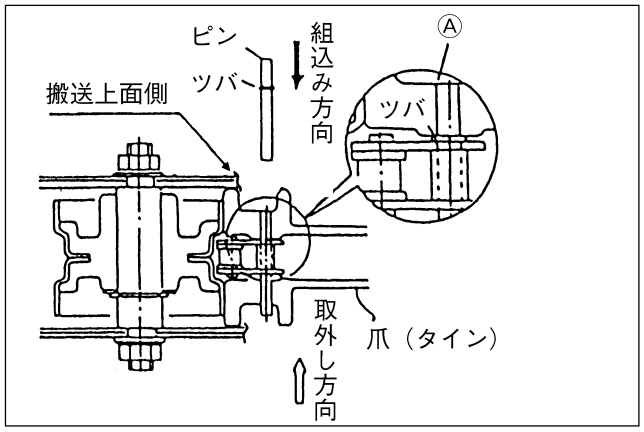
（引起し爪（タイン），穂先搬送爪（タイン））

❶ 爪（タイン）の取外し

爪（タイン）を取付けているピンを突き出ている側から，たたいて抜取り，爪（タイン）を取外します。（ピンは強くたたかなくても抜けます。）

❷ 爪（タイン）の組込み

ピンはツバがある側を搬送上面側にし，ピンの端面と爪（タイン）が同じ高さになるまで打込みます。（図示Ⓐ部参照）



2. 刈刃の交換のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

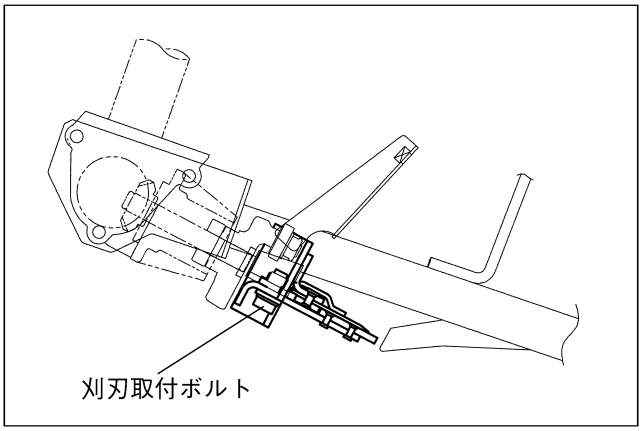
◆刈刃の着脱作業をするときは，手袋をして２人で刈刃の両端をもって行なってください。

◆刃部に手をかけないでください。刈刃が動いてけがをすることがあります。

◆刈刃を取外す時は，刈取部を上げ油圧固定ボルト又は油圧固定レバーを《固定》にし，刈取部の下に固定脚等をおいて作業してください。

❶ 刈刃の取外し

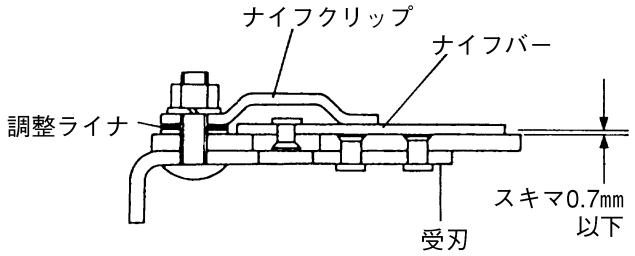
刈刃取付ボルト２個所を外します。



❷ 刈刃の調整

(1) 0.2㎜の調整ライナでスキマを0.7㎜以下に調整します。

(2) 上刃，下刃共スムーズに作動することを確認します。



❸ 刈刃の取付け

刈刃取付ボルト２個にて取付けます。

取扱いのポイント

- １日の作業終了後には刈刃に付着している泥やワラクズなどを取除き，注油をしてください。
- 刈跡が揃わなくなったりした場合は「お買いあげ先」に相談してください。

3．受網点検，ワラ切カマ（切刃）の交換

⚠警告 傷害事故防止のために

◆こぎ室カバーを開く時は，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。

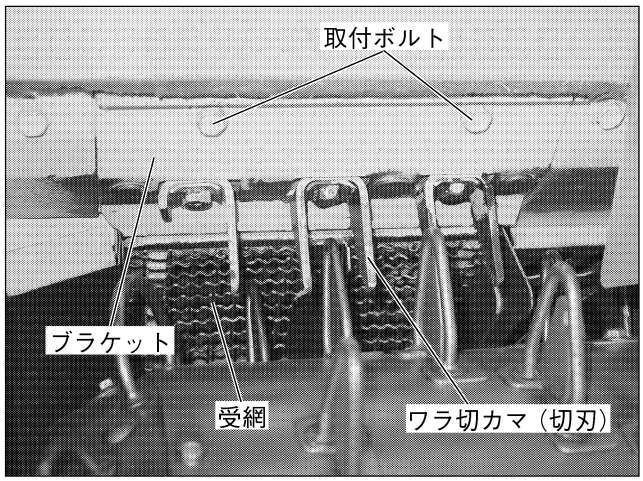
◆受網，ワラ切カマ（切刃）の着脱作業は，手袋をして行なってください。

◆刃部に手をかけないでください。

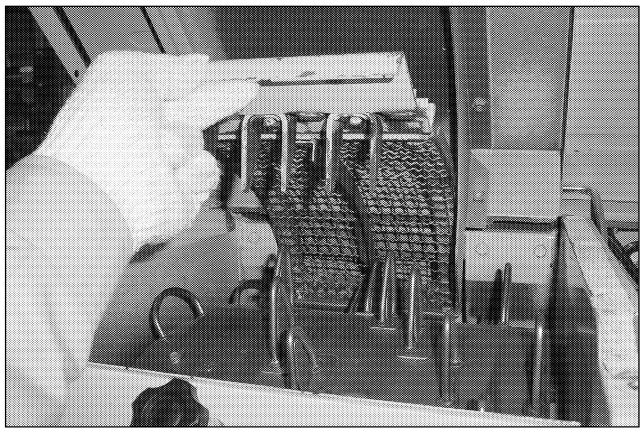
❶ 受網，ワラ切カマ（切刃）の取外し

⑴ こぎ室カバーを開けます。

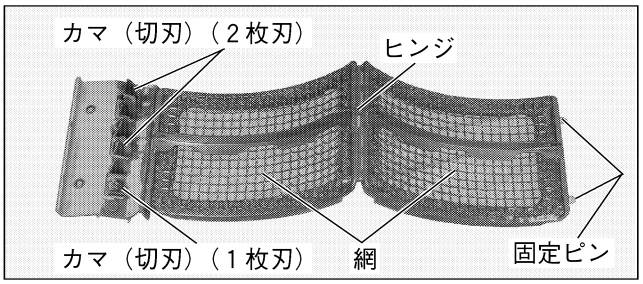
⑵ 取付ボルト（２本）をゆるめて外し，受網，ワラ切カマ（切刃）をブラケットごと外します。



⑶ 受網，ワラ切カマ（切刃）をこぎ胴上方から手前に引き出して外します。

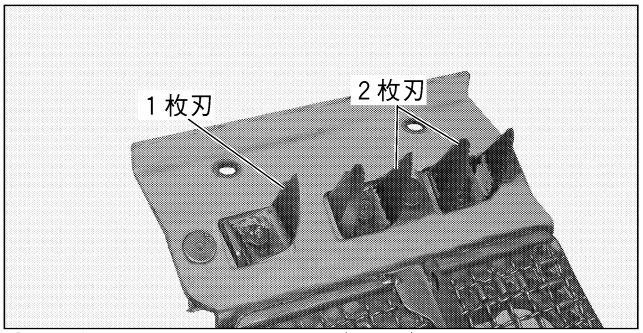


❷ 受網，ワラ切カマ（切刃）の構造



❸ ワラ切カマ（切刃）の交換と取付け

ワラ切カマ（切刃）の組付け方向に注意して真っ直ぐブラケットとガタがないように締付けます。

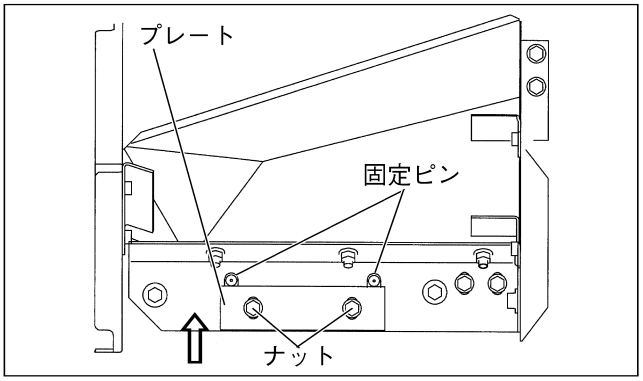


❹ 受網，ワラ切りカマ（切刃）の取付け

⑴ 左側サイドカバー（上），（下）を外しナットをゆるめておきます。

⑵ 受網，ワラ切カマ（切刃）を取外しと逆に取付けます。

⑶ プレートを一杯上に上げて固定ピンが動かない様にしてナットを締めます。



取扱いのポイント

- ワラ切カマ（切刃）の中央にこぎ歯がくるように取付けてください。
- ワラ切カマ（切刃）が摩耗するとワラクズの切断性能が低下し脱こく能率が低下します。ワラ切カマ（切刃）を取外し，新品と交換してください。（「お買いあげ先」でおもとめください。）

4．こぎ歯の点検と交換

⚠警告 傷害事故防止のために

◆こぎ室カバーを開く時は，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。

◆脱こくこぎ室カバーを開いたときは，ストッパをかけてください。

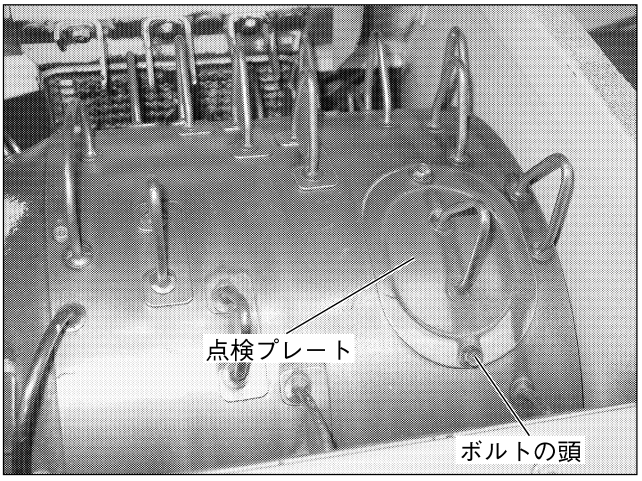
❶ 脱こくこぎ室カバーを開き，ストッパがかかったことを確認します。

❷ こぎ歯を点検します。

摩耗のはげしいこぎ歯は交換します。

こぎ歯の締付けが緩んでいるものは，取付ナットを締込みます。

こぎ歯の交換及び取付ナットの締込みは，点検プレートを外して行います。



取扱いのポイント

●こぎ胴の点検プレートのボルトの頭が摩耗すると外せなくなるため，ボルトの頭が摩耗し始めたら交換してください。

5．ホース類の点検と交換

⚠警告 ヤケドや火災防止のために

◆燃料ホースの損傷（割れ，破れ，継ぎ部のゆるみ），外皮のはがれおよび継ぎ部より燃料がもれていないか確認し，損傷したりもれている場合は，火災の原因となりますので交換してください。

燃料ホースの燃料もれがないか点検します。また，締付けているバンドや油圧ホースの継ぎ部がゆるんでいないか点検をします。

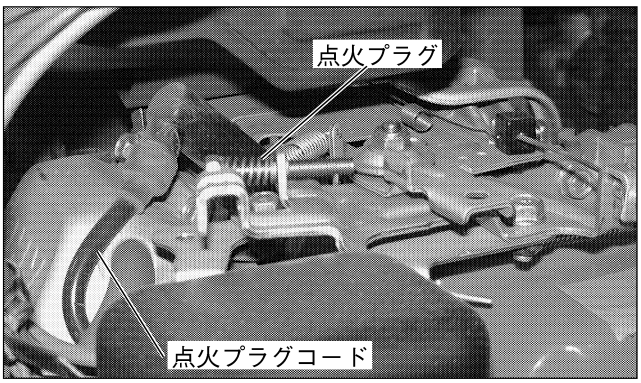
取扱いのポイント

●燃料ホースは定期交換部品ですので，「お買いあげ先」で２年ごとに交換してください。

6．点火プラグの点検と交換

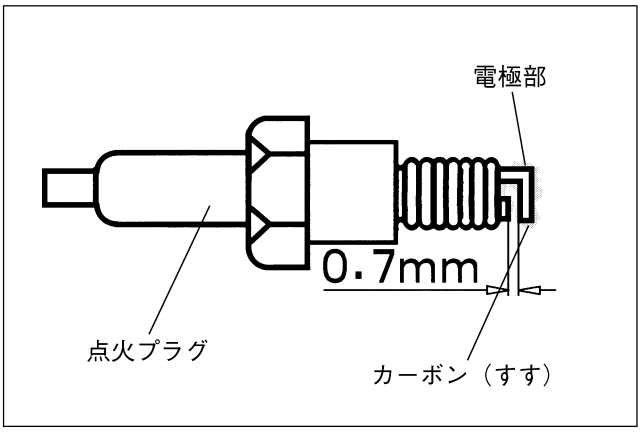
❶ 点検，掃除，交換

(1) スタータスイッチを《 停止》位置にしエンジンカバーを開き，点火プラグコードを外しボックスレンチで点火プラグを外します。



(2) 点火プラグの電極スキマが「0.7㎜」か市販の隙間ゲージで点検して下さい。

(3) 電極部にカーボン（すす）が付着していたらブラシなどで取除きます。



(4) 電極スキマが「0.7㎜」以外の場合は点火プラグを調整又は交換します。

・使用点火プラグ……NGK BP5ES
又は相当品

取扱いのポイント

- **電極部が損耗または破損しているときは，新しい点火プラグと交換します。**
- **点火プラグを取付け後，点火プラグコードを確実に差込みます。**

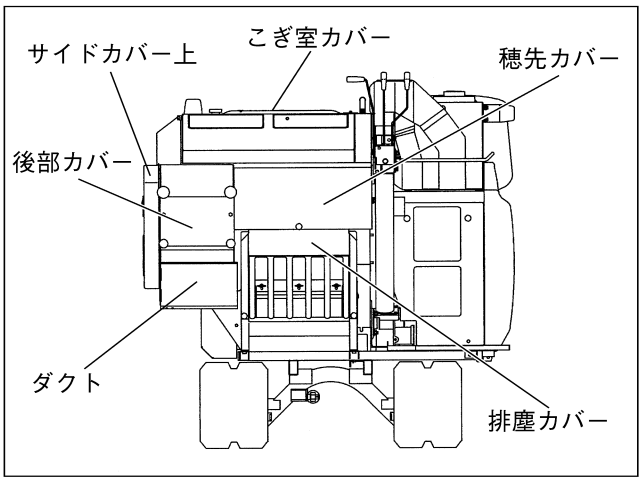
7．カッタ刃の点検と交換

⚠警告 傷害事故防止のために

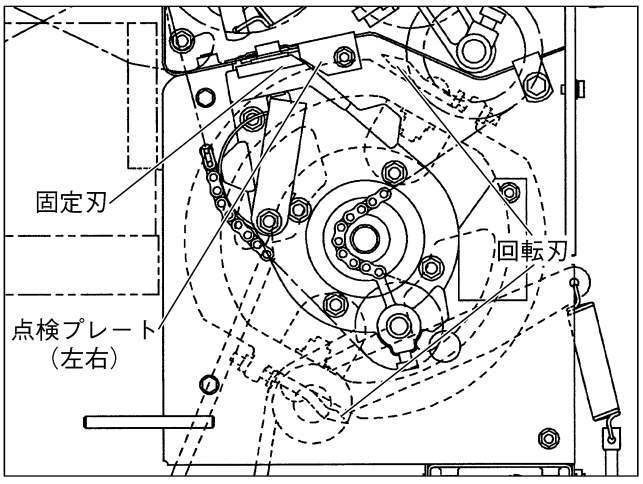
◆カッタ部の点検，交換をするときは，手袋をしてください。
◆刃部に手をかけないでください。刃が動いてけがをすることがあります。
◆刃を交換する時は，刃に「あて布」を被せてください。

❶ カッタ刃の点検

(1) こぎ室カバーを開き，ノブナット，ノブボルト，ボルト，ナットを外してカバー類（サイドカバー上，ダクト，排塵カバー，穂先カバー，後部カバー）を外します。



(2) 固定刃，回転刃の摩耗，隙間を点検します。



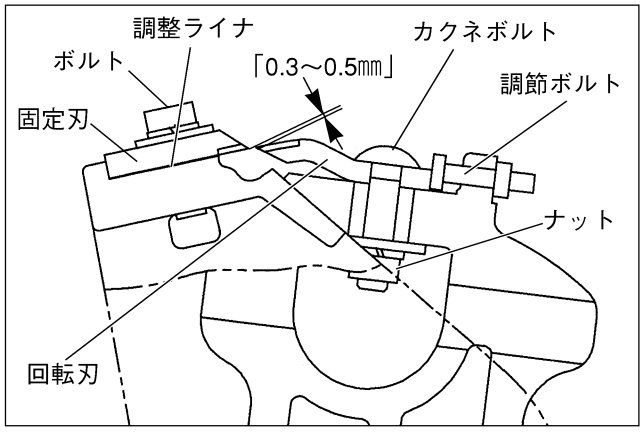
・隙間の点検は，点検プレートを外して行ってください。

❷ カッタ刃の調整

⑴ 回転刃での調整

・回転刃を固定しているカクネボルト，ナット（２ヶ）を少しゆるめ，調節ボルト（２ヶ）で回転刃を押し出しながら，固定刃と回転刃の隙間に隙間ゲージを入れて調節します。

・回転刃を少しずつ回して刃幅全体が「**0.3～0.5㎜**」になる様にします。



⑵ 固定刃での調整

・固定刃を固定しているボルト（２ヶ）部には，U字形の調整ライナ（0.2㎜）が少なくとも１枚入っています。調整ライナの増減によって隙間調整ができます。

・ボルト（２ヶ）をゆるめて固定刃を浮かせ，調整ライナの増減をします。

❸ カッタ刃の交換

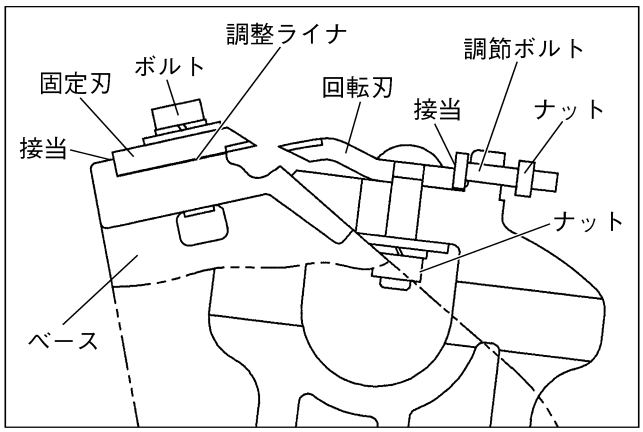
⑴ 回転刃の交換

・回転刃を固定しているカクネボルト，ナット（２ヶ）を外して開口部より回転刃を取り出します。

・取付ける時は，予めナットをゆるめ，調節ボルト（２ヶ）を一杯ネジ込んでおきます。

・新らしい回転刃を調節ボルトの頭に接当させ，ナットを軽く締めます。

・調節ボルトで回転刃を押し出しながら，固定刃との隙間を調整してナットを締め込みます。



⑵ 固定刃の交換

・固定刃を固定しているボルト（２ヶ）を外して引き出します。

・新しい刃を差し込み，ボルトを仮どめしてから調整ライナを元通り差し込みます。

・固定刃をベースに接当させてボルトを締込みます。

・調整ライナは隙間調整時に，回転刃調節ボルトで調整できにくい時増減します。

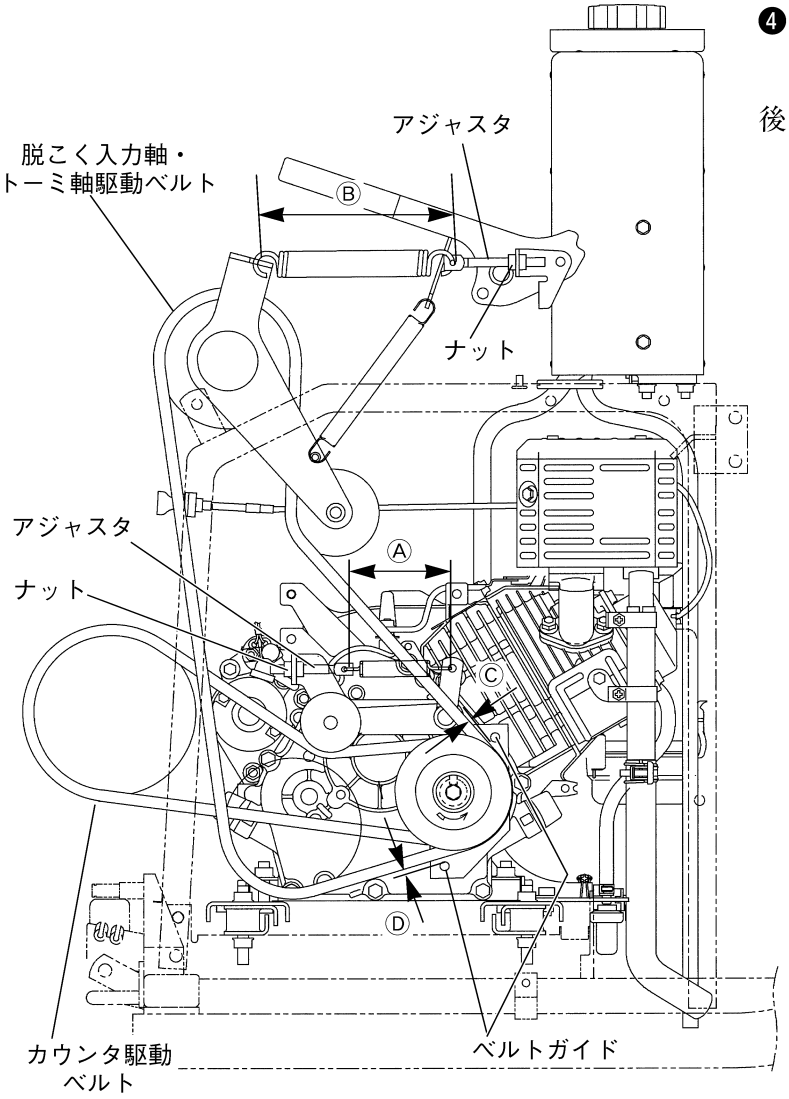
5．各部の点検と調整のしかた

各部は出荷のときに正しく調整されていますが，使用による摩耗や伸びが生じてくることがありますので再調整を行い損耗の限度をこえた部品は交換し正しく使用できる状態にしておきます。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整は機械を平坦な場所に置き，駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。

◆調整後は，異常なく作動することを試運転で確認してください。



「ベルトの点検と調整」

1．エンジン～カウンタ駆動　エンジン～脱こく入力軸・トーミ軸の駆動ベルト

❶ 点検

下図カウンタ駆動ベルトのⒶ部スプリング長さが 92～94㎜ になっていますか。

❷ 調整

アジャスタのナットを緩めて調整します。調整後はナットを締付けます。

❸ 点検

「脱こく・刈取クラッチ」を《刈取》にした時下図脱こく入力軸・トーミ軸駆動ベルトのⒷ部スプリング長さが 174～176㎜ になっていますか。

❹ 調整

アジャスタのナットを緩めて調整します。調整後はナットを締付けます。

❺ 点検

「脱こく・刈取クラッチ」を《脱こく》または《刈取》にした時，下図Ⓒ部・Ⓓ部ベルトガイドのスキマが 2～4㎜ になっていますか。

❻ 調整

取付けボルトを少し緩めて調整します。調整後は確実に締付けます。

2．トーミ軸～1番ラセン軸・2番ラセン軸駆動ベルト　1番ラセン軸～揺動軸駆動ベルト

❶　点検

機体左側下部にある下図ラセン駆動ベルトのⒶ部スプリング長さが **144～148㎜** になっていますか。

❷　調整

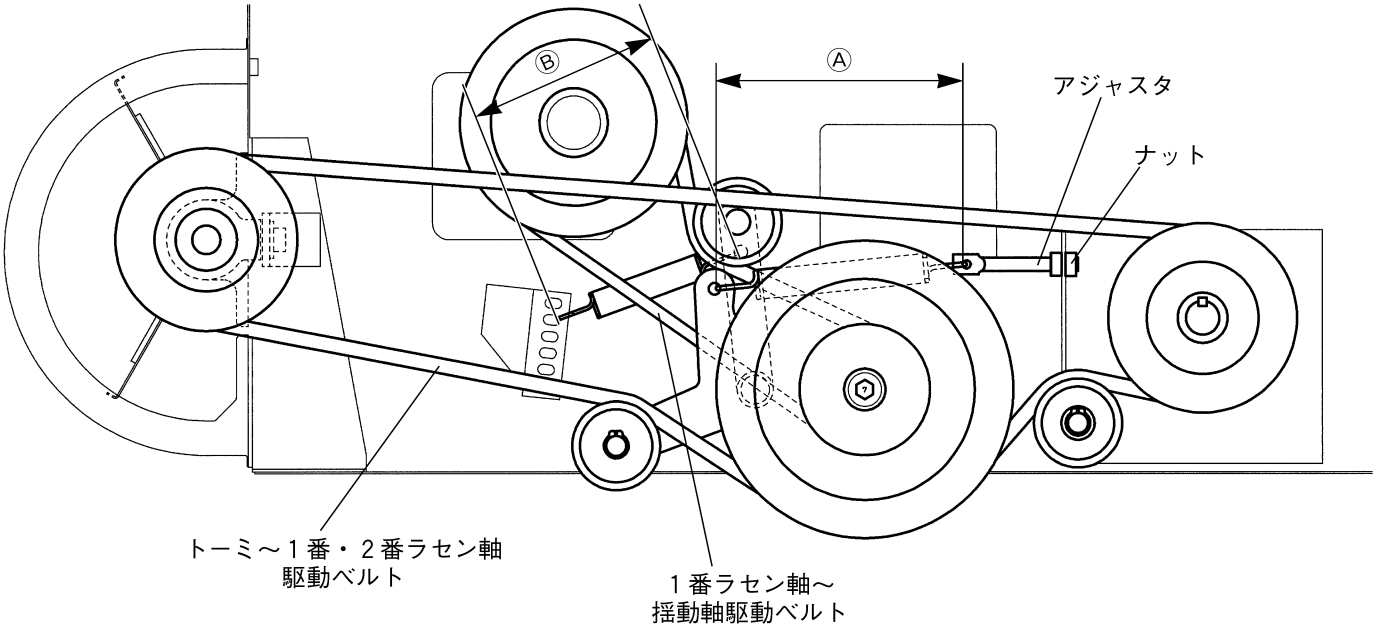
アジャスタのナットを緩めて調整します。調整後はナットを締付けます。

❸　点検

下図揺動軸駆動ベルトのⒷ部スプリング長さが **103～107㎜** になっていますか。

❹　調整

スプリング引掛け位置を変更して調整します。



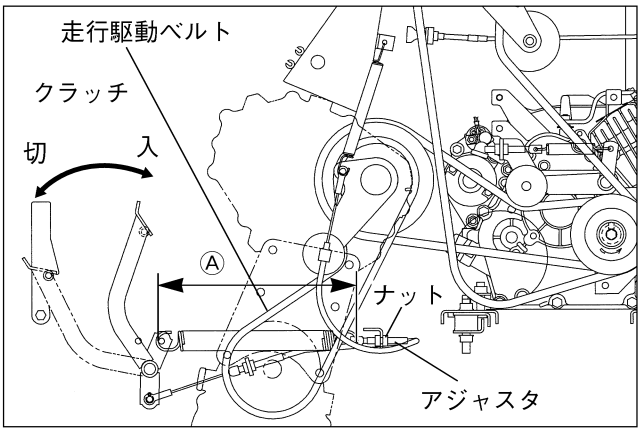
3．走行駆動ベルト

❶ 点検

走行クラッチ入時Ⓐ部のスプリング長さが 258～262㎜ になっていますか。

❷ 調整

アジャスタのナットを緩めて調整します。調整後はナットを締付けます。



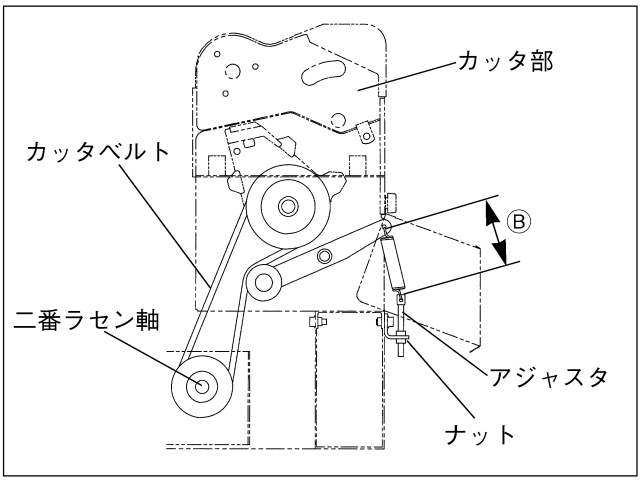
4．カッタベルト

❶ 点検

機体後方部にあるカッタベルトテンションスプリングの長さⒷ部が 104～110㎜ になっていますか。

❷ 調整

アジャスタのナットを緩めて調整します。調整後はナットを締付けます。



「チェンの点検・調整」

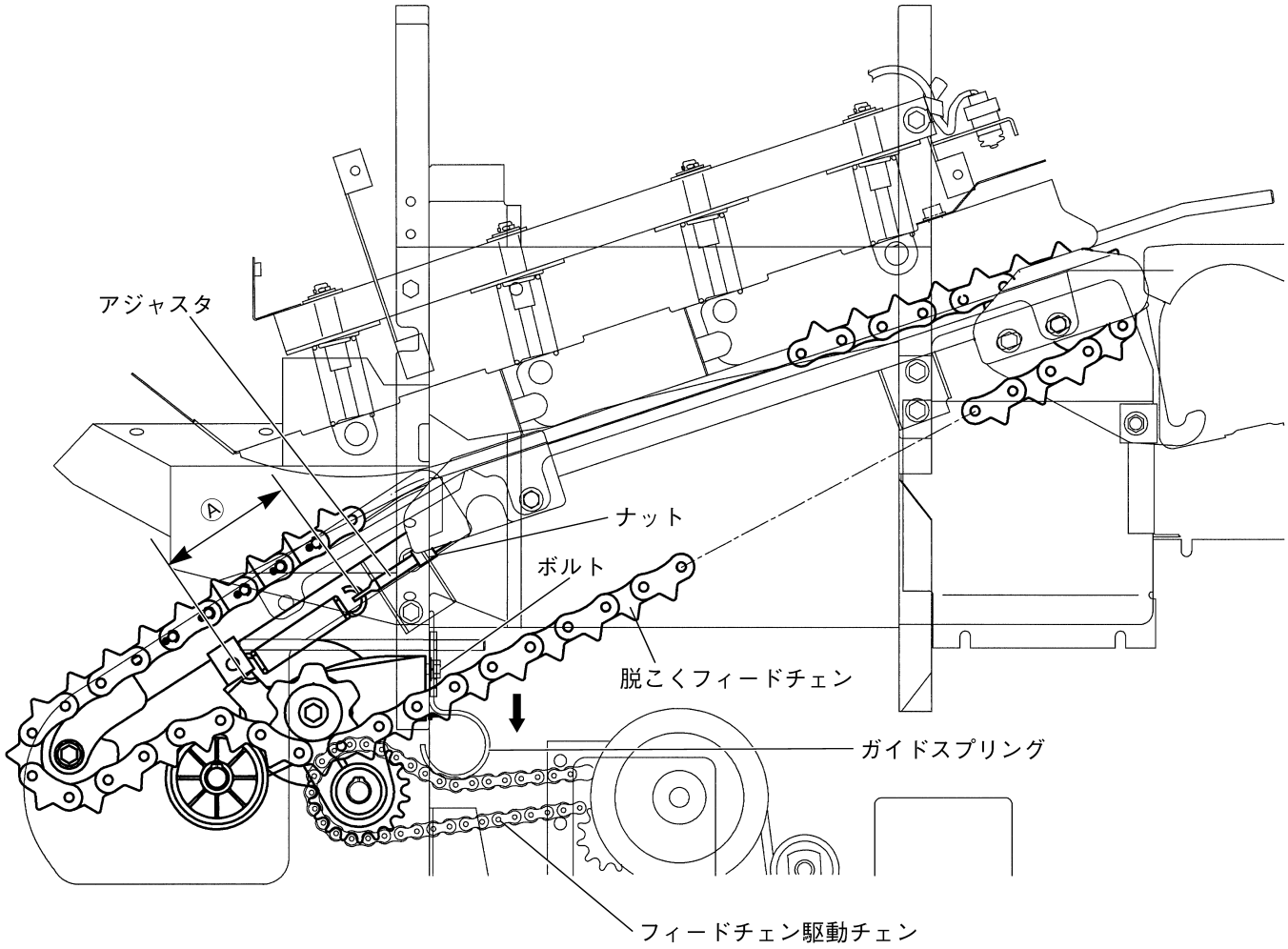
5．脱こくフィードチェン

❶ 点検

機体左側脱こく部入り口にある脱こくフィードチェンの張りを点検します。下図Ⓐ部スプリング長さが 109～111㎜ になっていますか。

❷ 調整

アジャスタのナットを緩めて調整します。調整後はナットを締付けます。



6．フィードチェン駆動チェン

ボルト２本をゆるめ，チェンにたるみが無い程度に，ガイドスプリングを下げてボルトを固定します。

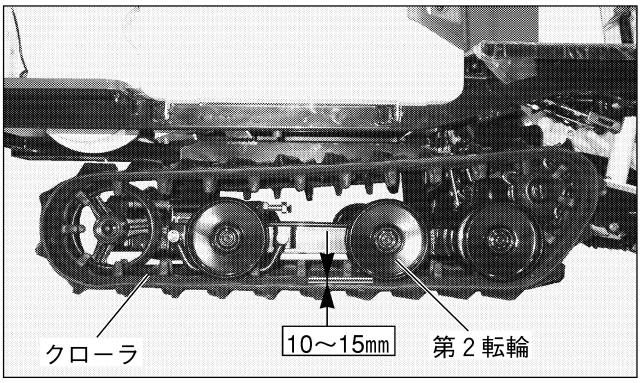
「クローラの点検・調整」

⚠警告　傷害事故防止のために

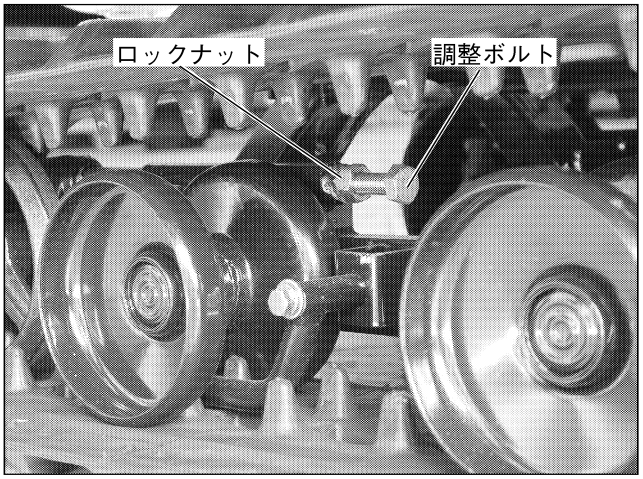
◆ガレージジャッキがめり込んだり移動したりしない平坦な場所で行なってください。
◆ガレージジャッキは１ｔ以上の仕様のものを使用してください。
◆ジャッキアップ（上げ・下げ）は機体のバランスを確認しながらゆっくり行い，必要以上の高さに上げないでください。
◆ジャッキアップしたら，固定脚をかませて落下，転倒防止をしてください。

7．クローラ

❶ **点検**……フレームをジャッキアップした状態で第２転輪とクローラのスキマが 10～15㎜ になっていますか。



❷ **調整**……ロックナットをゆるめ調整ボルトで調整します。
調整ボルトを締込むとクローラが張り，ゆるめるとクローラがゆるみます。



取扱いのポイント

- **トランスミッションケースに直接ガレージジャッキを掛けるとケースが破損する恐れがありますので，木片をかませて行なってください。**
- **（後）側のガレージジャッキはフレームを持上げてください。**

長期格納のしかた

・シーズンが終わったらつぎの作業をして格納します。

⚠警告 火災や傷害事故防止のために

◆回転部・刈取部（刈刃）などに付着した泥・ゴミ・ワラクズを取除くときは，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。

◆電気配線およびバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートや漏電でヤケドや損傷することがあります。点検し，傷んだ配線は交換，修理してください。

◆燃料ホースの老化や，傷による燃料もれがあると火災の原因になります。点検し，損傷したりもれている場合は交換してください。

◆エンジン，マフラ，燃料タンク，バッテリ周囲のワラクズを取除いてください。火災の原因となることがあります。

◆機械にシートカバーをかける時はエンジンが冷えてから行なってください。
エンジンが熱い時にシートカバーをかけると火災の原因になることがあります。

1．機械の掃除と洗浄

❶ 泥・ワラクズ・雑草などを取除き，汚れをきれいに水洗いし，乾いた布でふき取ります。

❷ 脱こく内部のゴミ・残留こく粒などを掃除口よりきれいに取除きます。

（「**脱こく内部の掃除**」の項（57，58ページ）を参照）

2．錆止めと注油

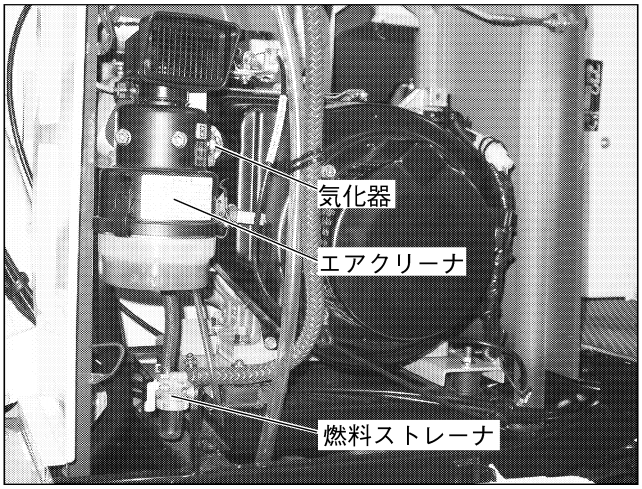
❶ 刈刃は掃除したのち，全面にグリスを塗布し錆止めをします。

❷ チェン・ワイヤ類にも注油をし，錆ないようにします。

❸ 塗装がはげた個所は補修塗装を行います。

3．エンジンの手入れ

エンジンの手入れを行う時は平坦な格納場所で駐車ブレーキをかけ，各クラッチレバーを《**切**》にしエンジンが冷えてから行います。

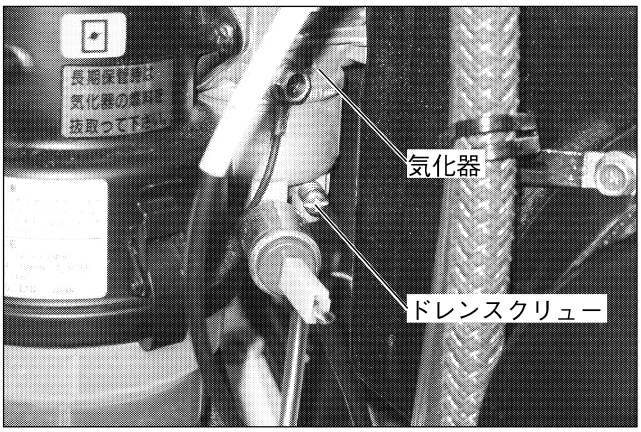


⑴ 各部の汚れを拭き取るとともにボルト等のゆるみを点検します。

⑵ エアクリーナを掃除し，オイルが汚れていれば交換します。

⑶ 燃料ストレーナを掃除し，燃料タンクを空にしておきます。

⑷ 燃料コックを《**C**》(閉) にして気化器のドレンスクリューをゆるめて，燃料を抜きます。



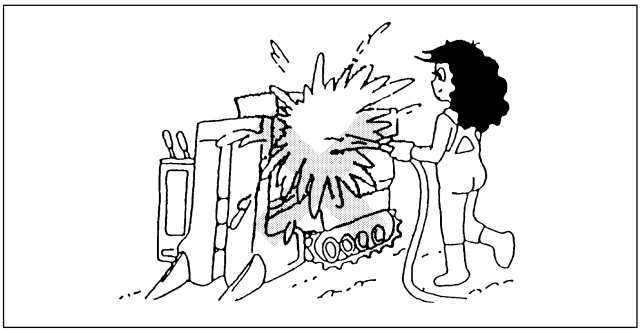
⑸ エンジンの点火プラグを外し，シリンダ内にガソリンエンジン用エンジンオイルを 5 ～10cc 注入し，走行クラッチペダルをいっぱい踏込んでスタータスイッチを 3 秒程度《 **始動**》位置にしてから《 **切**》にし，点火プラグを取付けます。

4．点検・整備

「**定期点検整備表**」の項を参考に該当する項目について点検・整備します。

取扱いのポイント

- **エンジン部・脱こく部・運転操作部・電装部には水をかけないでください。**



5．格　　納

機体の掃除・点検・整備を終えたら風通しのよい乾燥した屋内を選び，シートをかけて保管します。

❶ 「**クローラ**」の下には板等を敷いておきます。

❷ 各レバーは《**切**》・《**N**》(**中立**)の位置にします。

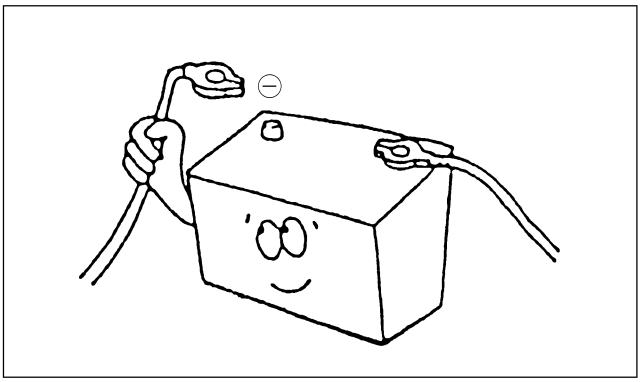
❸ 「**ナローガイド（サイドデバイダ）左**」を収納し，デバイダ先端に「**バンパ**」を取付けておきます。

❹ 刈取部を下げて，スタータスイッチの「**キー**」を抜取ります。

❺ 駐車ブレーキフックレバーをかけます。

❻　クローラに「**歯止め**」をします。

❼　「**バッテリ**」は取外して，日陰の乾燥した場所に保管するか，㊀側のコードをはずしておきます。１ケ月に１回，バッテリ補充電のためエンジンを約10分間回します。



取扱いのポイント

- **錆の発生を防止するため，塩分の強い貯蔵物や肥料とおなじ場所に格納するのはさけてください。**
- **エンジンを始動する前に，バッテリターミナル等保管する時に処置した項目を復元してください。**

６．再使用にあたって

格納後，はじめて使用するときには各部の点検を入念に行った後に運転します。

❶　エンジンを回す前に，バッテリターミナル等保管する時に処置した項目を正しく復元します。

❷　「**運転まえの点検**」を確実に行います。

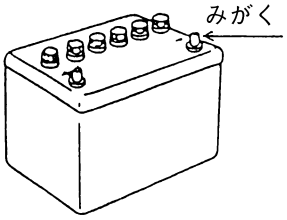
不調時の処置

・不調が発生したら，すぐにその原因を調べて処置をし故障を大きくしないようにします。
・原因がわからないときや修理調整しても再発するときは「**お買いあげ先**」に相談し点検を受けます。
・そのときは「**型式名**」,「**機械番号（製造番号）**」,「**エンジン番号**」をあわせてお知らせください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整は，機械を平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。点検処置は参照ページの安全上の項目をよく読んでから行なってください。

1．エンジン部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
セルモータが回らない	❶ 脱こく・刈取クラッチレバーが《**脱こく**》または《**刈取**》になっている。	●脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にする。	14
	❷ クラッチペダルをいっぱい踏込んでいない。	●走行クラッチペダルをいっぱい踏込みます。	9
	❸ バッテリターミナルのゆるみ。（接触不良）	●ターミナル部をよくみがき締付けます。	54〜57
	❹ メインヒューズが切れている。	●配線の短絡個所を点検し，修正後，メインヒューズを交換します。	17〜18
	❺ バッテリが放電している。	●バッテリを充電します。	54〜57

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
セルモータは回るが始動しない	❶　燃料タンクに燃料がない。	●燃料(無鉛ガソリン)を補給します。（燃料タンク容量……7.5Ｌ）	47
エンジンの馬力が出ない，または自然に止まる	❶　燃料系統に水・ゴミの混入。	●燃料系統の点検・掃除をします。	53
	❷　エアクリーナの目詰まり。	●掃除またはエアクリーナエレメントを交換します。	53
	❸　エンジンオイルの不良（汚れ）または不足。	●指定のオイルを補給または交換します。	48

2．走行・運転操作部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
マルチステアリング(昇降，旋回)レバーを操作しても，刈取部が上昇・下降しない	❶　油圧固定レバーが《**油圧固定**》位置になっている。	●油圧固定レバーを《**解除**》にする。	13
	❷　カウンタケースのオイルが少ない。	●検油栓までオイルを補給する。	50

3．電気・自動制御部

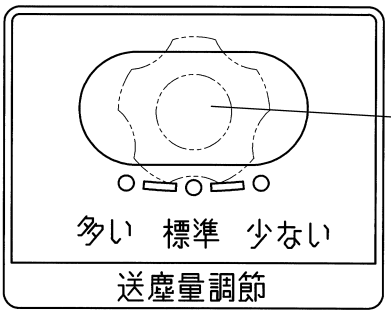
不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
前照灯・ホーン・バックブザー・方向指示器が点灯又は作動しない	❶　《**ランプ・計器**》ヒューズが切れている。 ❷　電球が切れている。	●ヒューズ（15A）を交換します。 ●電球を交換します。	17～18
こぎ深さ自動制御が作動しない	❶　《**こぎ深さ**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 こぎ深制御ヒューズ……15A	17～18
	❷　刈取部のこぎ深センサにワラクズがたまっている。	●ワラクズを取除きます。	43

4. 刈　取　部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
刈取部で「カタカタ音」がしてチェンが動かない	❶　搬送通路に詰まりがある。	●つぎの操作手順で処置します。 ①脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にします。 ②エンジンを停止します。 ③刈取搬送部の詰まり個所を取除きます。 ④エンジンを始動します。 ⑤脱こく・刈取クラッチレバーを《**刈取**》にして確認します。 **取扱いのポイント** **●デバイダが土中に突っ込んで，株抜けしないようにしてください。搬送詰まりの原因になります。**	37,38
刈取部が動かない	❶　刈取クラッチワイヤの調整不良。	●刈取クラッチワイヤの調整をします。	―
刈株の長さにムラがある	❶　刈刃の注油不足。	●刈刃に十分注油します。	51
	❷　刈刃の調整不良。(刈刃のスキマが広い)	●調整ライナでスキマを調整します。	60
	❸　刈刃の摩耗。	●刈刃を交換します。	60
	❹　マルチステアリング(昇降,旋回）レバーの操作不良。	●刈取り条にそって運転するときは，急激な操作はさけます。	32～35
刈取部から脱こく部への搬送引きつぎが悪い	❶　搬送通路に雑草・ワラクズ・泥等が溜まっている。	●搬送通路の雑草・ワラクズ・泥等を取除きます。	―
	❷　「深こぎ」または「浅こぎ」となっている。	●適正こぎ深さで作業をします。 ●こぎ深さ自動スイッチを「入」にします。	42～43

5. 脱　こ　く　部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
脱こく搬送詰まりでエンジンが停止した	❶　脱こくフィードチェン終端に詰まりがある。	●つぎの手順により処置します。 ①脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にします。 ②フィードチェン終端やカッタ部の詰まりを取除きます。 ③カッタベルトの張りを点検・調整します。 ④エンジンを始動します。 ⑤脱こく・刈取クラッチレバーを《**脱こく**》または《**刈取**》にして確認します。	40
能率が上がらない（こぎ室内で「ゴトゴト音」がする）	❶　こぎ胴回転が規定より低い。	●刈取り作物にあった回転になっているか確認し回転計を見て，《**イネ，ムギ**》の各マークの範囲内になるようにして使用します。	31
	❷　ベルトがスリップしている。	●脱こく入力ベルトを張ります。 ●ラセン駆動ベルトを張ります。 ●揺動駆動ベルトを張ります。 ●カッタベルトを張ります。	65～67
	❸　こぎ深さが「**深こぎ**」のため，こぎ室内のワラクズの発生が多い。	●こぎ深さを「**穂先マーク**」位置に合わせます。	42，43
	❹　作物が雨・露のためにぬれている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除をします。	61
	❺　刈り取り時期が早く、青い作物を刈り取っている。	●刈り取り適期を待って刈取ります。 ●作業速度を下げます。	12

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
能率が上がらない（こぎ室内で「ゴトゴト音」がする）	❶　刈取り速度が早すぎる。	●変速レバーで速度を下げます。	**12**
	❷　送じんがスムーズでない。  	●送じん量調節ダイヤルを≪**多い**≫側の位置にします。 送じん量調節ダイヤル	**36**
	❸　ワラ切カマ(切刃)が切れない。	●ワラ切カマ(切刃)を交換します。	**61**
	❹　揺動フィンの設定位置を誤って使用している。	●作業条件に合わせてフィンの調整をします。	**37**
三番ロスが多い	❶　こぎ深さが「**深こぎ**」のため、こぎ室内のワラクズ発生が多い。	●こぎ深さを「**穂先マーク**」位置に合わせます。	**42〜43**
	❷　能率のあげすぎにより，揺動流板にワラクズ等が停滞気味。	●脱こく能力以上の高能率作業であり，作業速度下げて作業します。	**12**
	❸　作物が雨・露のためにぬれている。(受網の目詰まり)	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除をします。	**61**
	❹　刈取り時期が早く青い作物を刈取っている。	●刈取り適期まで待って刈取ります。 ●作業速度を下げます。	**12**
	❺　揺動フィンの設定位置を誤って使用している。	●作業条件に合わせてフィンの調整をします。	**37**

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
こぎ残しが多い	❶　こぎ深さが浅すぎる。	●こぎ深さを「**穂先マーク**」位置に合わせます。	42〜43
	❷　こぎ胴の回転が規定より低い。	●刈取り作物にあった回転になっているか確認し回転計を見て《**イネ，ムギ**》の各マークの範囲内になるようにして使用します。	31
	❸　デバイダで作物を押し刈りしている。	●押し刈りしないように，条間に沿ってデバイダを合わせます。 ●条合わせは，昇降，旋回レバーをこきざみに操作する。(強く操作すると，「**ブレーキ**」がきき，条を外れたり株元を押し倒したりし，高刈りとなります。) ●雑草・ワラクズの詰まりを除去します。 ●横刈りをするとき，刈幅いっぱいの刈取りは行わない。	32〜35

6．ワラ処理部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
切れ味が悪く，馬力をとる	❶　カッタ刃の摩耗によりカッタの切れ味が悪い。	●刃を交換します。	63, 64
	❷　排ワラの搬送姿勢が悪い。	●刈取速度を適正にします。 ●こぎ深さ位置を適正にします。	12 42〜43
	❸　ワラがぬれているか，雑草が多いためカッタに負担がかかる。	●刈取速度を適正にします。	12
排ワラ姿勢が悪い（カッタ部での搬送姿勢が悪い）	❶　こぎ深さが適正でない。	●こぎ深さ位置を適正にします。	42〜43
	❷　刈取速度が遅く搬送姿勢が悪い。	●刈取速度を適正にします。	12

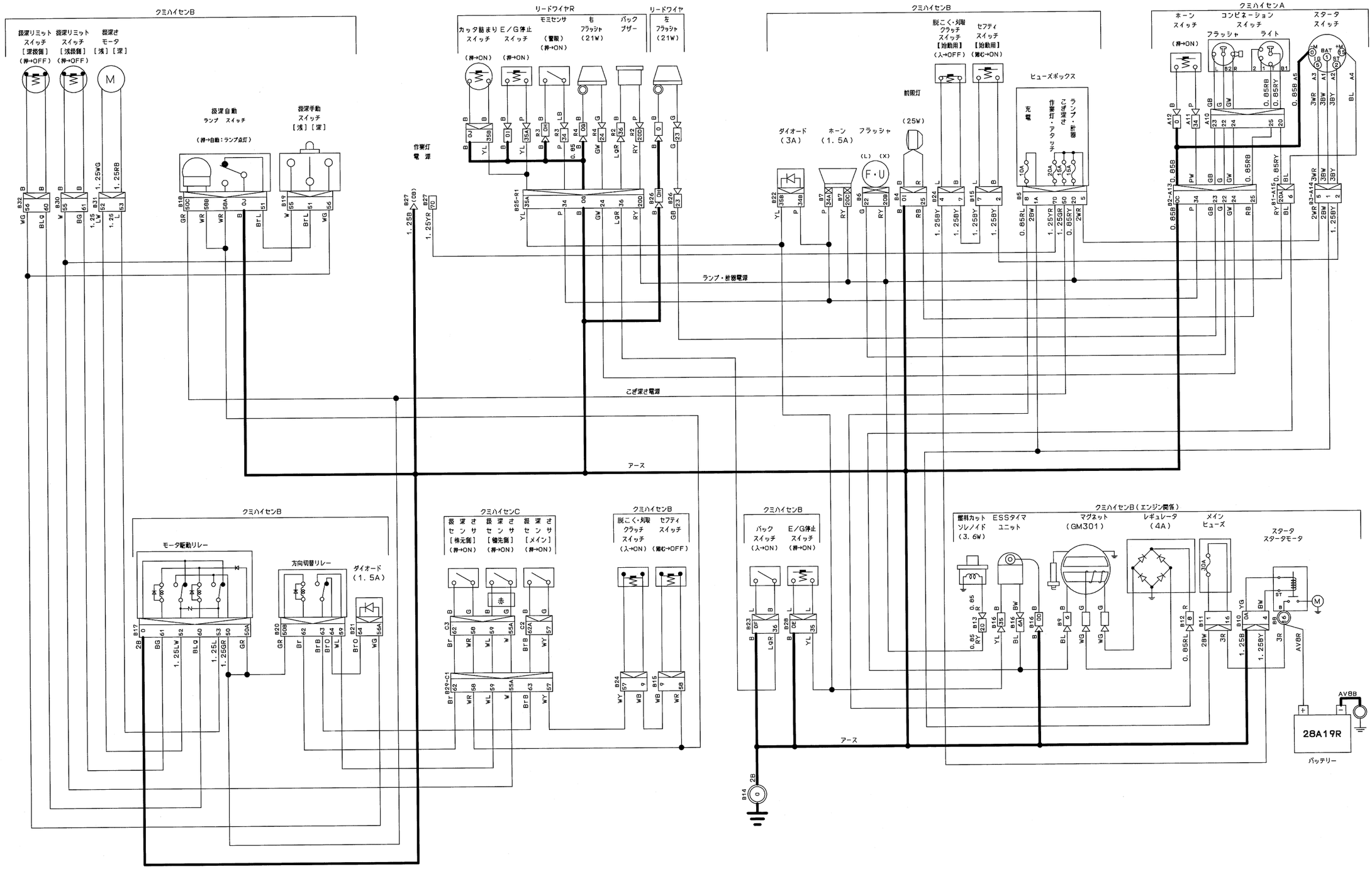
付　　表

1．主要諸元

型式名				VM7	
区分				KS	WKS
機体寸法（格納時）	全長	(mm)		2,300	
	全幅	(mm)		1,300	
	全高	(mm)		1,300	
機体質量（重量）		(kg)		440	455
エンジン	型式名			三菱GM301型	
	種類			空冷４サイクルガソリンエンジン	
	総排気量	(L {cc})		0.296 {296}	
	出力／回転速度	(kW{PS}/rpm)		5.9 {8.0} ／1,800	
	使用燃料			無鉛ガソリン	
	燃料タンク容量	(L)		7.5	
	始動方式			セルモータ式	
	バッテリ	(V·Ah)		12・21	
走行部	クローラ	幅×接地長	(mm)	230×710	280×710
		中心距離	(mm)	670	
		平均接地圧	(kPa{kgf/cm²})	13.2 {0.135}	11.2 {0.114}
	変速方式			ギヤシフト	
	変速段数		(段)	前進3・後進1	
	走行速度（m/s）	前進		0.2　0.4　0.9	
		後進		0.2	
刈取部	刈取り条数		(条)	2	
	デバイダ先端間隔		(mm)	700	
	刃幅		(mm)	600	
	刈高さ範囲		(mm)	40～150	
	こぎ深さ調節方式			電動式（自動・手動併用）	
脱こく部	脱こく方式			下こぎ軸流式	
	こぎ胴	径×幅	(mm)	φ365×330	
		回転速度	(rpm)	559	
こく粒処理部	こく粒処理方式			樋袋詰め方式	
	吐出口数		(口)	1＋予備1	
排ワラ処理装置				シリンダ形カッタ	
適応作物全長			(mm)	600～1,200	
倒伏適応性			(度)	追刈：85°以下，向刈：70°以下	
作業能率			(分/10a)	90～150	

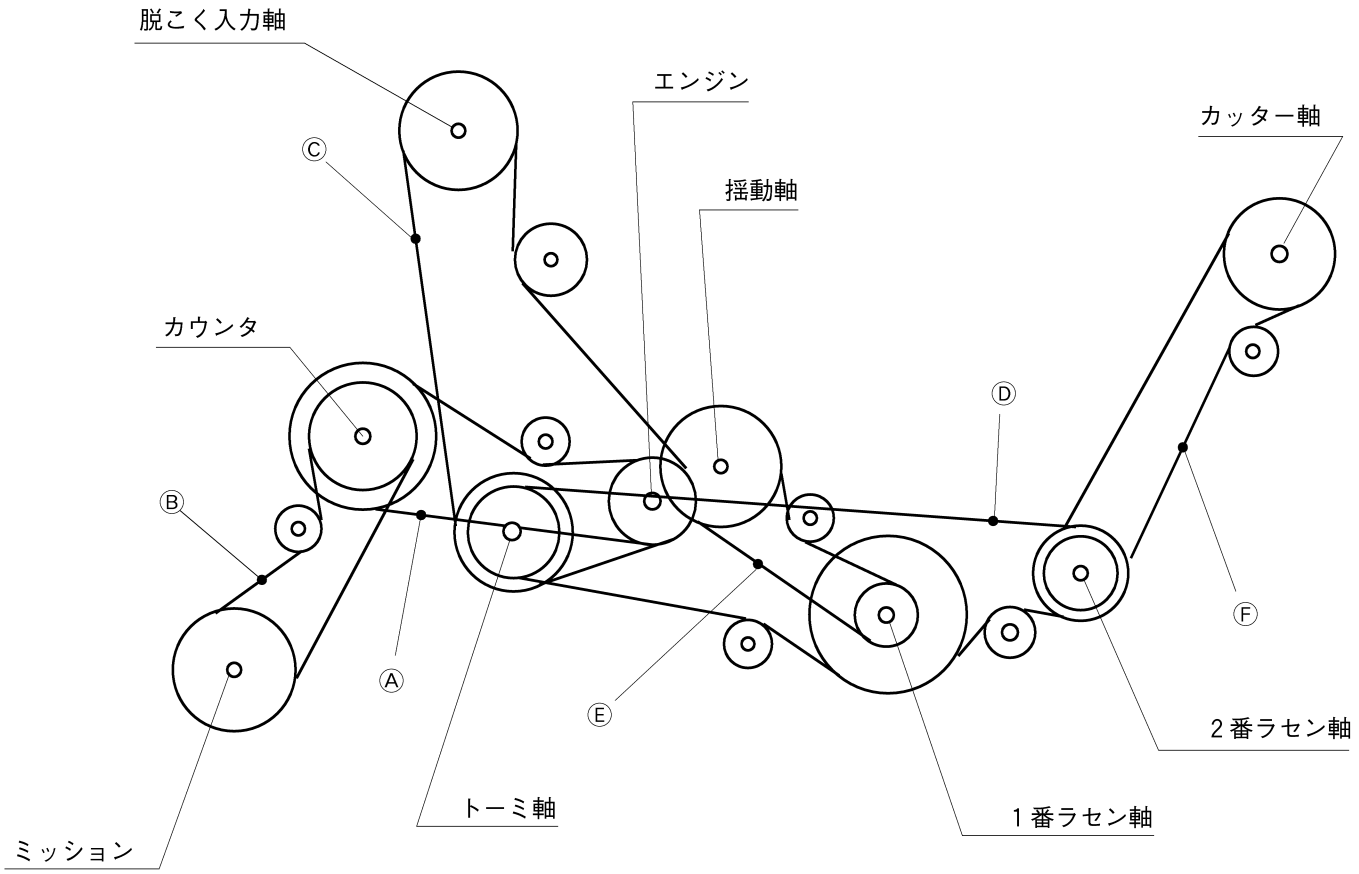
・この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

2. 電気配線図


クミハイセンB
扱深リミット スイッチ [深扱側] (押→OFF)
扱深リミット スイッチ [浅扱側] (押→OFF)
扱深さ モータ [浅] [深]
扱深自動 ランプ スイッチ (押→自動：ランプ点灯)
扱深手動 スイッチ [浅] [深]
作業灯 電源
リードワイヤR
カッタ詰まり スイッチ (押→ON)
E/G停止 スイッチ (押→ON)
モミセンサ (警報) (押→ON)
右 フラッシャ (21W)
バック ブザー
リードワイヤ 左 フラッシャ (21W)
クミハイセンB
脱こく・刈取 クラッチ スイッチ 【始動用】 (入→OFF)
セフティ スイッチ 【始動用】 (離む→ON)
ヒューズボックス
前照灯 (25W)
ダイオード (3A)
ホーン (1.5A)
フラッシャ
クミハイセンA
ホーン スイッチ (押→ON)
コンビネーション スイッチ フラッシャ ライト
スタータ スイッチ
ランプ・計器電源
こぎ深さ電源
アース
クミハイセンB
モータ駆動リレー
方向切替リレー
ダイオード (1.5A)
クミハイセンC
扱深さセンサ [稈元側] (押→ON)
扱深さセンサ [穂先側] (押→ON)
扱深さセンサ [メイン] (押→ON)
クミハイセンB
脱こく・刈取クラッチ スイッチ (入→ON)
セフティスイッチ (離む→OFF)
クミハイセンB
バック スイッチ (入→ON)
E/G停止 スイッチ (押→ON)
クミハイセンB（エンジン関係）
燃料カット ソレノイド (3.6W)
ESSタイマ ユニット
マグネット (GM301)
レギュレータ (4A)
メイン ヒューズ
スタータ スタータモータ
AV8B
28A19R
バッテリー

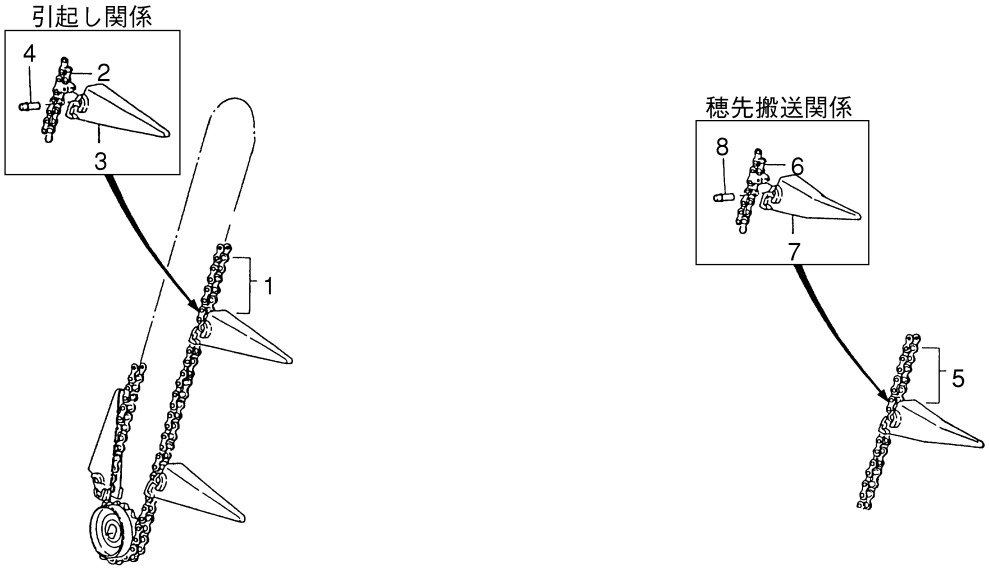
3．ベルト一覧表

記号	伝動系統	本数	部品番号	ベルトサイズ	ベルト名称
A	エンジン～カウンタ	1	0852 1200 041	SB41	カウンタ駆動ベルト
B	カウンタ～ミッション	1	0852 1200 038	SB38	走行駆動ベルト
C	エンジン～脱こく入力軸 トーミ軸	1	0852 1200 056	SB56	脱こく入力ベルト
D	トーミ軸～1番ラセン軸 2番ラセン軸	1	0852 1000 062	SB62	ラセン駆動ベルト
E	1番ラセン軸～揺動軸	1	0851 1000 032	SA32	揺動駆動ベルト
F	2番ラセン軸～カッタ軸	1	0852 1000 037	SB37	カッタベルト



4. 主な消耗部品

1. 爪（タイン）関係



No.	部品名称	部品番号	備考
1	チェンアッセンブリ（2組）	3556 4437 005	引起こし用，爪（タイン）つき
2	チェン（2本）	3556 4438 000	
3	ツメ（タイン）（20個）	3555 4428 002	
4	ツメ(タイン)トリツケピン（20個）	3523 4428 000	
5	チェンアッセンブリ（1個）	3577 5221 000	穂先搬送用，爪（タイン）つき
6	チェン 77（1本）	3577 5222 000	
7	ツメ（タイン）（8個）	3543 7765 001	
8	ツメ(タイン)トリツケピン（8個）	3523 4428 000	

・ご用命のときは，「部品番号」をお知らせください。

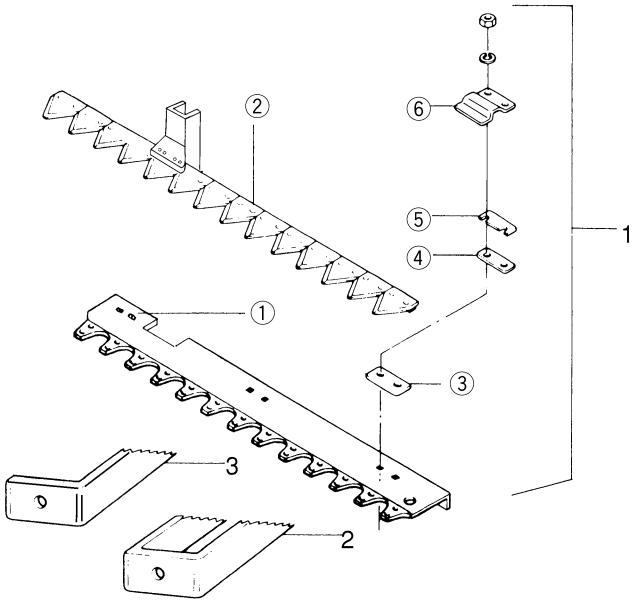
2. ヒューズ，ランプ



No.	部品名称	部品番号	備考
1	メインヒューズ	0980 1003 005	30A
2	ヒューズ	0980 1001 505	15A
3	ヒューズ	0980 1001 005	10A
4	ヒューズ	0980 1002 005	20A
5	前照灯バルブ	3555 0901 300	12V27W
6	方向指示バルブ	0980 8122 104	12V21W

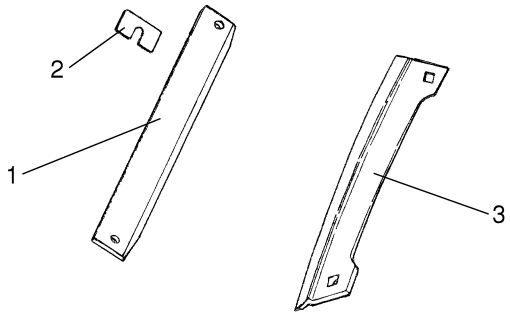
・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

3. 刈刃・カマ（切刃）関係



No.	部品名称	部品番号	備考
1	カリハアッセンブリ	3577 4352 000	
①	ウケハアッセンブリ	3577 4353 000	
②	ナイフバーアッセンブリ	3577 4355 000	
③	マサツイタ（3個）	3690 4914 000	
④	ライナ	3518 4357 000	
⑤	シム	3690 4912 000	t＝0.2㎜
⑥	カリハオサエ（3個）	3690 4911 000	
2	ワラキリカマ（切刃）（2個）	3704 7321 000	
3	ワラキリカマ（切刃）（1個）	3544 7223 000	

4. カッタ関係



No.	部品名称	部品番号	備考
1	コテイバ	3577 8929 000	
2	ライナ	3577 8931 000	t＝0.2㎜
3	カイテンバ（2個）	3577 8927 000	

5．アタッチメント（別売り）

・次のアタッチメントを基本作業機または部品として準備しておりますのでご利用ください。

	型式（部品番号）	品　　名	備　　考
基本作業機・部品	SP－M7D	スーパーデバイダ	１連，ワンタッチ着脱 自動チェン張り，ウェイト付
	SM7HS	搬送装置	電動搬送
	S－M7DHS	ドロッパ（搬送付）	搬送装置＋重量感知集束
	S－M7D	ドロッパ（単品）	重量感知集束
	MD－M7	補助モミ受台	１袋積載，折りたたみ式

6．潤滑油について

1．エンジンオイルについて

・次の三菱純正オイルのご使用をお奨めします。

メーカ		商品名
純正油		マルチSTOUオイル（SAE10W−30）
全農	ガソリン用	クミアイエンジンオイル
日石三菱石油	ガソリン用	ゴールドエンジンオイル（SAE20W）
		ゴールドエンジンオイル（SAE30）

・またはＡＰＩサービス分類ＳＤ級以上SAE30をご使用ください。

・エンジンオイルは温度条件に合わせてご使用ください。

気温℃	−10	0	10	20	30
エンジンオイル	マルチSTOU・SAE10W－30				
	SAE20W		SAE30		

・マルチＳＴＯＵオイルまたはＳＡＥ10Ｗ－30は気温20℃以上でご使用の場合は，オイルの消費量が増すことがありますので，**「運転まえの点検」**を行なってください。

2．ギヤオイルについて

・次の三菱純正オイルのご使用をお奨めします。

メーカ名	商品名
三菱農機	マルチＳＴＯＵオイル（SAE10W−30）
	マルチＧＢオイル（SAE80W）
全農	クミアイギヤオイル（SAE80W）
日石三菱石油	ダイヤモンドハイポイドギヤオイル（SAE80W）
	ダイヤモンドハイポイドギヤオイル（SAE140）
	ダイヤモンドスーパーHPギヤオイル（SAE90・GL−5級）

3．三菱農機（純正油）マルチオイル

・マルチＳＴＯＵオイルは１種類でエンジンオイル又はギヤオイルとして１年中ご使用いただけるオールシーズンタイプです。

・マルチＧＤオイルはエンジン専用オイルです。

・マルチＧＢオイルはギヤおよび湿式ブレーキの特性を考えて開発された，ギヤ（Ｇ）と湿式ブレーキ（Ｂ）専用オイルです。

・マルチSHPギヤオイルは，ギヤ専用オイルです。

・お買い求めは，弊社販売店で取扱っていますのでご相談ください。



性状＼品名		マルチSTOUオイル	マルチGDオイル	マルチGBオイル	マルチSHPギヤオイル
密度　15℃ g／cm³		0.881	0.872	0.893	0.900
引火点　℃		210	229	230	230
流動点　℃		−37.5	−26.1	−35.0	−22.5
動粘度cSt	@ 40℃	62.0	67.5	78.4	188.5
	@100℃	10.8	11.4	9.8	17.5
粘度指数		168	163	104	100
ＡＰＩサービス分類		SD／CD／GL－４	SH／CD	GL－４	GL－５
ＳＡＥ粘度番号		10W－30	10W－30	80W	90
荷姿		ドラム・20Ｌ缶	18.9Ｌ缶	20Ｌ缶	ドラム・20Ｌ缶

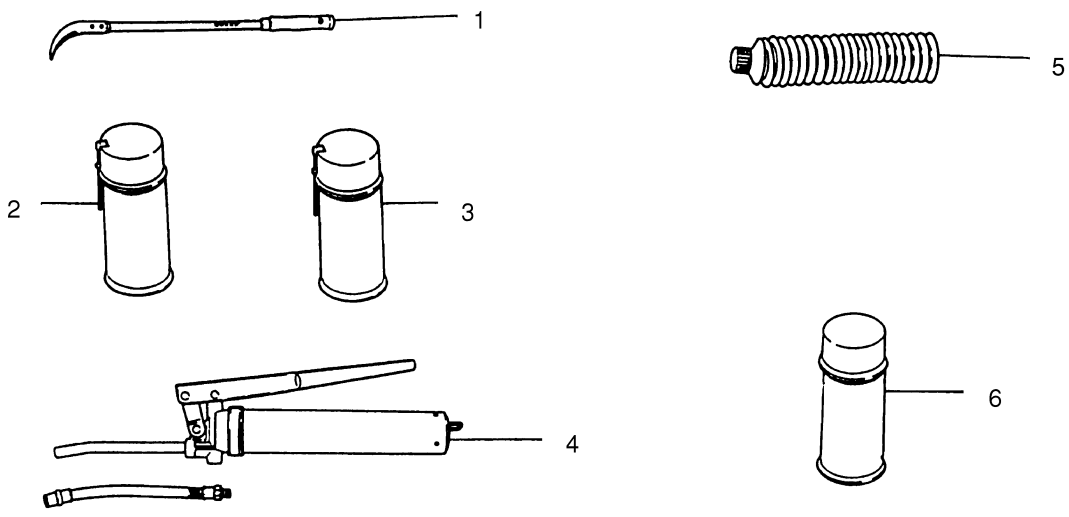
取扱いのポイント

- **マルチGBオイル，マルチSHPギヤオイルはエンジンオイルとしては使用できません。**

7．コンバイン関連商品

・代表的なものを選んでご紹介します。

No.	商　品　名	商　品　番　号	
1	万能鎌（ノコ刃）	S309DX	土，ワラの除去に最適
2	ダイヤスプレー（防錆・潤滑）	K1－420DX	金属部品の防錆，潤滑
3	スプレーグリス	SP300	〃
4	グリスポンプ	N850－666	フレキシブルパイプ付
5	グリス	NMP400	グリスポンプ詰め替え用
6	カラースプレー（赤）	0975　0000　660	
	〃　（白）	0975　0000　650	補修用塗料
	〃　（黒）	0975　0000　470	
	〃　（ダークグレー）	0975　0000　120	



・ご用命のときは，「商品番号」・「商品名」をお知らせください。

8．用語解説

取扱説明書に使用している用語の意味は次の通りです。

ア行

エアクリーナエレメント……空気清浄器用のフィルタです。

カ行

コンビネーションスイッチ……前照灯と方向指示灯の操作機能を１つにまとめたスイッチです。

サ行

送じん量調整ノブ……こぎ室のワラクズの流れを調整するレバーです。

タ行

デバイダ……分草板のことをいいます。

トルクリミッタ……作業中にワラなどが巻付き異常な力が発生したとき，機械の破損を未然に防ぐ安全装置です。

ナ行

ナローガイド(サイドデバイダ)……刈取る作物を分ける刈取部誘導稈です。

ハ行

バンパ……デバイダ先端に取付ける危険防止用の保護板です。

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号(製造番号)は…？

型　　式

機械番号(製造番号)

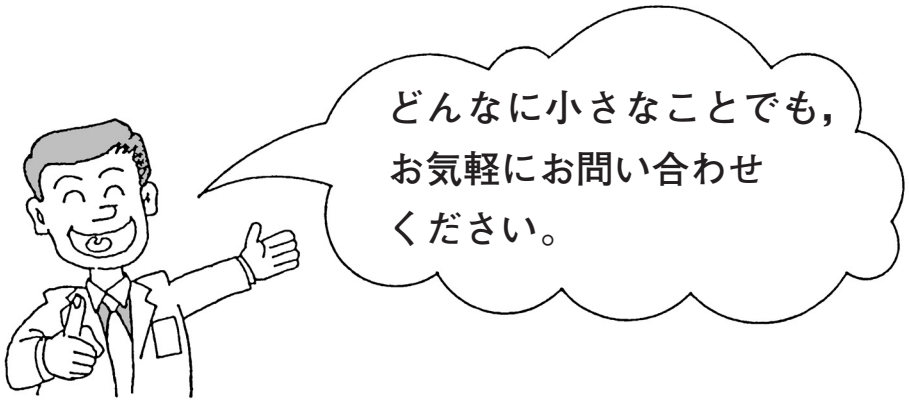
●ご使用状況は…？

(何速で，どんな作業のとき)

●どのくらい使用されましたか？

(約 _____ アール使用後)

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



(ご相談窓口) お買いあげ先

TEL　　(　　)